

令和 2 年度実施
西条市の教育に関するアンケート調査
報告書（市民向け調査）

令和 3 年 2 月

西条市経営戦略部政策企画課

目 次

1 本調査の概要	1
2 基本情報	2
(1) 男女別	2
(2) 年齢.....	2
(3) お住まいの地区.....	3
3 学校教育について	4
(1) 小学校がどのようなところであるべきか.....	4
(2) 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度	7
(3) (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策.....	11
(4) 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの.....	14
(5) 未来の小学校にお子様を通う場合の考え方.....	18
4 図書館について	21
(1) 図書館の利用状況.....	21
(2) 図書館の利用環境に対する満足度.....	23
(3) 主に利用している図書館	26
(4) 図書館を利用した主な目的	28
5 公民館について	35
(1) 公民館の利用状況.....	35
(2) 公民館の利用環境に対する満足度.....	37
(3) 公民館活動を通じて身に付けた知識・技術.....	40
(4) 公民館に期待する事業.....	43
6 地域文化・歴史文化について	49
(1) 芸術文化に対する興味関心	49
(2) 芸術文化に触れる機会の充実度	52
(3) ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度.....	57
(4) ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度.....	60
(5) ふるさとの先人に対する知識.....	62
7 参考資料（アンケート用紙）	68

1 本調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、令和2年度が本市の教育行政における根本的な方針となる「西条市教育大綱」を改訂する年度にあたるため、市民の皆さまのご意見を将来の西条市の教育行政の方向性に反映させることを目的として実施しました。

(2) 調査の方法と実施時期

令和2年10月1日現在で本市に住民登録をしている20歳以上の方から1,500人を無作為に抽出して12月上旬に調査票を郵送し、12月7日までに郵便ポストへ投函していただく方法を採用しました。また、調査票の記入は必ず本人が回答するよう注意書きを入れています。

(3) 調査票の回収状況

最終配布数は、1,496通（宛先不明4通）となりました。

そのうち、回収した調査票は675通となり、最終回収率は45.12%となりました。

本調査の信頼度を95%とすると383票の標本サイズが必要となりますが、本調査は十分なサンプルサイズを確保しており、より信頼性が高い結果であるということが言えます。

なお、本調査の母集団は西条市民ですが、男女別、年齢別などの属男女別にみると、本調査における回答者の構成比率と母集団の構成比率に違いが生じています。しかしながら、本調査では属男女別のクロス集計などを多岐にわたって実施することとしますので、調査結果の構成比を母集団構成比に変換する「ウエイトバック集計」は採用しないこととします。

(4) 調査票の内容

送付した調査票は文末に掲載しています。

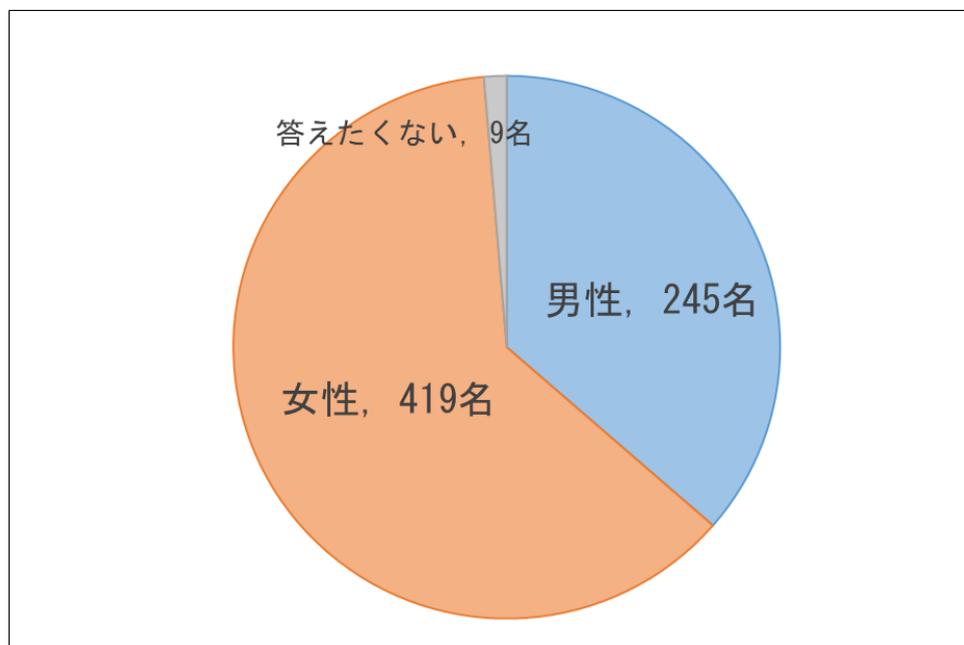
(5) その他

各図表のデータ処理にあたりましては、当該質問項目に対して無回答であった方を除いて処理を行っていますので、必ずしも合計値と回収した調査票数が一致するとは限りません。また、構成比率につきましても、それぞれの項目ごとの構成比を小数点以下第2位で四捨五入していますので、必ずしも構成比の合計値が100%になるとは限りません。

2 基本情報

(1) 男女別

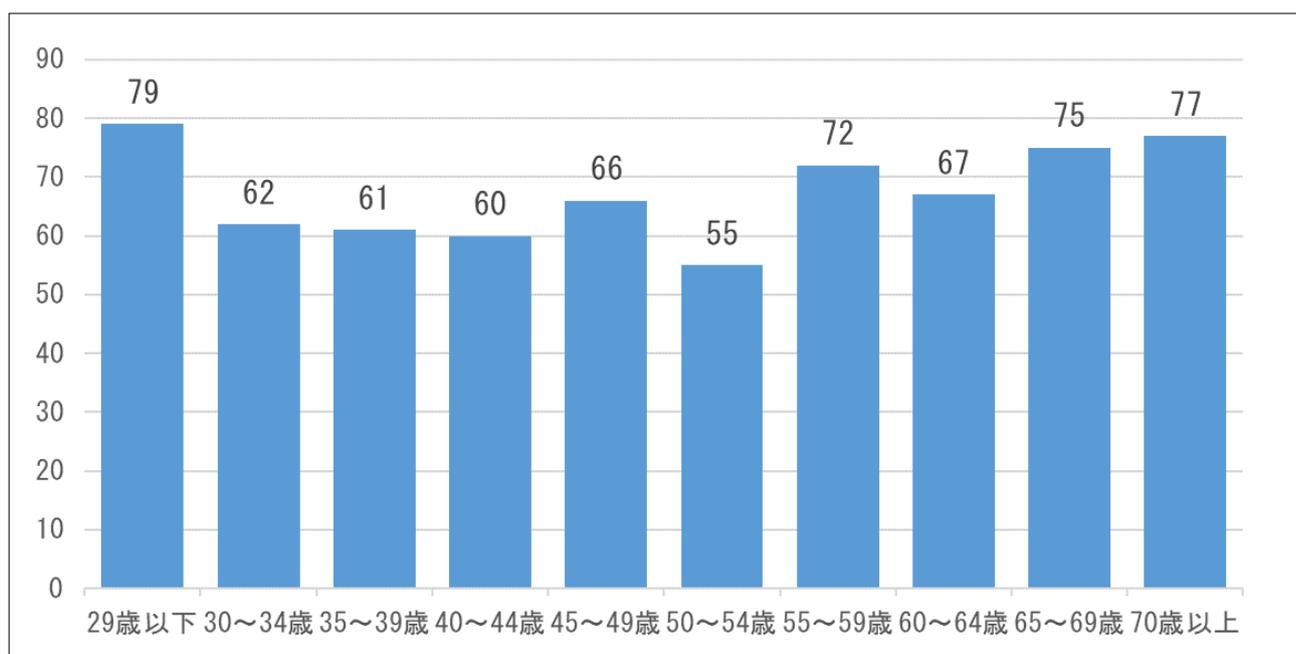
図表 2-1 によると、回答者のうち男性は 245 名、女性は 419 名、答えたくないが 9 名となりました。本市の人口構成や令和元年度に実施したまちづくり市民アンケートの結果と比較し、女性からの回答が多い結果となったことから、本調査は比較的女性の意思を反映していると言えます。



図表 2 - 1 回答者の男女別 (N = 6 7 3)

(2) 年齢

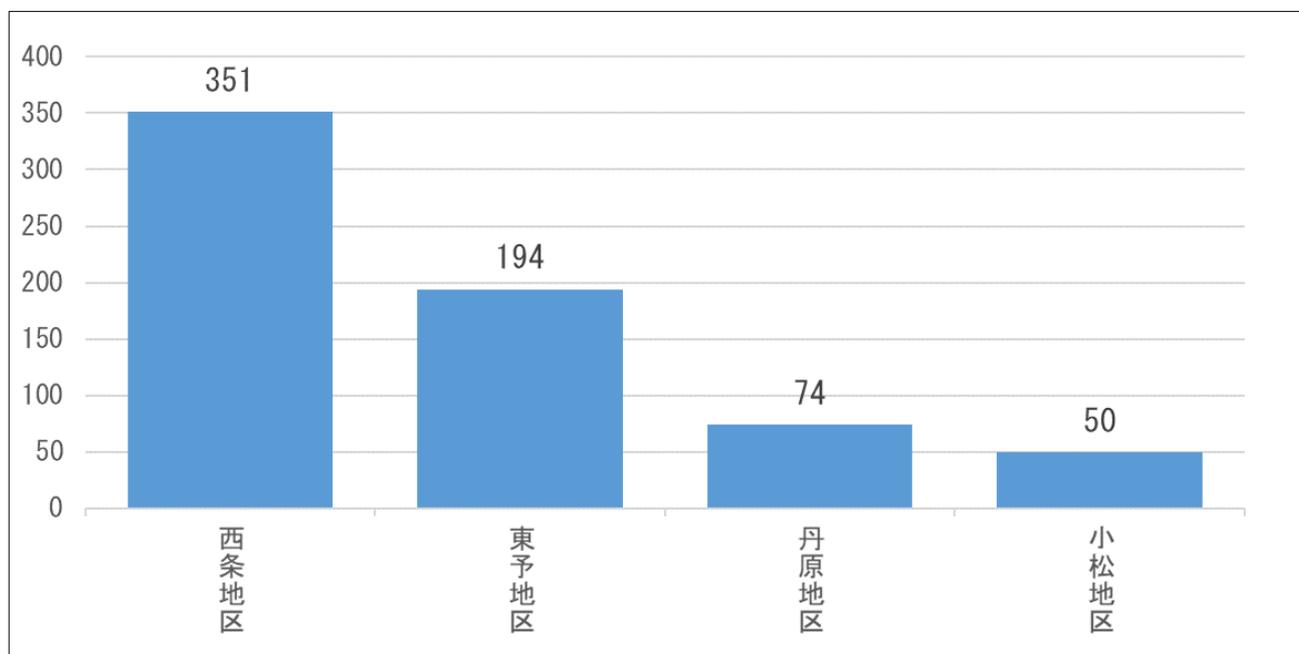
図表 2-2 によると、本市の人口構成や令和元年度に実施したまちづくり市民アンケートの結果と比較して若い年齢の方からの回答が多くなったことから、本調査は比較的若い年齢の方の意思を反映していると言えます。



図表 2 - 2 回答者の年齢 (N = 6 7 4)

(3) お住まいの地区

図表 2-3 によると、回答者は西条地区が最も多く、次いで東予地区、丹原地区、小松地区となりました。本市の人口構成と比較し、本調査は概ね市内人口分布に即した意見が反映されています。



図表 2 - 3 回答者のお住まいの地区 (N = 6 6 9)

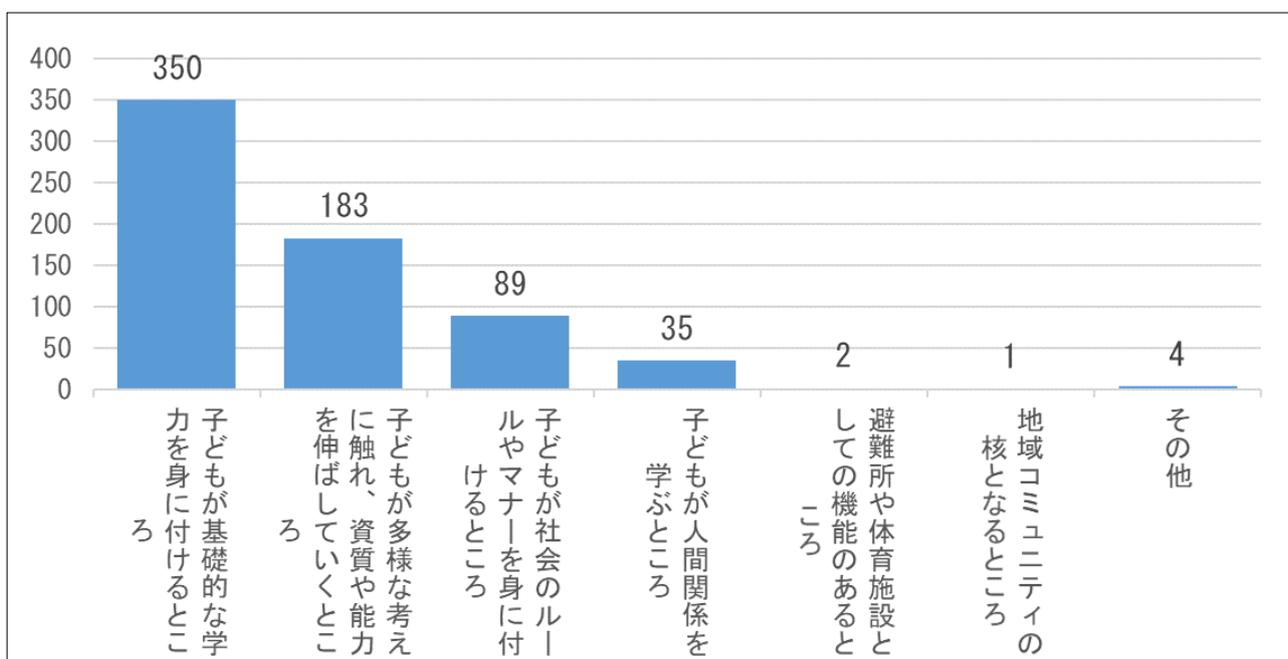
3 学校教育について

(1) 小学校がどのようなところであるべきか

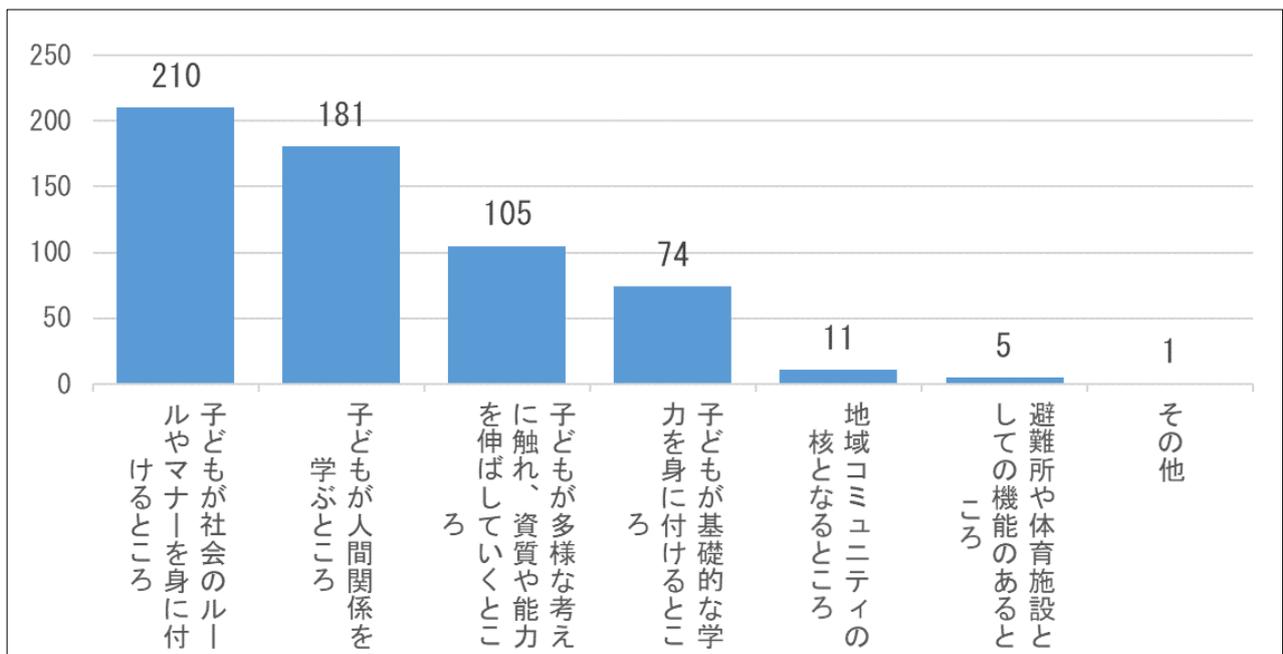
【結果概要】

- 小学校が子どもの基礎学力や資質向上を伸ばしていく場としてあるべきと感じている方が多い一方で、地域コミュニティや避難所など、小学校としての副次的機能を期待する方が少ない傾向がみられました。(図表 3-1、3-2 参照)
- 男女別、お住まいの地区別、お住まいの地域の小学校規模別に大きな差異は無く、小学校が「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」だと最も感じている比率が最も高くなりました。(図表 3-3、3-5、3-6 参照)
- 年齢別に見た場合、子どもの基礎学力を身に付ける場所という考え方が最も多いことは共通しているものの、年齢によって小学校に対する考え方が異なる傾向がみられました。(図表 3-4 参照)

図表 3-1 によると、第 1 選択では「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-2 によると、第 2 選択では「子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ」「子どもが人間関係を学ぶところ」と回答した方が多くなりました。

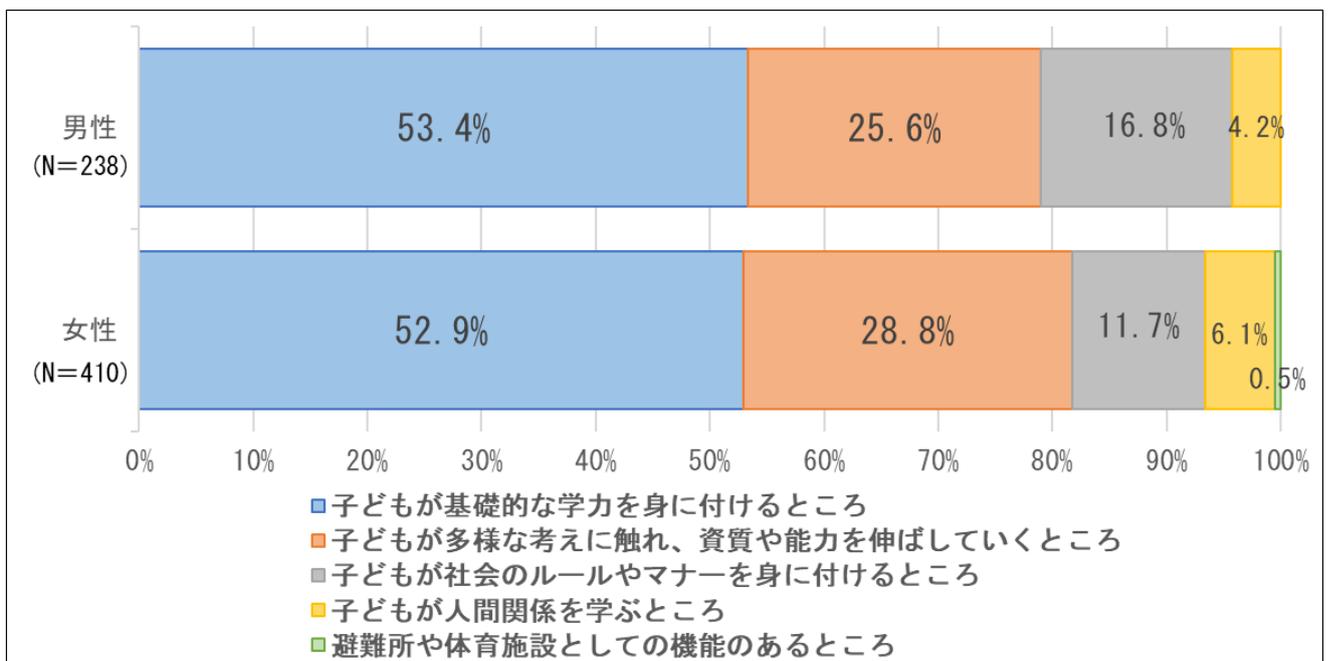


図表 3-1 小学校がどのようなところであるべきか (第 1 選択・単純集計) (N=664)



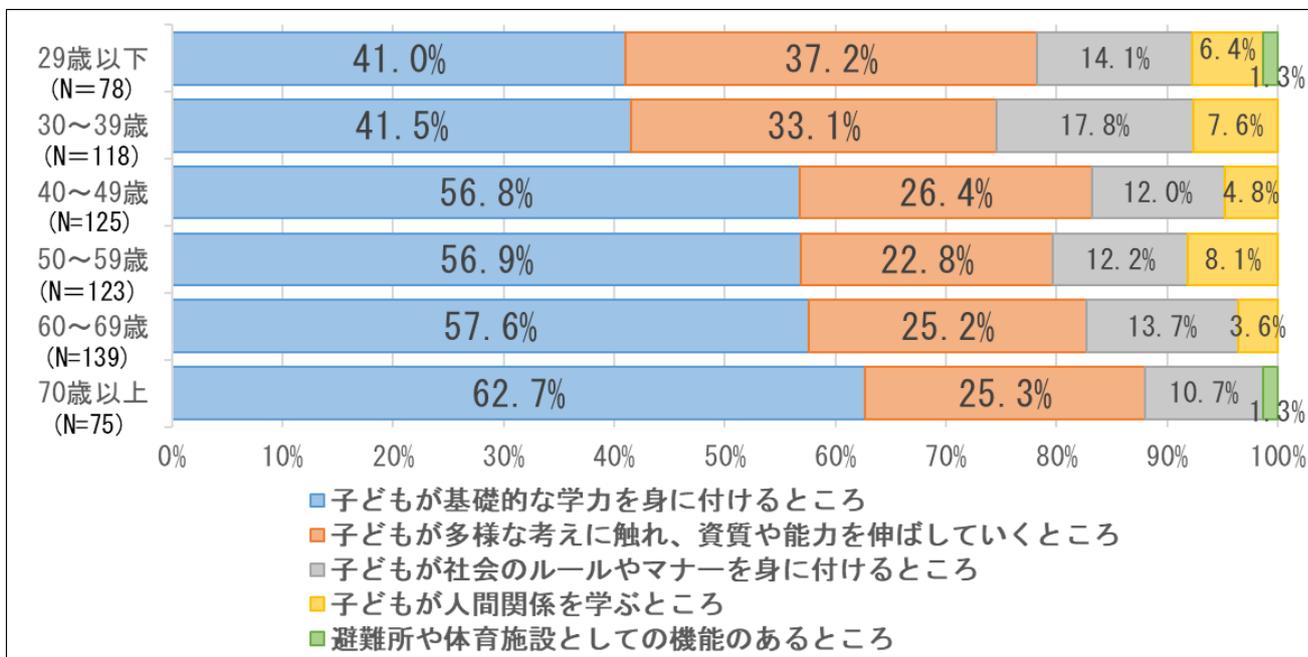
図表 3-2 小学校がどのようなところであるべきか（第2選択・単純集計）（N=587）

図表 3-3 によると、男女ともに「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子どもが多様な考え方に触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した比率が高くなりました。



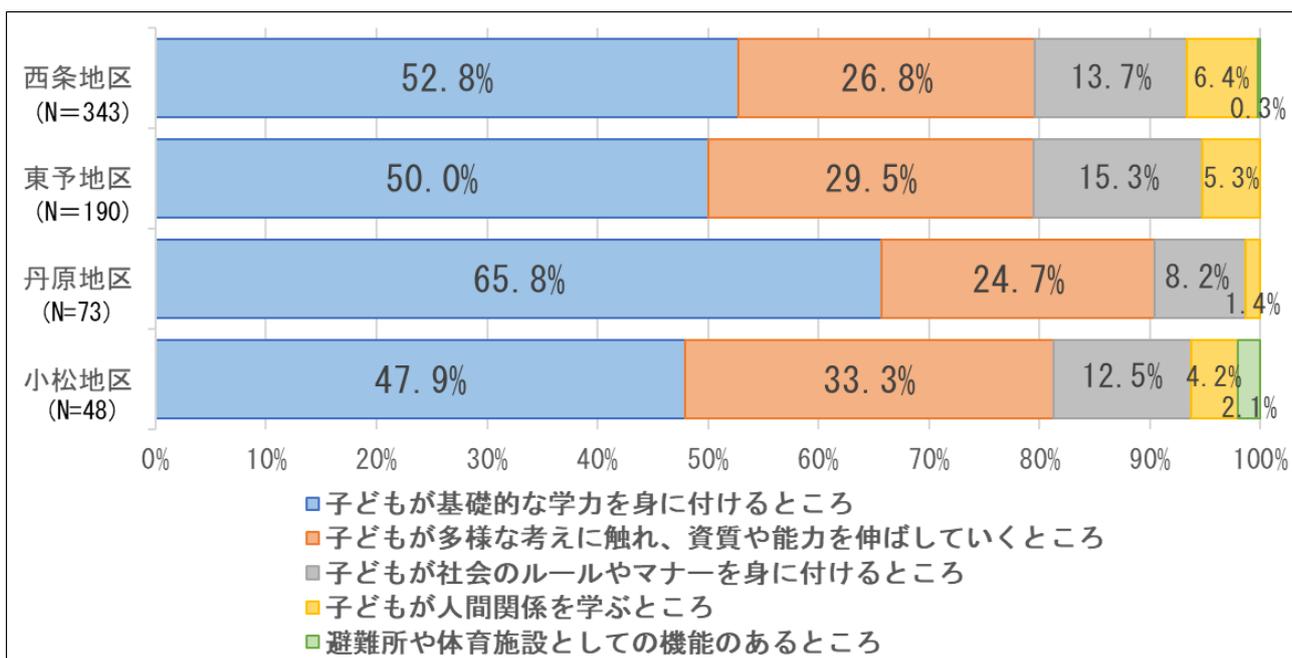
図表 3-3 小学校がどのようなところであるべきか（第1選択上位5項目・男女別）

図表 3-4 によると、すべての年齢において「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」が最も高くなり、特に年齢が高くなるにつれて回答した比率が高くなる傾向がみられました。また、年齢が低くなるにつれて「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



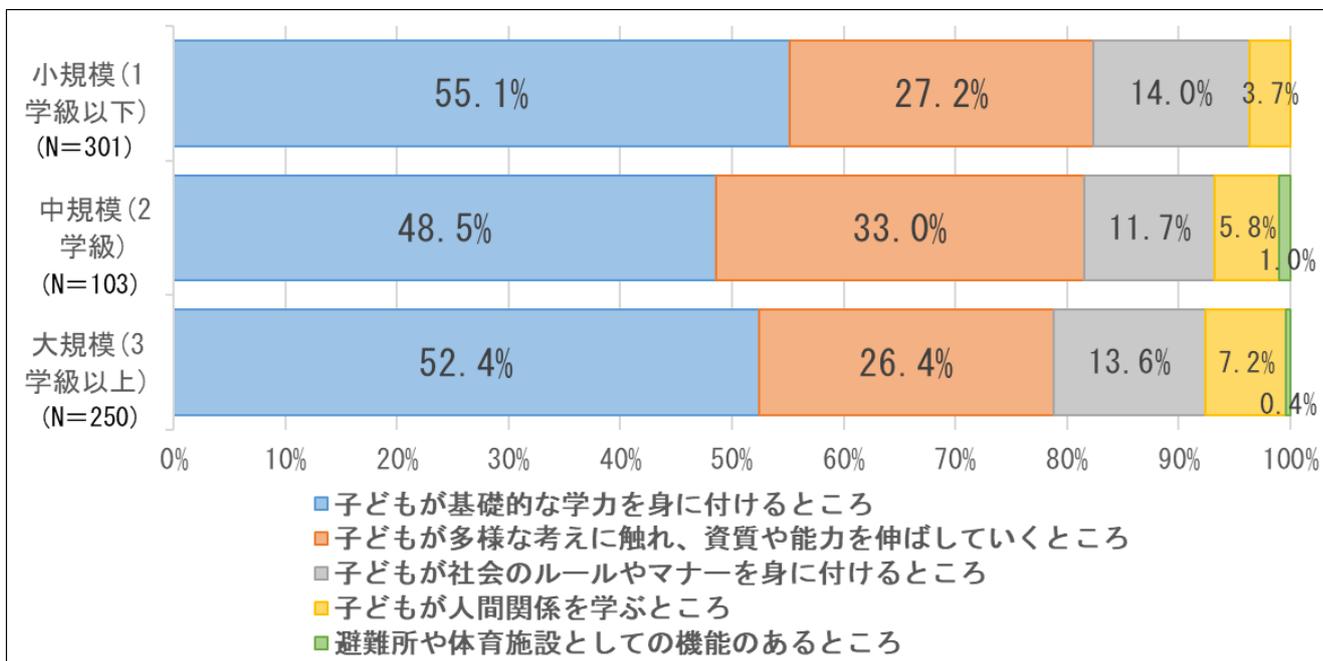
図表 3-4 小学校がどのようなところであるべきか（第1選択上位5項目・年齢別）

図表 3-5 によると、お住まいの地区別に若干の差異があるものの、すべての地区で「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が最も高く、次いで「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した比率が高くなりました。



図表 3-5 小学校がどのようなところであるべきか（第1選択上位5項目・お住まいの地区別）

図表 3-6 によると、お住まいの地域の小学校規模を問わず、「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した比率が高くなりました。



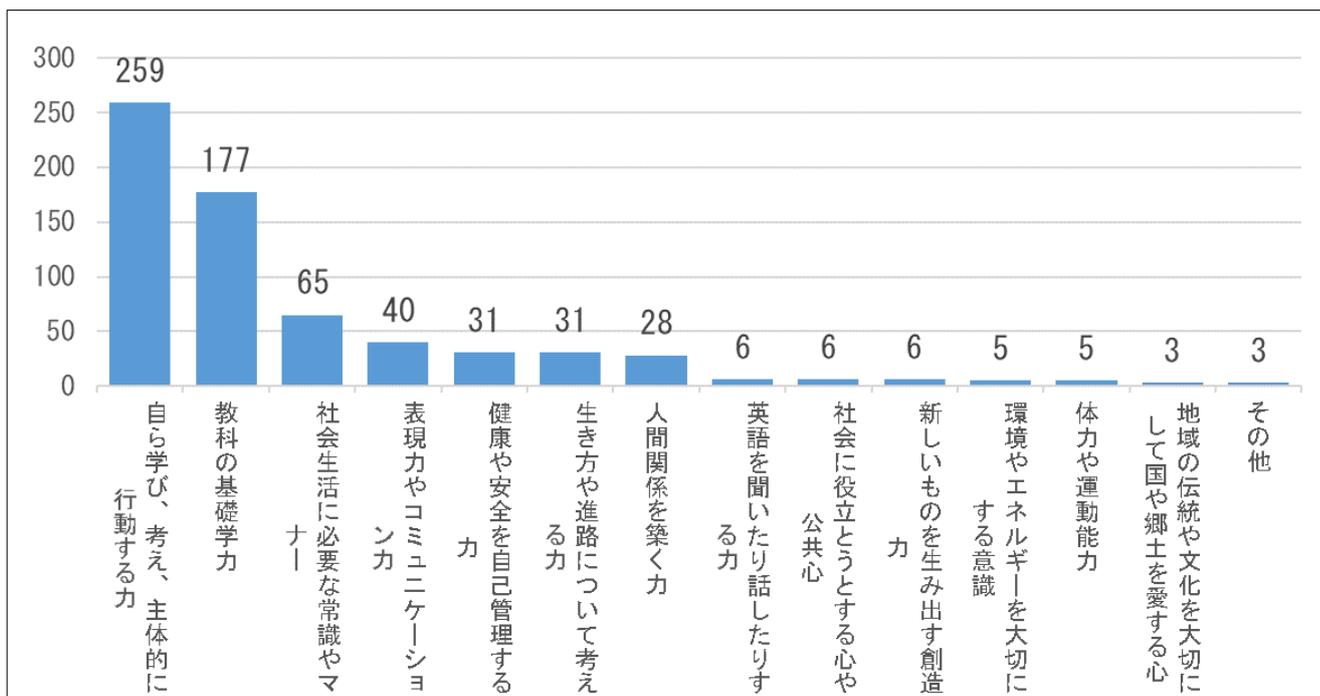
図表 3-6 小学校がどのようなところであるべきか（お住まいの地域の小学6年生規模別）

(2) 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度

【結果概要】

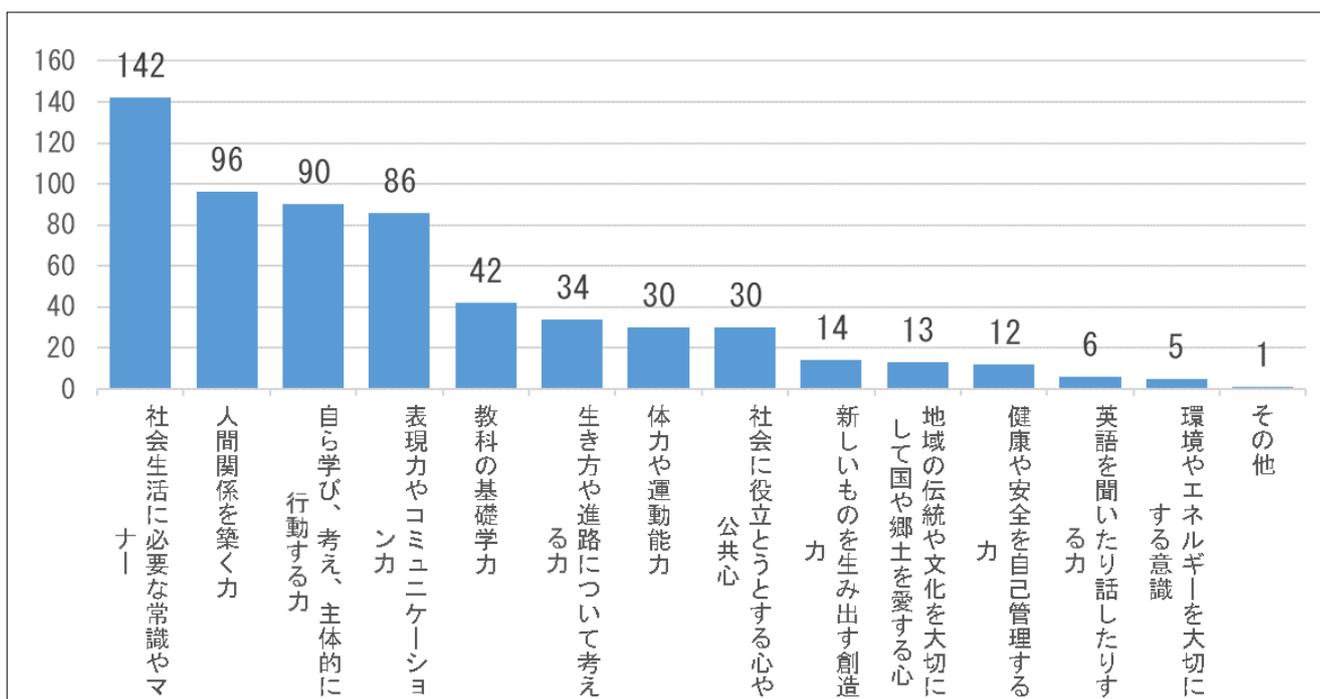
- (1) の傾向と同様に、子どもの基礎学力、人間関係形成能力、社会ルールなどを身に付けることに対する期待が高くなる傾向がみられました。(図表 3-7、3-8 参照)
- 男女別、年齢別、お住まいの地区別、お住まいの地域の小学校規模別に緩やかな傾向がみられるものの大きな差異は無く、全体的に小学校では「自ら学び、考え、主体的に行動する力」を身に付けることに期待する傾向がみられました。(図表 3-9、3-10、3-11、3-12 参照)

図表 3-7 によると、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」「教科の基礎学力」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-8 によると、第2 選択では「社会生活に必要な常識やマナー」「人間関係を築く力」「自ら学び、考え、主体的に行動する力」「表現力やコミュニケーション力」と回答した方が多くなりました。



図表3-7 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第1選択・単純集計）

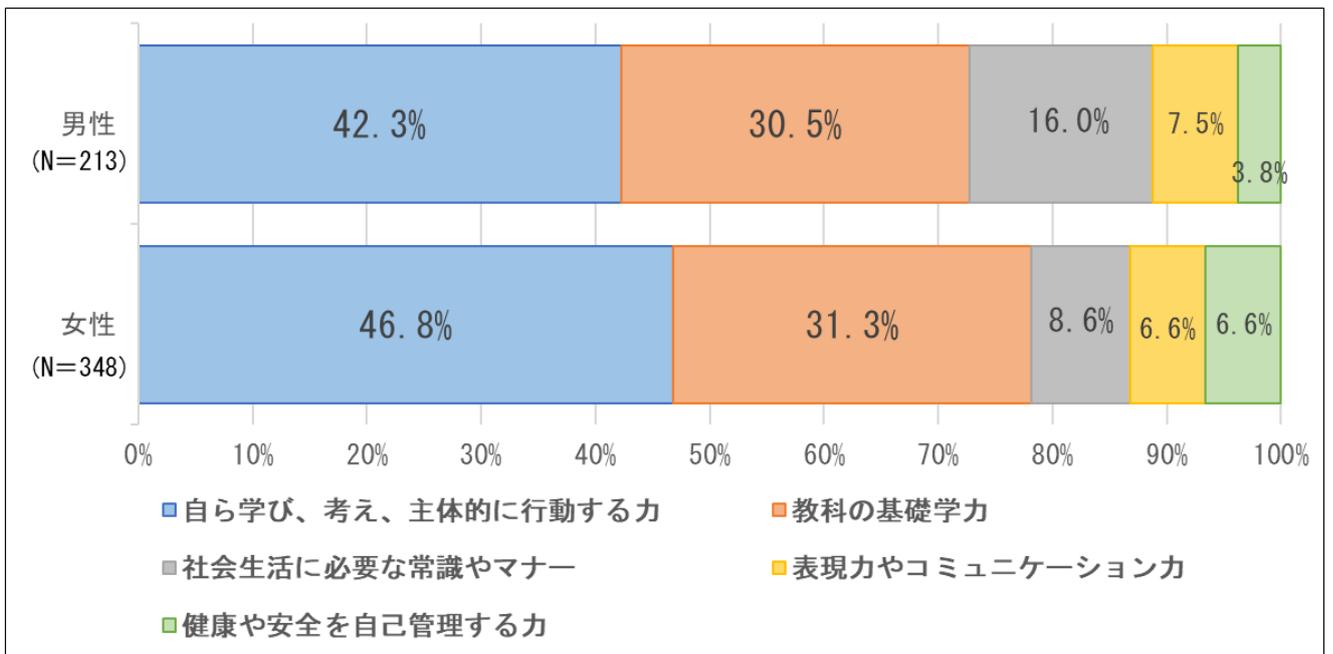
(N=665)



図表3-8 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第2選択・単純集計）

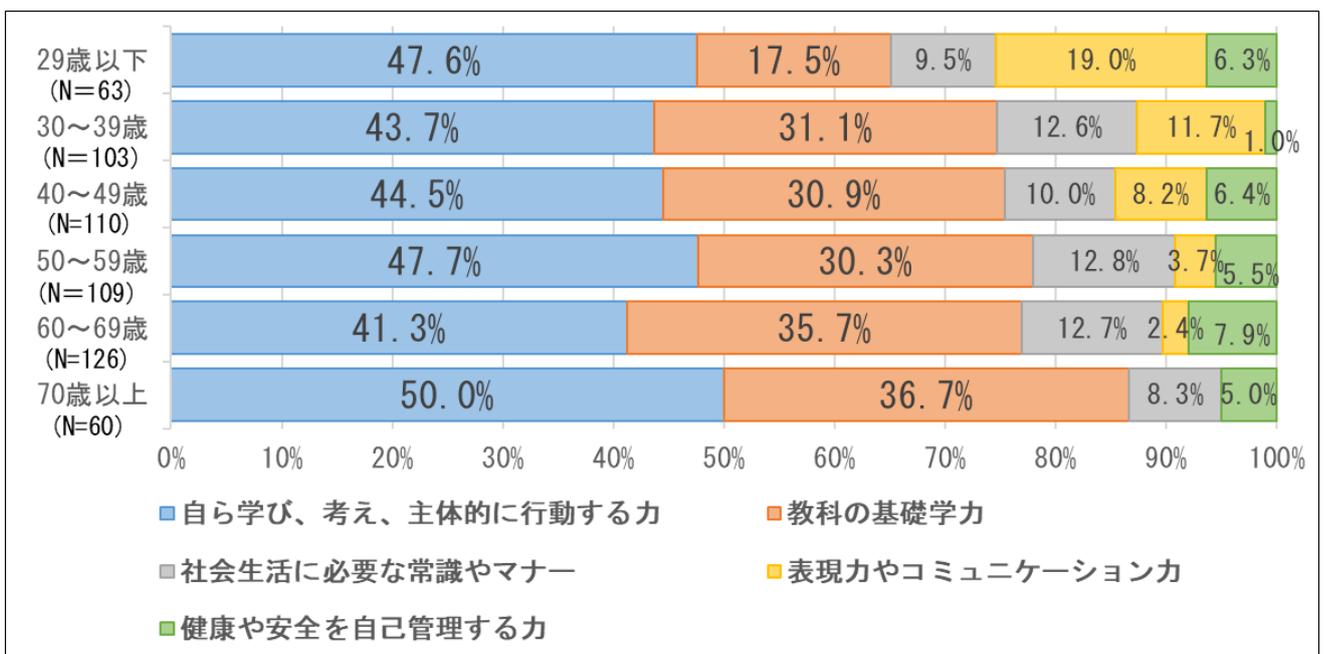
(N=601)

図表3-9によると、男女ともに「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した比率が最も高くなりましたが、男性と比較して女性でやや高くなる傾向がみられました。また、男性は女性と比較して「社会生活に必要な常識やマナー」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



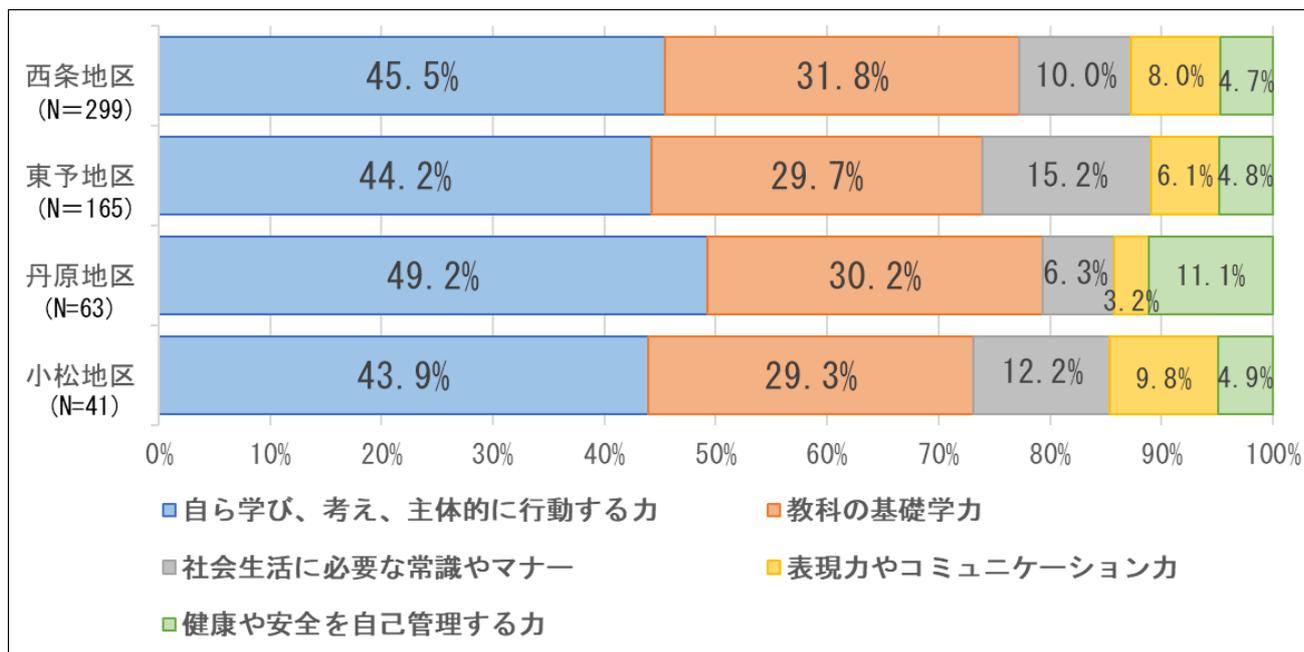
図表 3-9 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第1選択上位5項目・男女別）

図表 3-10 によると、すべての年齢において「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した比率が最も高くなりましたが、特徴として、年齢が高くなるにつれて、「教科の基礎学力」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。また、年齢が低くなるにつれて、「表現力やコミュニケーション力」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



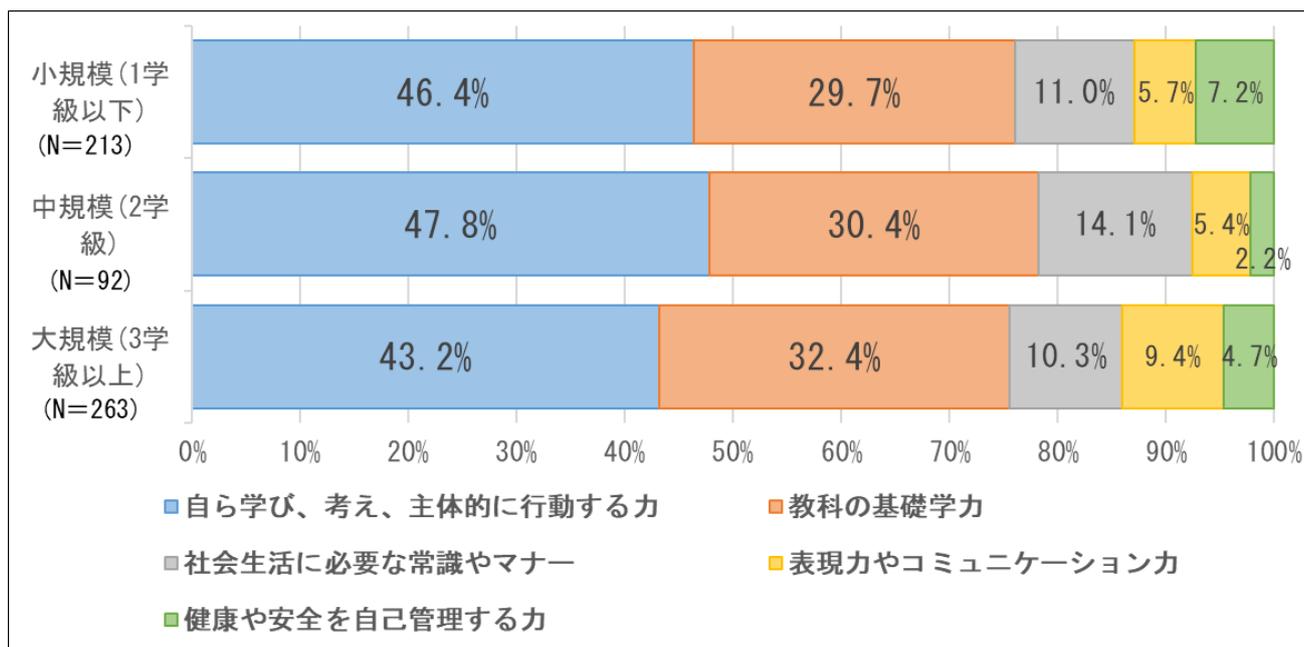
図表 3-10 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第1選択上位5項目・年齢別）

図表 3-11 によると、すべての地域で「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した比率が最も高くなり、次いで「教科の基礎学力」と回答した比率が高くなりました。



図表 3-11 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度
(第1選択上位5項目・お住まいの地区別)

図表 3-12 によると、お住まいの地域の小学校規模を問わず、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した比率が最も高くなり、次いで「教科の基礎学力」と回答した比率が高くなりました。



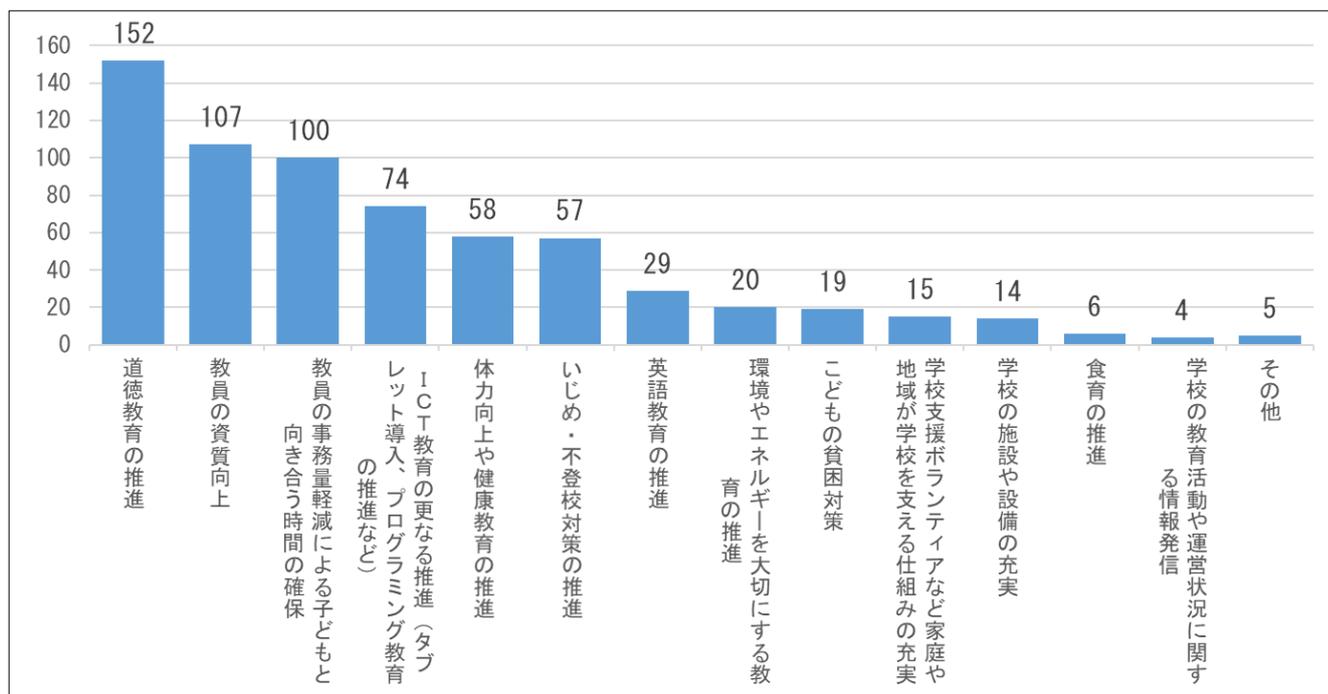
図表 3-12 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度
(第1選択上位5項目・お住まいの地域の小学6年生規模別)

(3) (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策

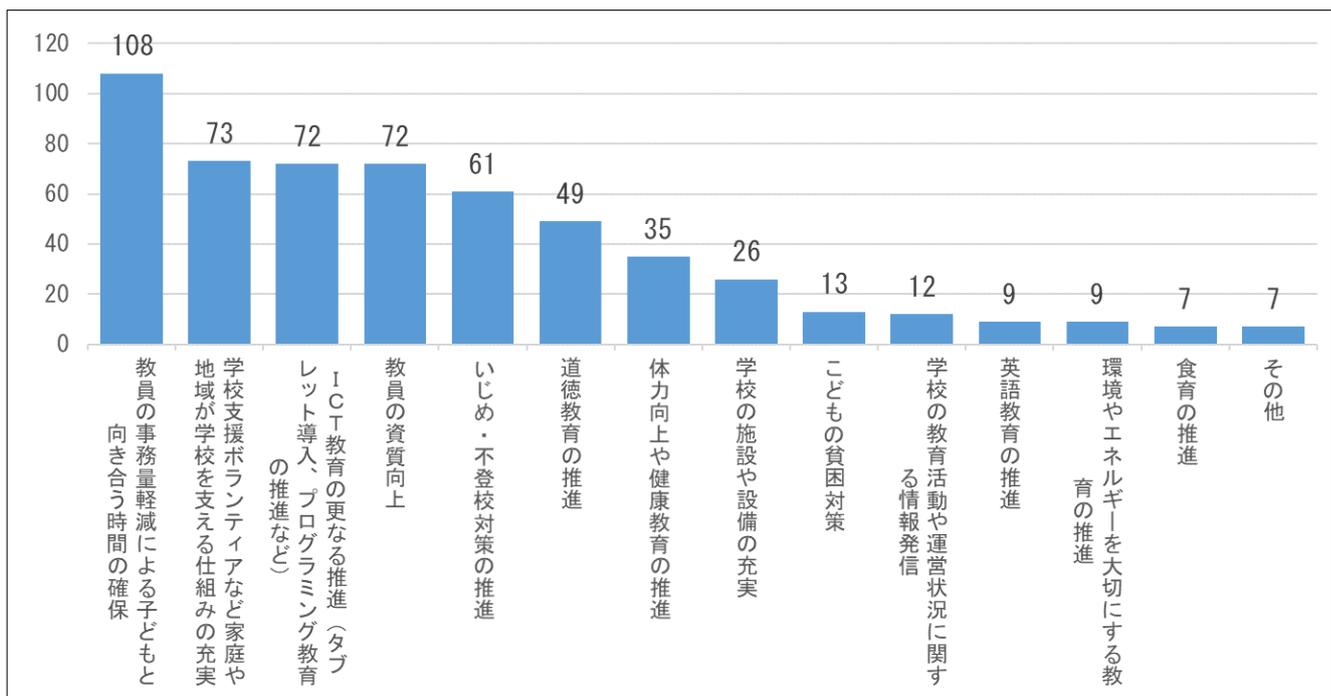
【結果概要】

- 道徳教育や ICT 教育の推進に関する施策に対する期待の高さがみられました。また、教員の資質向上を求める声がある一方で、教員の事務量軽減による時間の確保を求める傾向もみられました（図表 3-13、3-14 参照）
- 全体的に道徳教育の推進を求める声が大きいです。その他の力を入れるべき施策については、お住まいの地区別、お住まいの地域の小学校規模別に差異がみられました。（図表 3-15、3-17、3-18 参照）
- すべての年齢で「道徳教育の推進」に対する意識が高い傾向がみられましたが、その他の施策については、年齢によって期待の高さが異なる傾向がみられました。（図表 3-16 参照）

図表 3-13 によると、第 1 選択では「道徳教育の推進」「教員の資質向上」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-14 によると、第 2 選択では「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」「学校支援ボランティアなど家庭や地域が学校を支える仕組みの充実」「ICT 教育の更なる推進（タブレット導入、プログラミング教育の推進など）」「教員の資質向上」と回答した方が多くなりました。

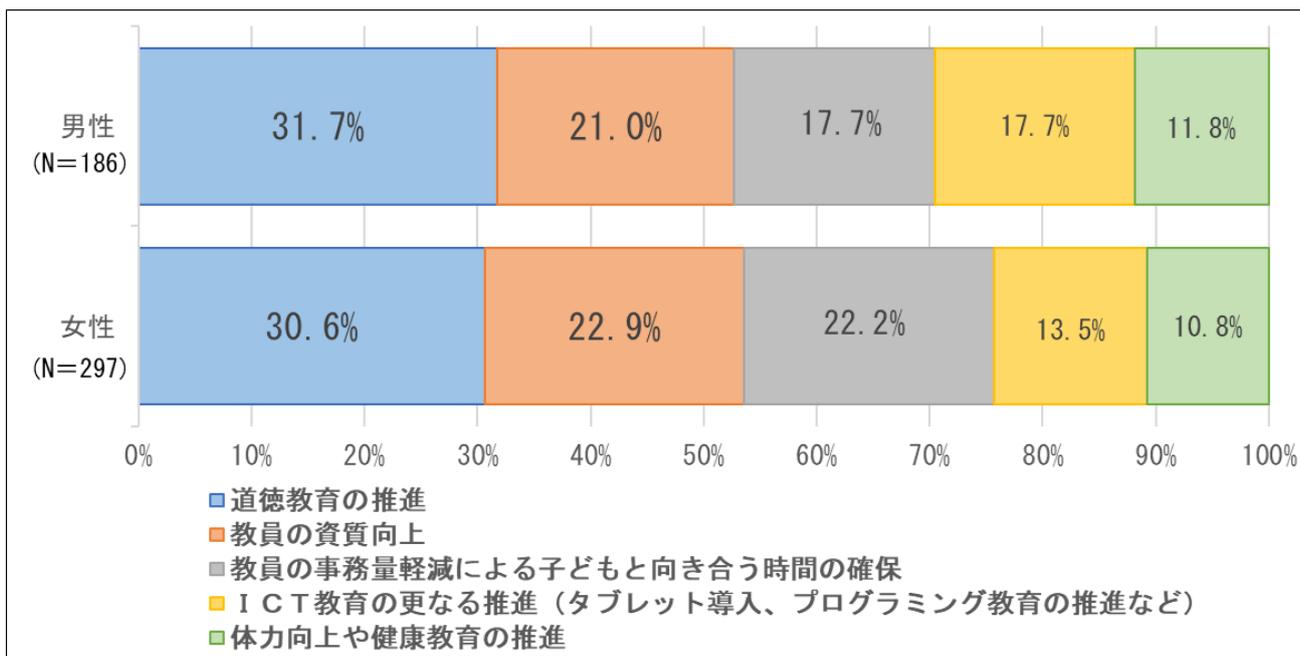


図表 3-13 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第 1 選択・単純集計) (N = 660)



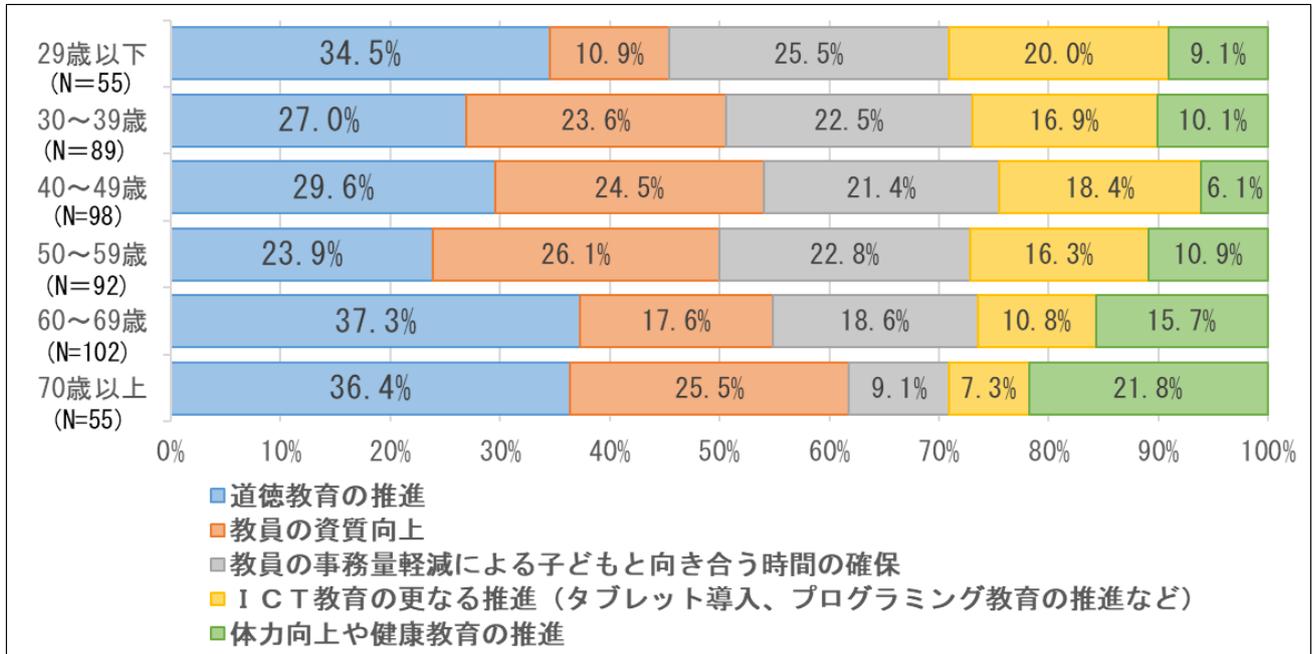
図表 3-14 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第2選択・単純集計) (N=553)

図表 3-15 によると、男女ともに「道徳教育の推進」と回答した比率が高くなりました。男女で大きな差異は見られませんでした。男性では「ICT教育の更なる推進（タブレット導入、プログラミング教育の推進など）」、女性では「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」やや高くなる傾向がみられました。



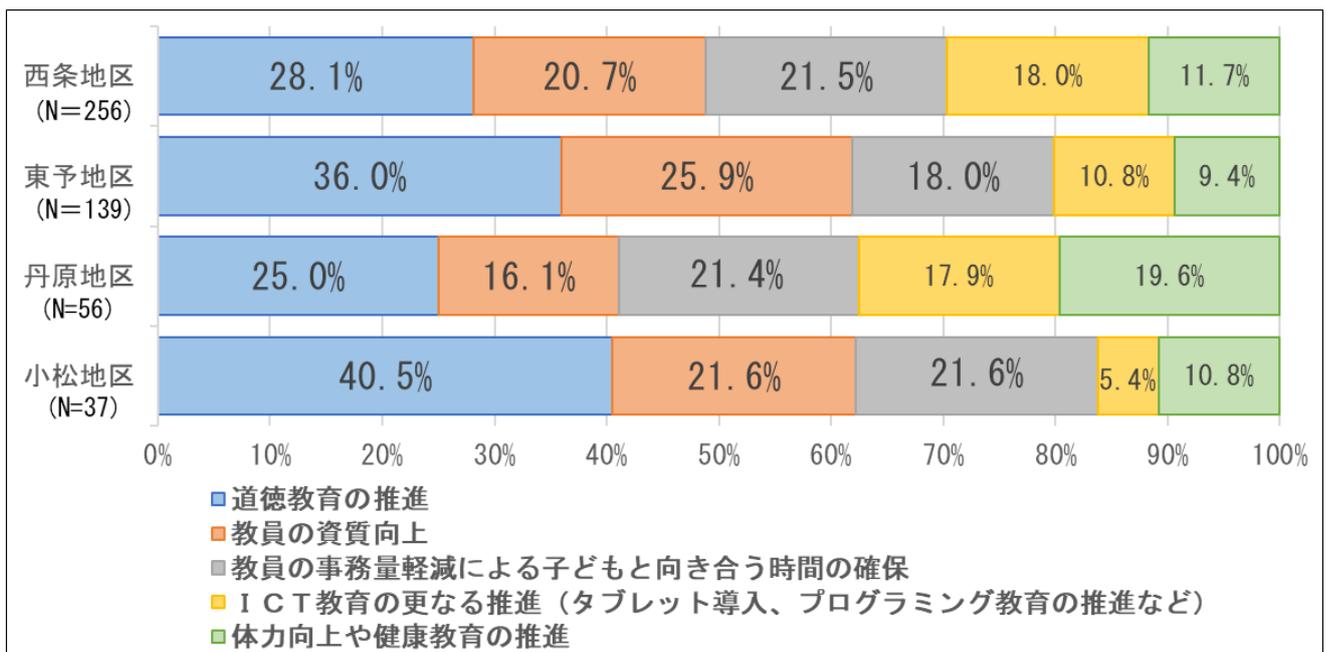
図表 3-15 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第1選択上位5項目・男女別)

図表 3-16 によると、50～59 歳を除くすべての年齢で「道德教育の推進」と回答した比率が最も高くなりました。また、年齢が低くなるにつれて「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」「ICT 教育の更なる推進（タブレット導入、プログラミング教育の推進など）」と回答した比率が高くなり、逆に年齢が高くなるにつれて「体力向上や健康教育の推進」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



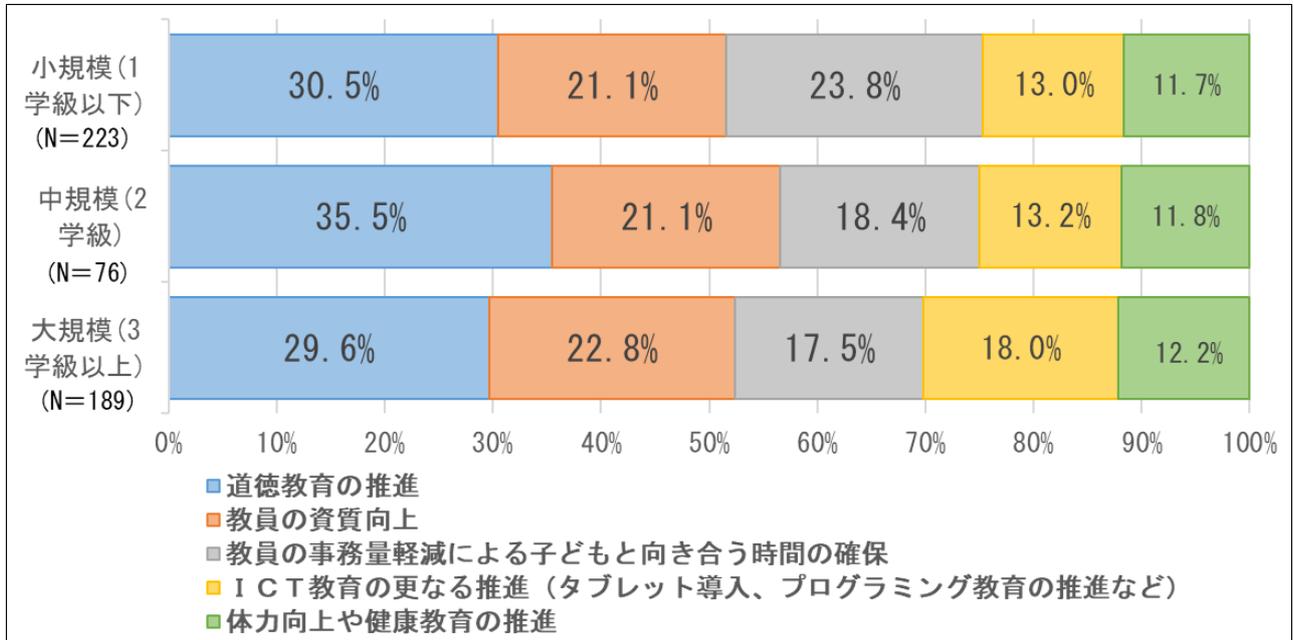
図表 3-16 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第1選択上位5項目・年齢別)

図表 3-17 によると、すべての地区で「道德教育の推進」と回答した比率が最も高くなりましたが、その他の施策については、地区によって傾向が異なりました。



図表 3-17 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第1選択上位5項目・お住まいの地区別)

図表 3-18 によると、お住まいの地域の小学校規模を問わず、「道徳教育の推進」と回答した比率が最も高くなりました。その他、小規模（1 クラス以下）では「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」、大規模（3 クラス以上）では「ICT 教育の更なる推進（タブレット導入、プログラミング教育の推進など）」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



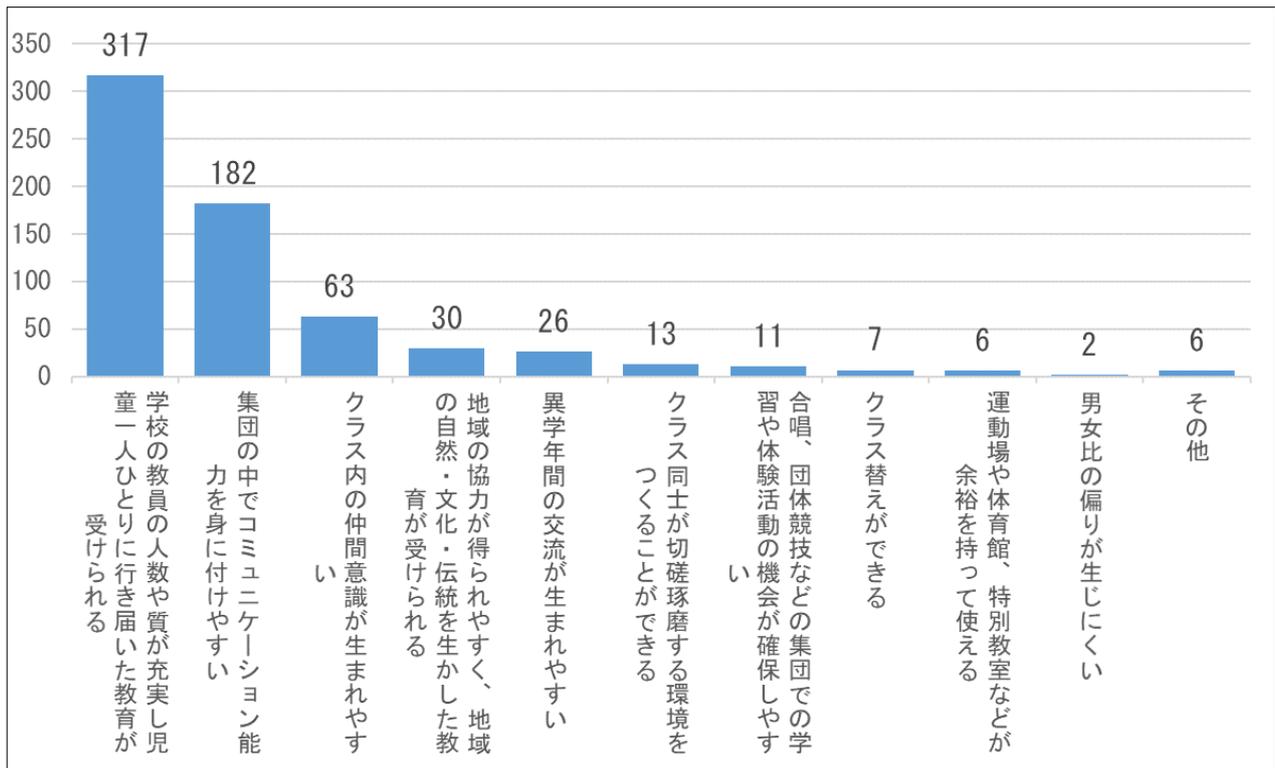
図表 3-18 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第 1 選択上位 5 項目・お住まいの地域の小学 6 年生規模別)

(4) 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの

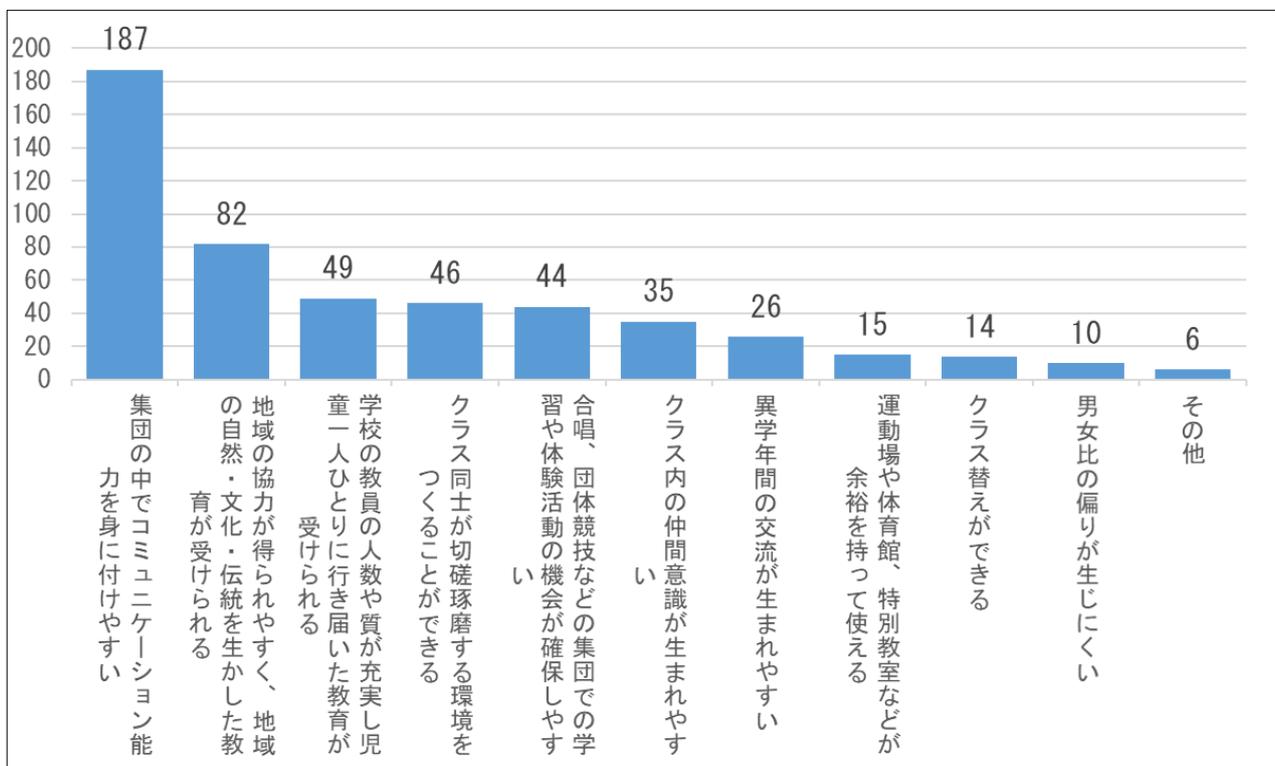
【結果概要】

- 教員の人数・質の充実や集団の中でのコミュニケーションを身に付ける環境など、(2)(3)の回答と関連する回答が多くなる傾向がみられました。(図表 3-19、3-20 参照)
- 男女別、年齢別、お住まいの地区別、お住まいの地域の小学校規模別に大きな差異はみられませんが、若い年齢の方や、小学校が小規模（1 クラス以下）な地区で「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」が高くなる傾向がみられました。(図表 3-21、3-22、3-23、3-24 参照)

図表 3-19 によると、「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した方が最も多くなり、次いで「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-20 によると、第 2 選択では「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統を活かした教育が受けられる」と回答した方が多くなりました。

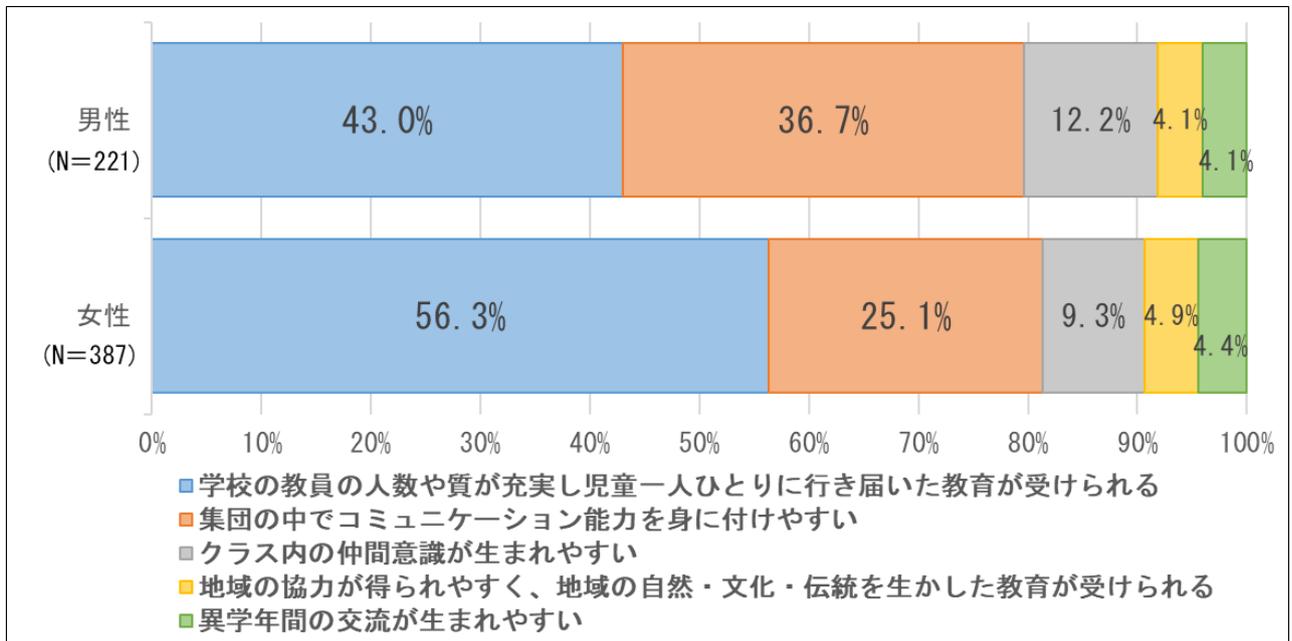


図表 3-19 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第1選択・単純集計）
(N=663)



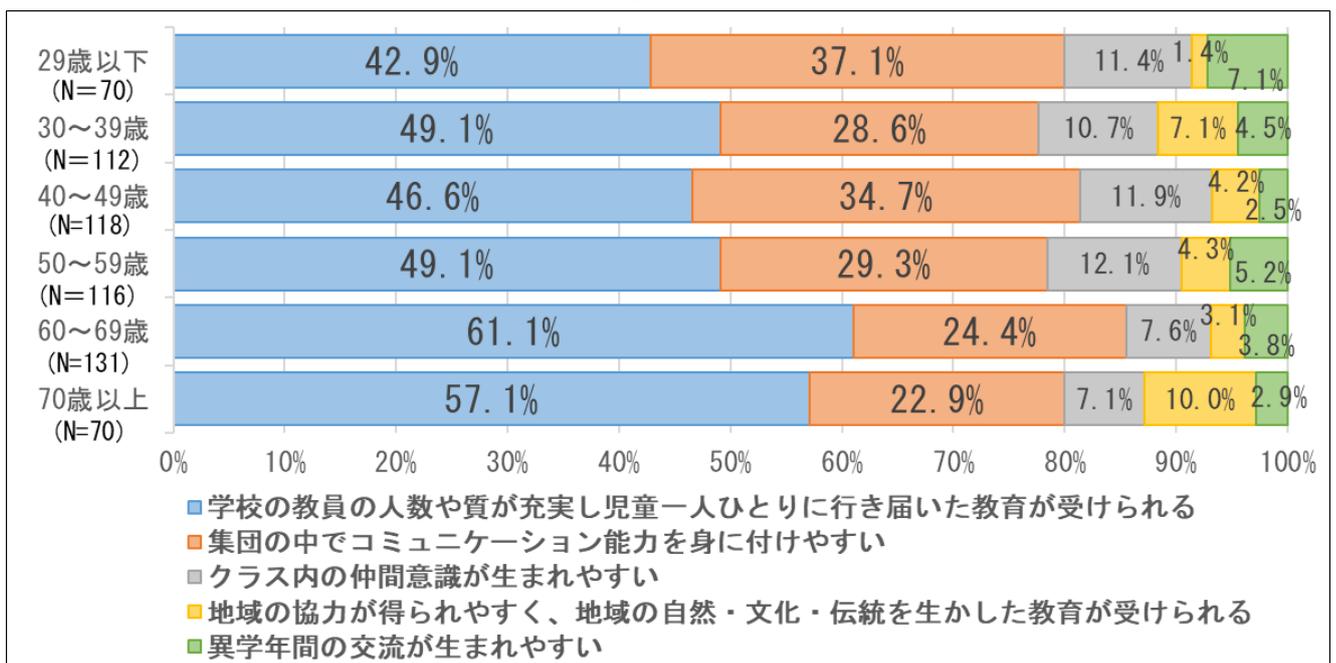
図表 3-20 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第2選択・単純集計）
(N=514)

図表 3-21 によると、男女ともに「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が高くなり、特に男性と比較して女性で高くなる傾向がみられました。また、男性は女性と比較して「集団の中でコミュニケーション能力を身につけやすい」「クラス内の仲間意識が生まれやすい」と回答した比率が高くなりました。



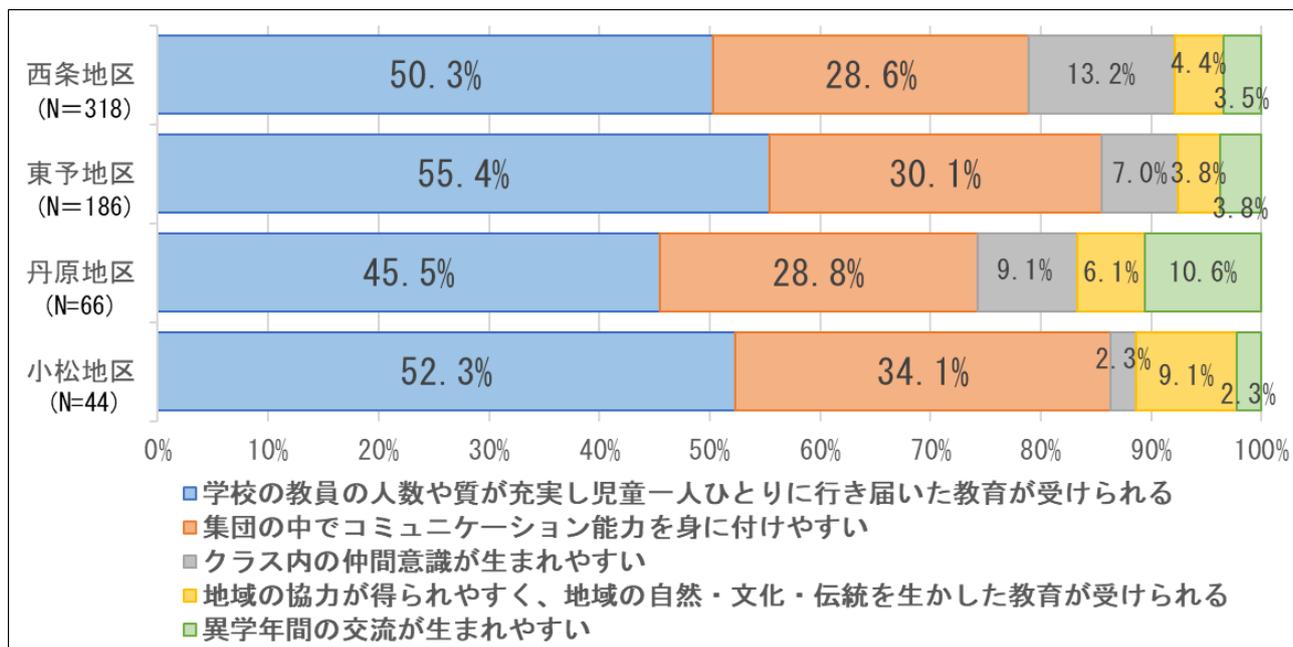
図表 3-21 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第1選択上位5項目・男女別）

図表 3-22 によると、すべての年齢で「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなりました。また、年齢が高くなるにつれて「集団の中でコミュニケーション能力を身につけやすい」と回答した比率が低くなる一方で、「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」「地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統を活かした教育が受けられる」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



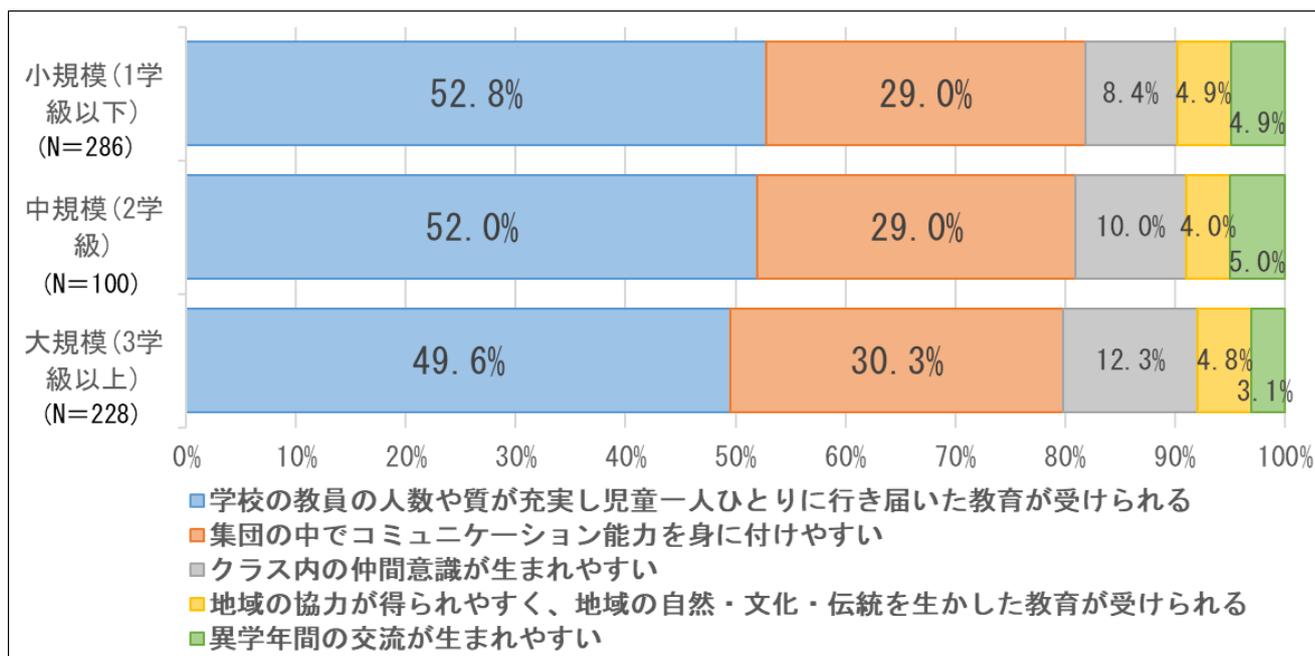
図表 3-22 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第1選択上位5項目・年齢別）

図表 3-23 によると、すべての地区で「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなり、次いで「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した比率が高くなりました。



図表 3-23 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの
(第1選択上位5項目・お住まいの地区別)

図表 3-24 によると、お住まいの地域の小学校規模を問わず、「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなり、次いで「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した比率が高くなりました。



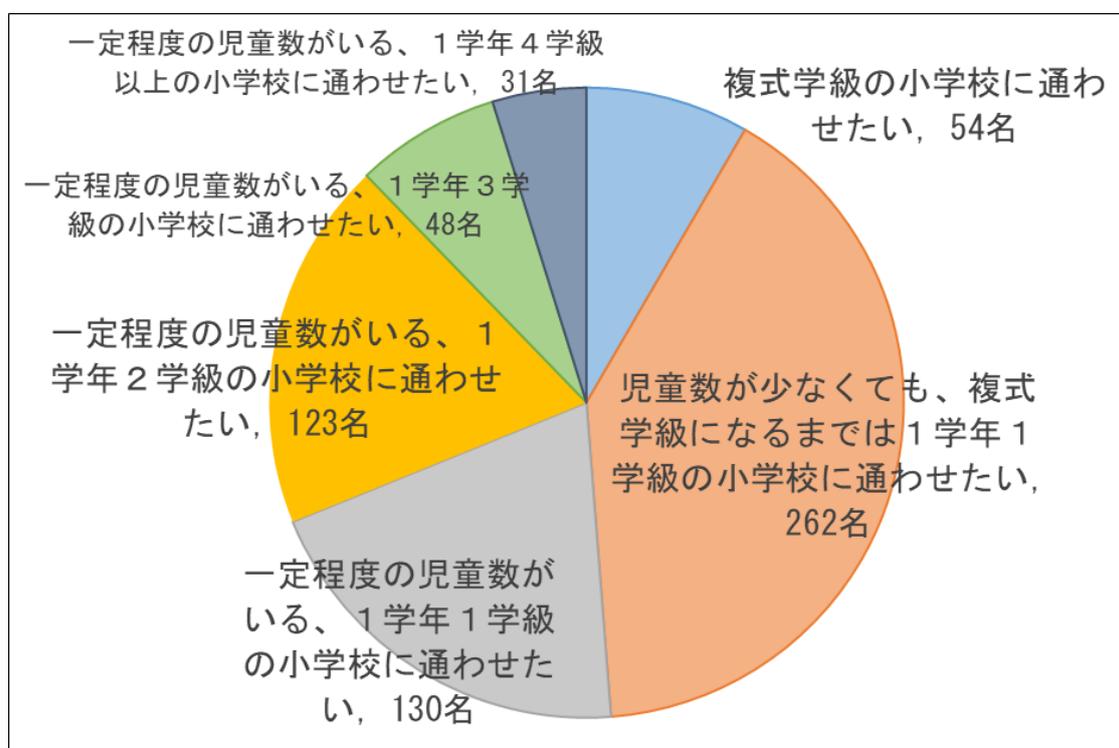
図表 3-24 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの
(第1選択上位5項目・お住まいの地域の小学6年生規模別)

(5) 未来の小学校にお子様を通う場合の考え方

【結果概要】

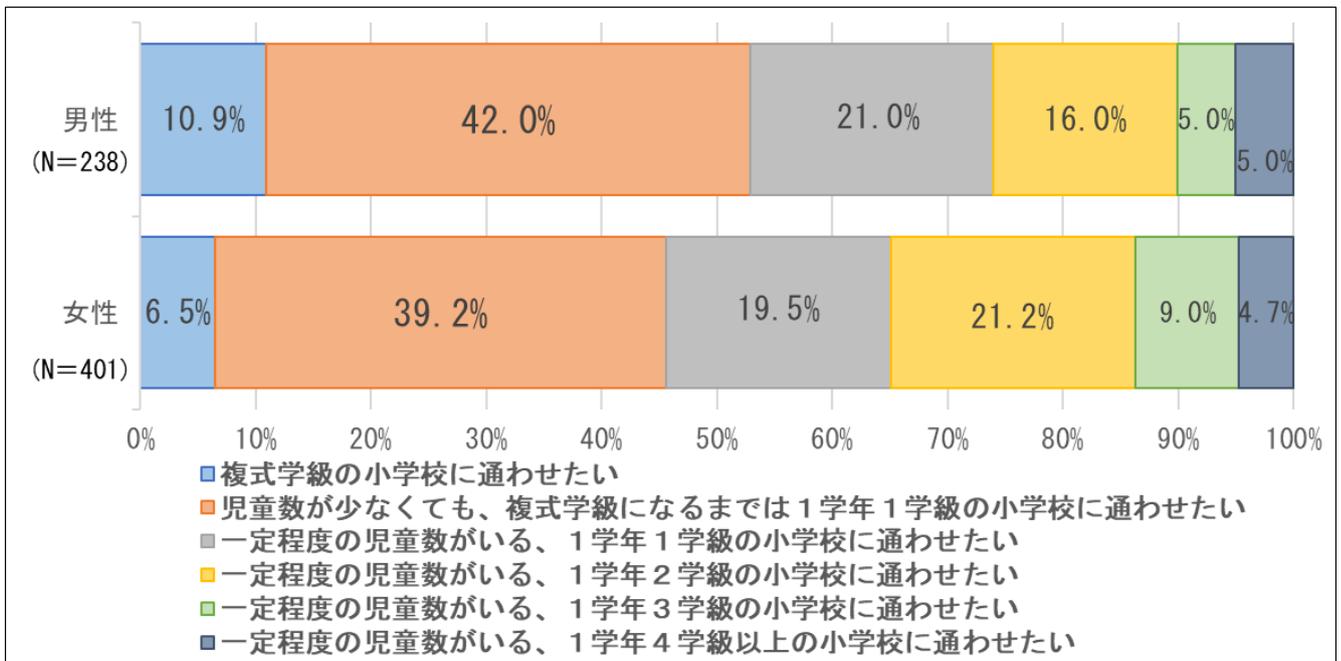
- 児童数が減少する小学校が多い中、複式学級になるまでは1学年1学級の小学校に通わせたいとする方が多くなる傾向がみられました。(図表 3-25 参照)
- 年齢が高くなるにつれて、児童数が少なくても1学年1学級を望む意見が多くなる一方で、複式学級を望む意見が少なくなる傾向がみられました。年齢の高い方が少人数の環境を望む一方で、そのことは決して複式学級に通わせたいとする考えには繋がらないものと推察されます。(図表 3-27 参照)
- お住いの地域の小学校が大規模または中規模な場合と比較し、小規模(1学年1クラス以下)では複式学級に通わせたいとする意見が少なくなる傾向がみられました。決して小規模な小学校の地域の方が複式学級の小学校に通わせたいと考えている訳ではないと推察されます。(図表 3-28、3-29 参照)

図表 3-25 によると、「児童数が少なくても、複式学級になるまでは1学年1学級の小学校に通わせたい」と回答した方が最も多くなり、次いで「一定程度の児童数がある、1学年1学級の小学校に通わせたい」と回答した方が多くなりました。



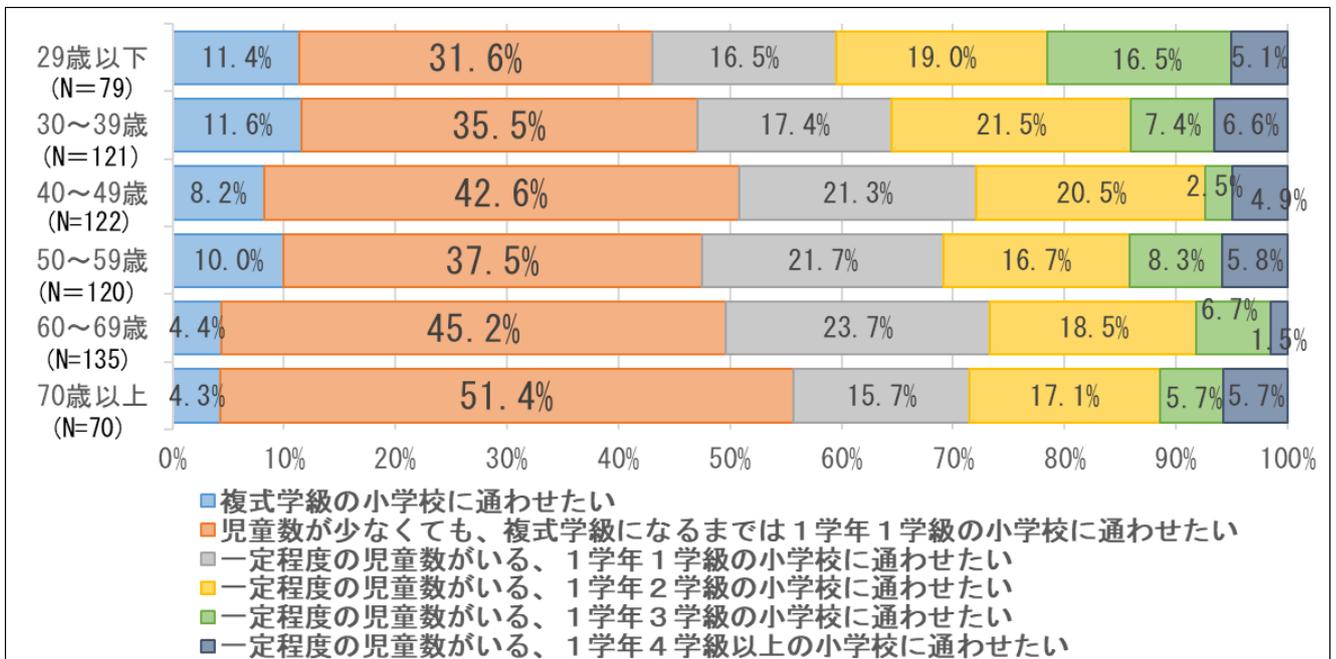
図表 3-25 未来の小学校にお子様を通う場合の考え方(単純集計)(N=648)

図表 3-26 によると、男女別を問わず「児童数が少なくても、複式学級になるまでは1学年1学級の小学校に通わせたい」と回答した比率が最も高くなりました。また、男性と比較して女性の方が、規模の大きい小学校への通学を希望する傾向がみられました。



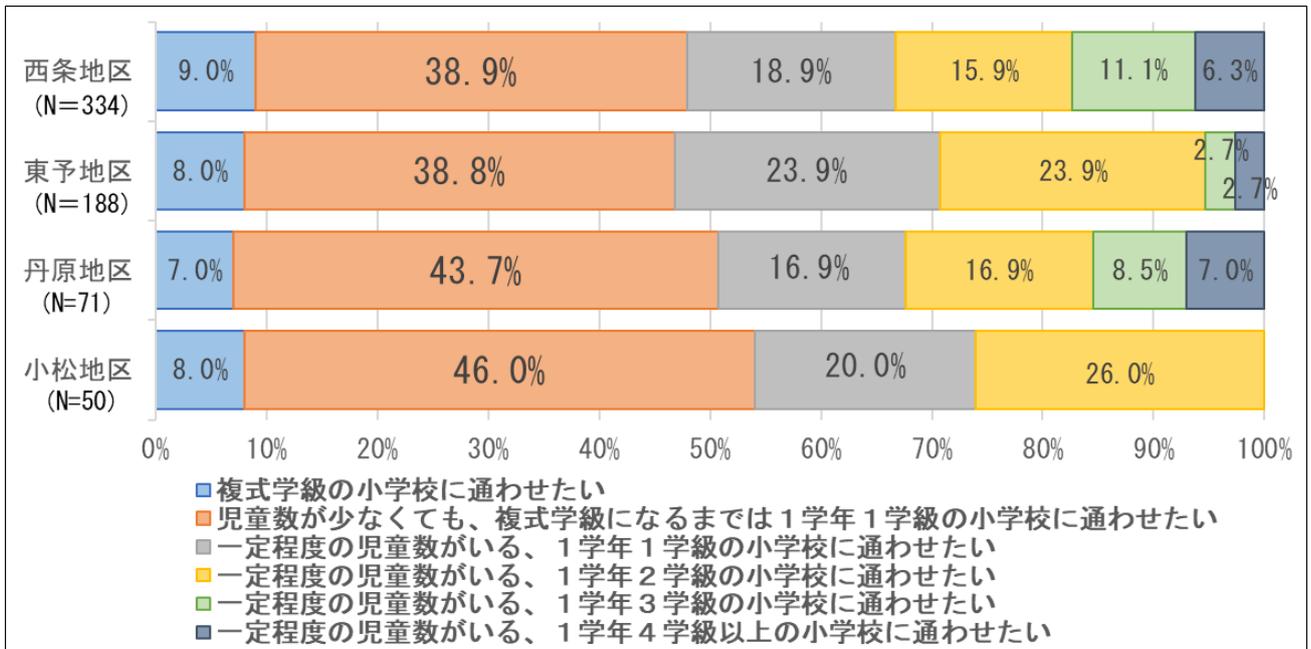
図表3-26 未来の小学校にお子様を通う場合の考え方（男女別）

図表3-27によると、すべての年齢で「児童数が少なくても、複式学級になるまでは1学年1学級の小学校に通わせたい」と回答した比率が最も高くなり、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向がみられました。一方で、年齢が高くなるにつれて「複式学級の小学校に通わせたい」と回答した比率が低くなる傾向がみられました。



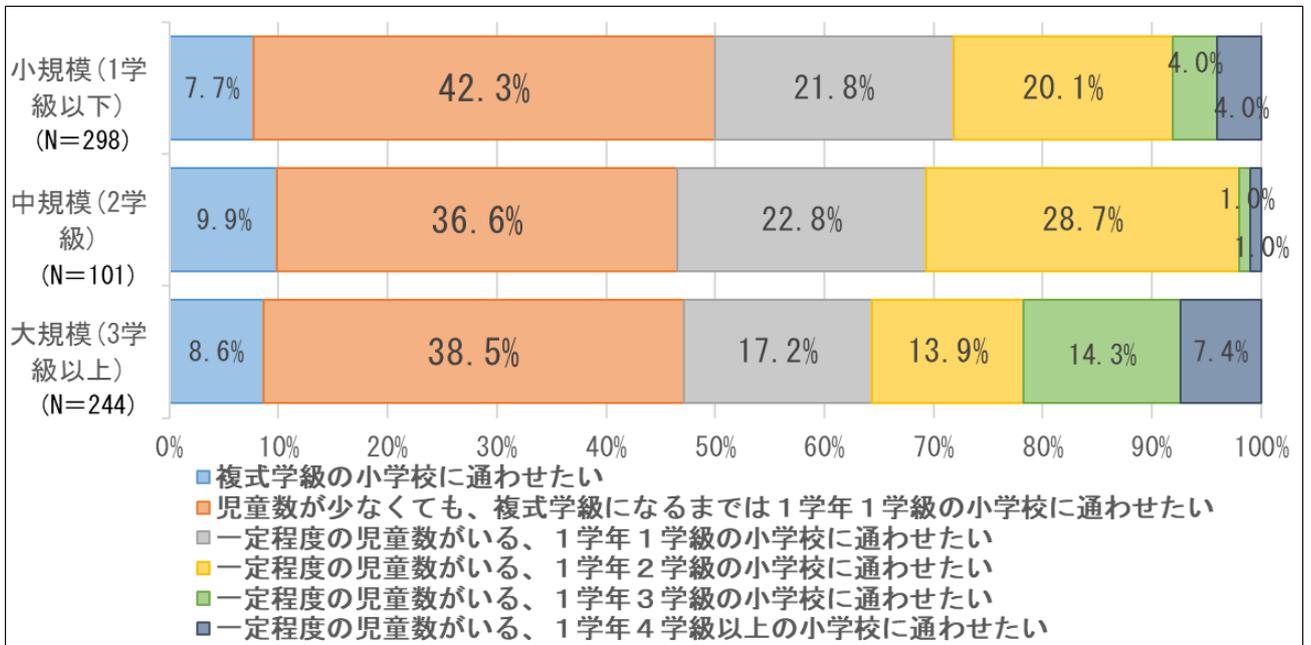
図表3-27 未来の小学校にお子様を通う場合の考え方（年齢別）

図表3-28によると、お住まいの地区を問わず「児童数が少なくても、複式学級になるまでは1学年1学級の小学校に通わせたい」と回答した比率が最も高くなりました。



図表 3 - 2 8 未来の小学校にお子様を通う場合の考え方（お住まいの地区別）

図表 3-29 によると、お住まいの地域の小学校規模を問わず、「児童数が少なくても、複式学級になるまでは1学年1学級の小学校に通わせたい」と回答した比率が最も高くなりました。また、お住まいの地域の小学校規模に関わらず、「複式学級の小学校に通わせたい」と回答した比率はほぼ同程度となりました。



図表 3 - 2 9 未来の小学校にお子様を通う場合の考え方（お住まいの小学校規模別）

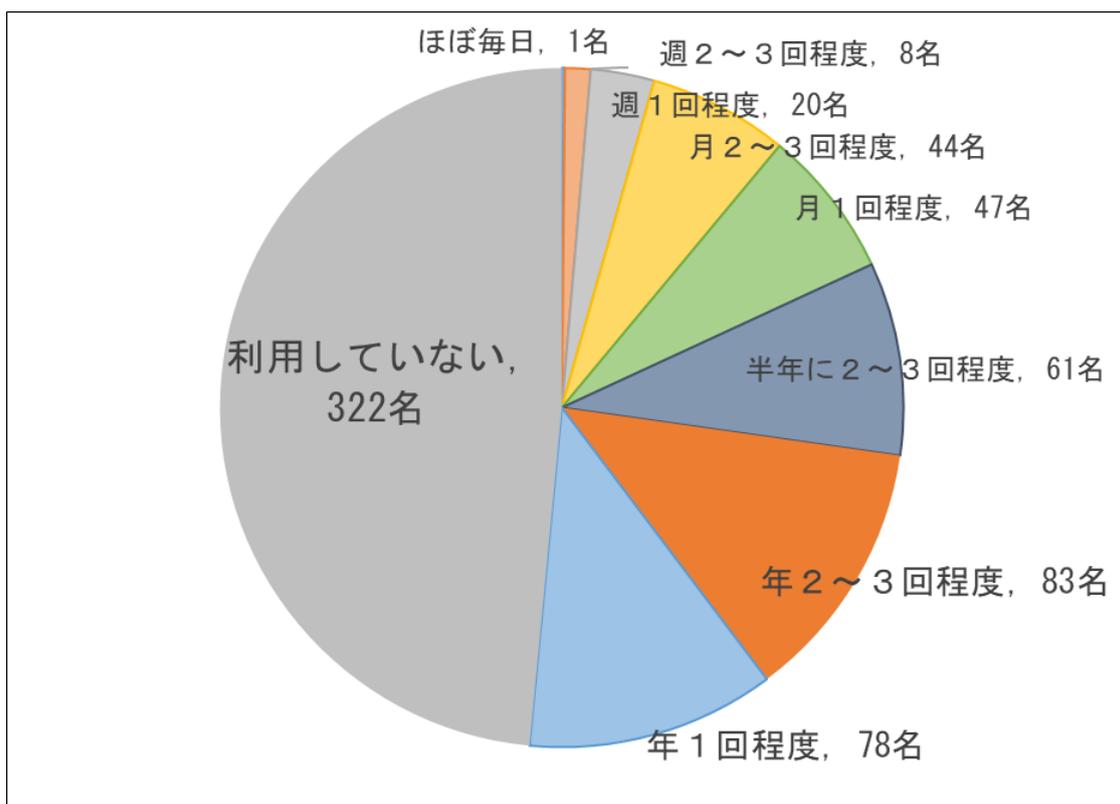
4 図書館について

(1) 図書館の利用状況

【結果概要】

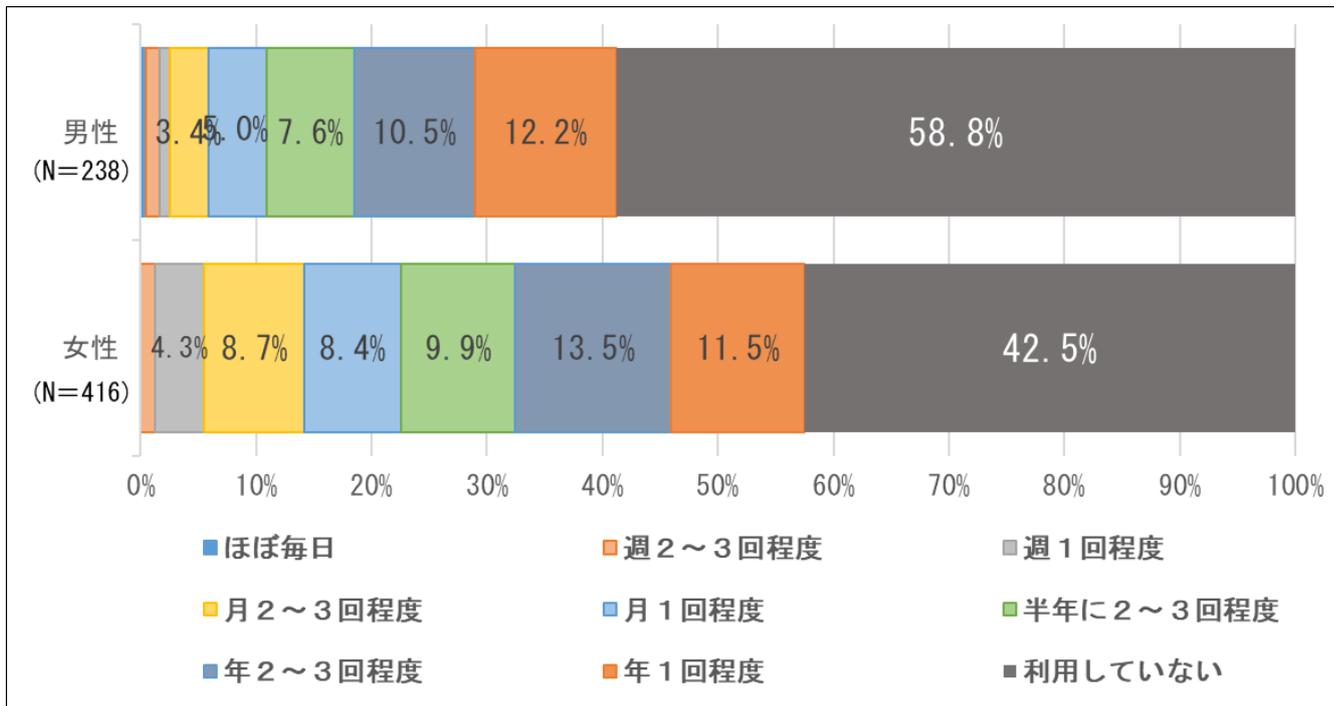
- 月1回以上図書館を利用していると回答した方が約5人に1人となる一方で、半数近くの方が図書館を利用していないと回答しました。いかに図書館を利用していない方に利用を促していくのかという点が課題になっているものと推察します。(図表4-1参照)
- 男女別、年齢別、お住まいの地区別に利用頻度の高い層と低い層が明確に分類されることから、今後更なる図書館の利用促進を図るのであれば、ターゲットを明確にした情報発信や啓発活動を図ることが重要になると推察します。(図表4-2、4-3、4-4)

図表4-1によると、図書館を「利用していない」と回答した方が最も多く約半数なり、次いで「年2～3回程度」と回答した方が多くなりました。



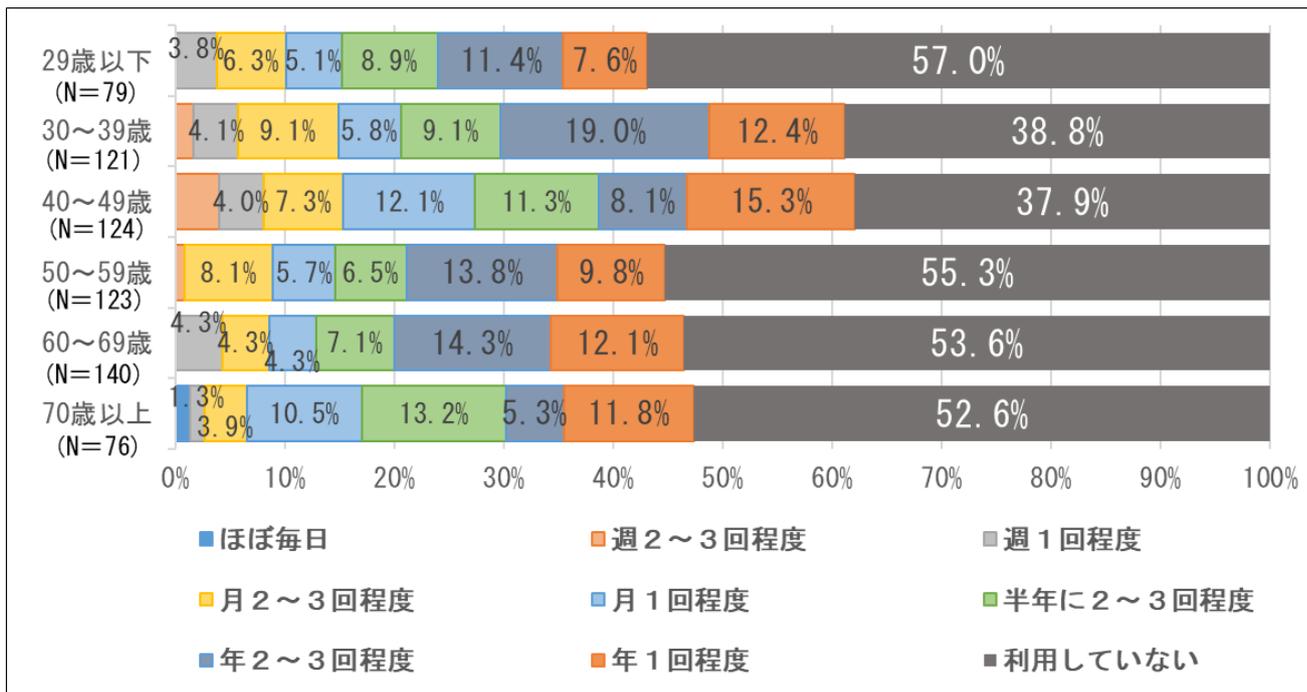
図表4-1 図書館の利用状況(単純集計)(N=664)

図表 4-2 によると、男性と比較して女性で図書館を利用していると回答した比率が高くなりました。男性では、半数以上の方が図書館を利用していないと回答する結果となりました。



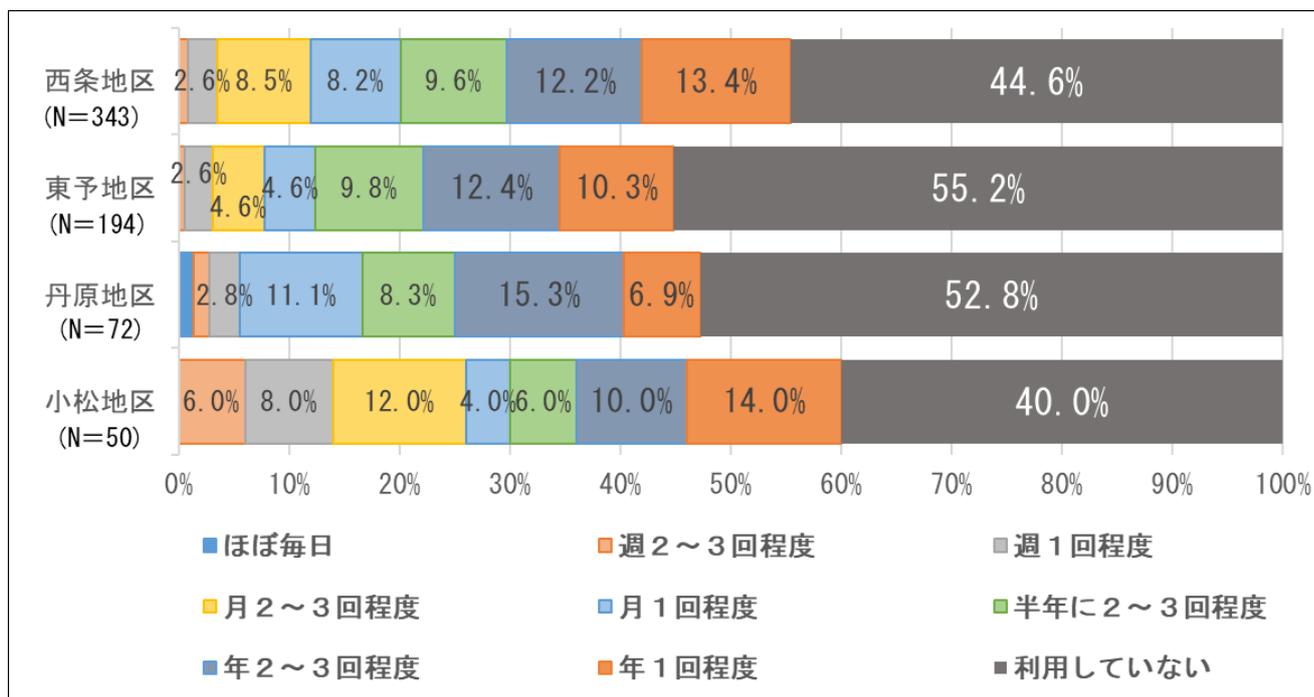
図表 4-2 図書館の利用状況（男女別）

図表 4-3 によると、40~49歳で図書館を利用していると回答した比率が最も高くなり、次いで30~39歳で利用していると回答した比率が高くなりました。逆に、50歳以上になると図書館を利用していると回答した比率が低く、29歳以下においても利用していると回答した比率が低くなりました。



図表 4-3 図書館の利用状況（年齢別）

図表 4-4 によると、小松地区で図書館を利用していると回答した比率が高くなる一方で、東予地区と丹原地区では、半数以上の方が図書館を利用していないと回答しました。



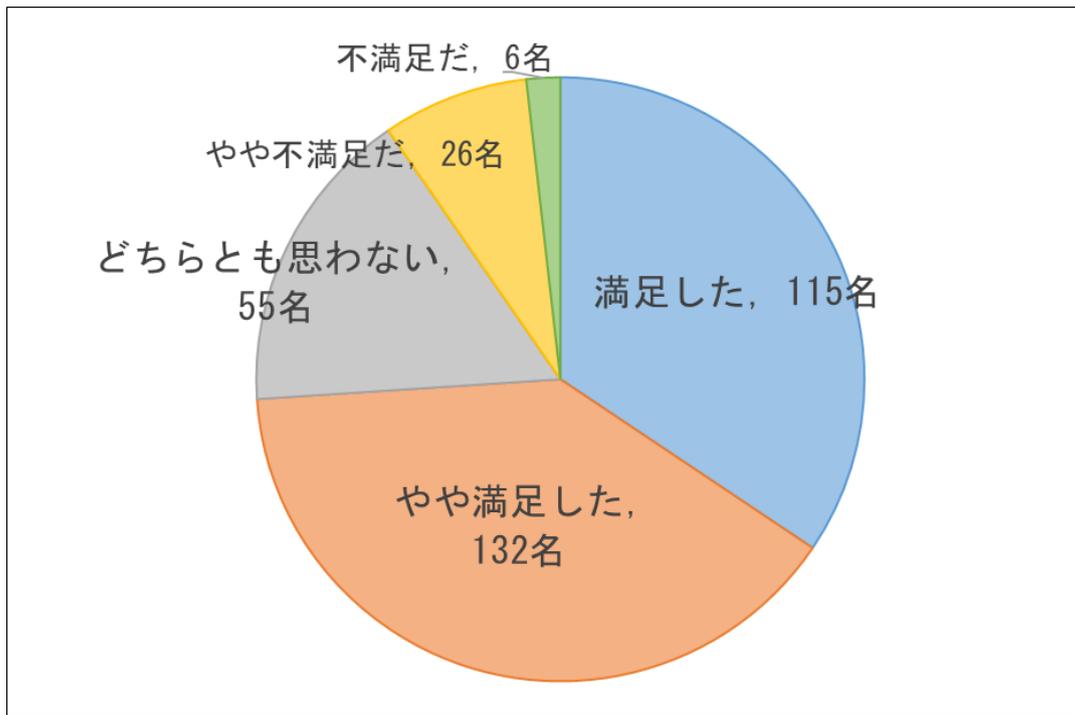
図表 4-4 図書館の利用状況（お住まいの地区別）

（2）図書館の利用環境に対する満足度

【結果概要】

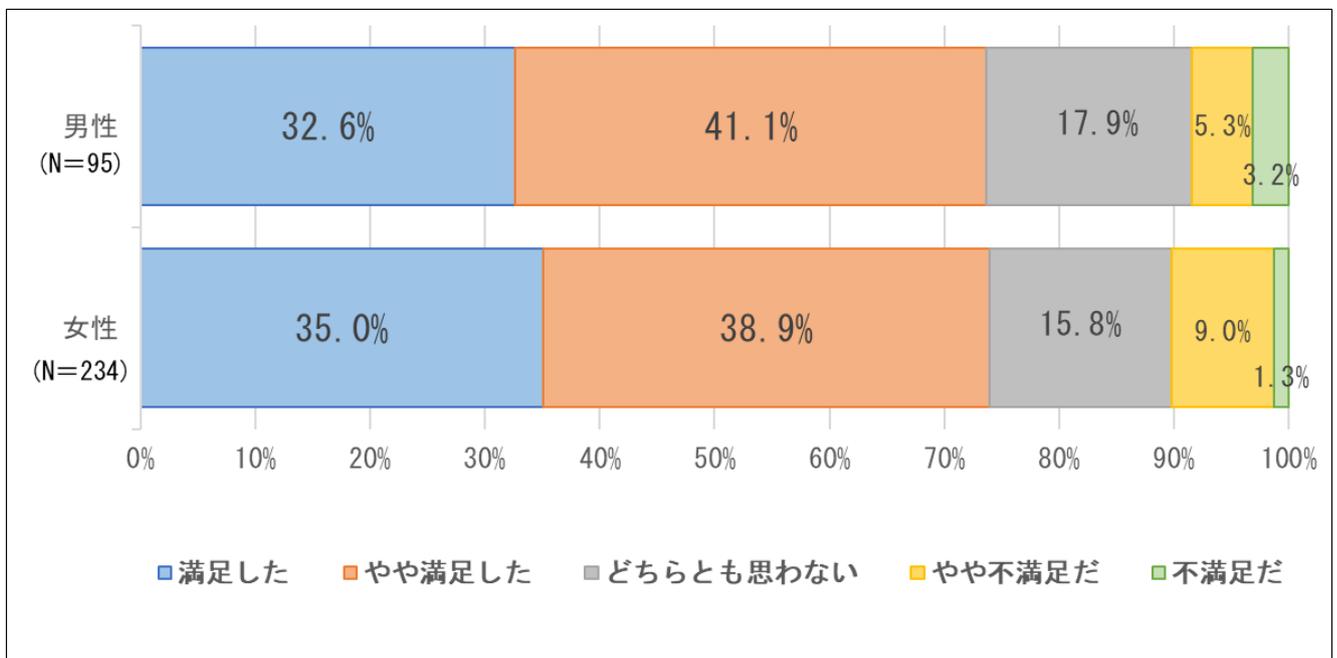
- 全体を通じ、図書館の利用環境に対して満足している傾向がみられました。（図表 4-5 参照）
- 年齢別にみると、29 歳以下で「やや不満足だ」と感じている方の比率が高くなっています。29 歳以下の利用率が低くなっている要因と直結している可能性もありますので、検証する必要があるのではないかと考えます。（図表 4-7 参照）
- 主に利用する図書館別にみると、図書館によって市民の満足度が異なる結果となりました。何が要因となっているのか検証する必要があると考えられます。（図表 4-8 参照）

図表 4-5 によると、図書館を利用したと回答した方のうち、図書館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した方が多くなり、「やや不満足だ」「不満足だ」と回答した方を大きく上回る結果となりました。



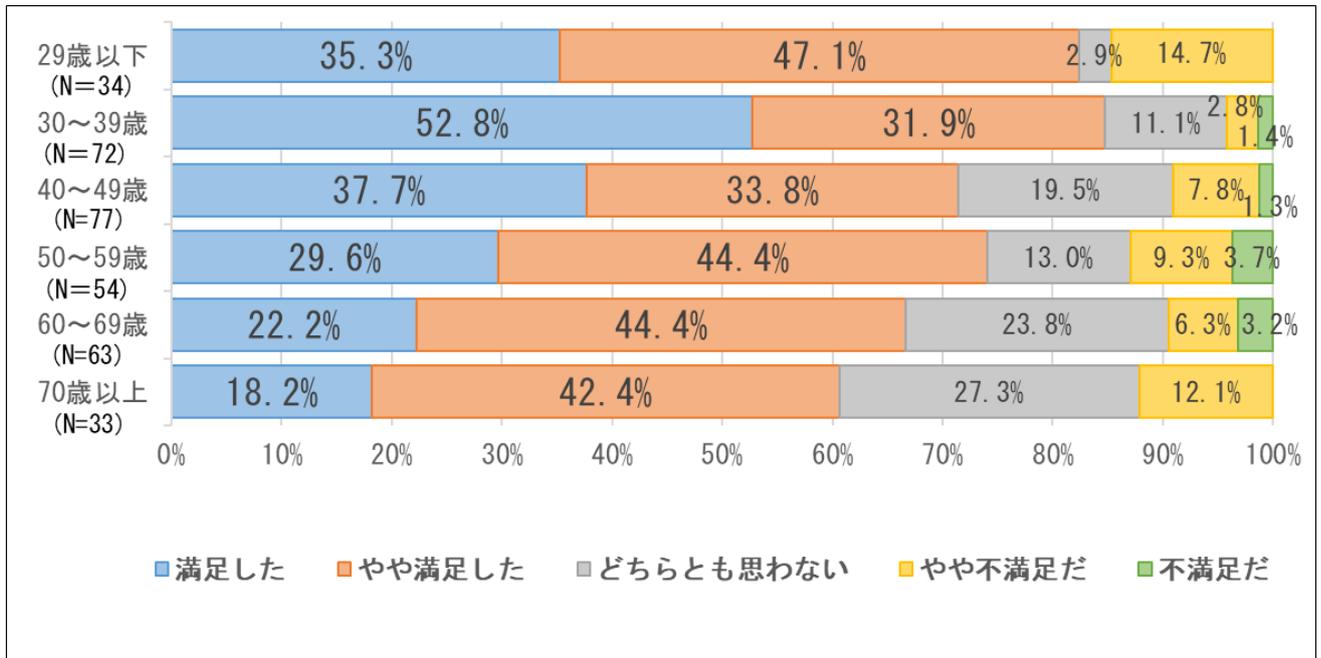
図表 4-5 図書館の利用環境に対する満足度（単純集計）（N=334）

図表 4-6 によると、図書館を利用したと回答した方のうち、男女別を問わず図書館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した比率が高くなりました



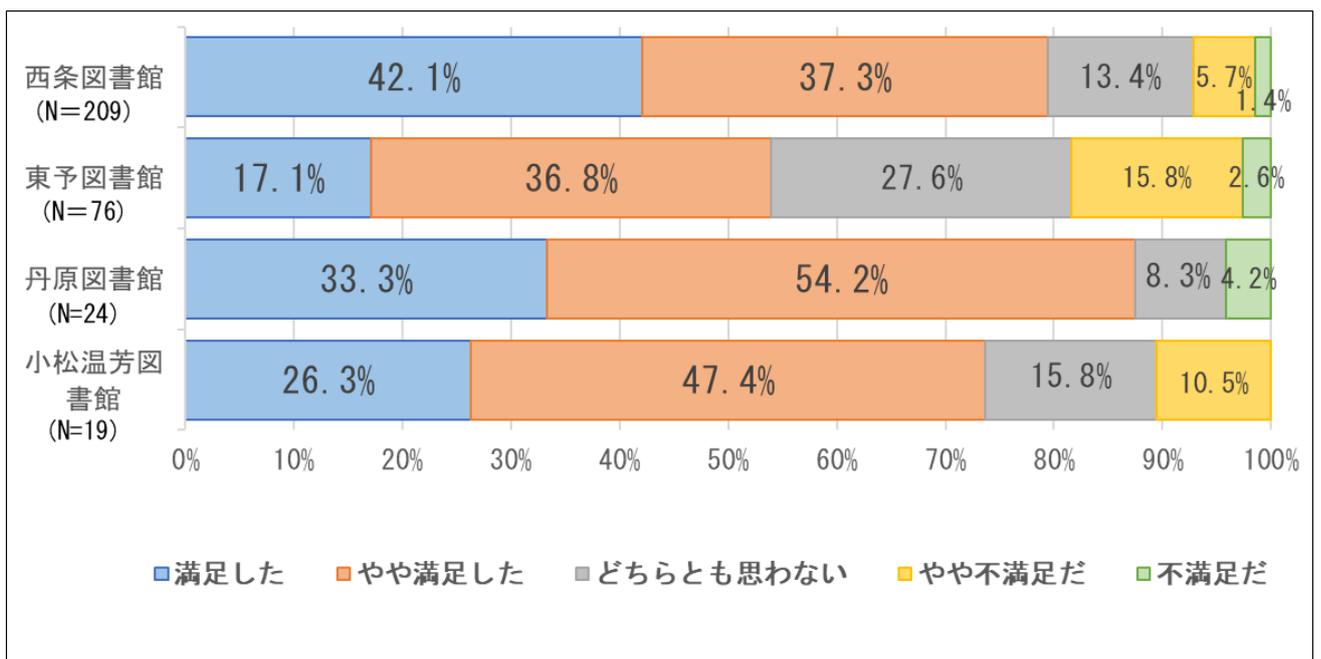
図表 4-6 図書館の利用環境に対する満足度（男女別）

図表 4-7 によると、図書館を利用したと回答した方のうち、年齢が低くなるにつれて、図書館の利用環境に「満足した」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 4-7 図書館の利用環境に対する満足度（年齢別）

図表 4-8 によると、図書館を利用したと回答した方のうち、すべての図書館を通じ、図書館の利用環境に「満足している」「やや満足している」と回答した比率が高くなりました。一方で、主に利用する図書館によって利用環境の満足度に差異が生じる結果となりました。



図表 4-8 図書館の利用環境に対する満足度（主に利用した図書館別）

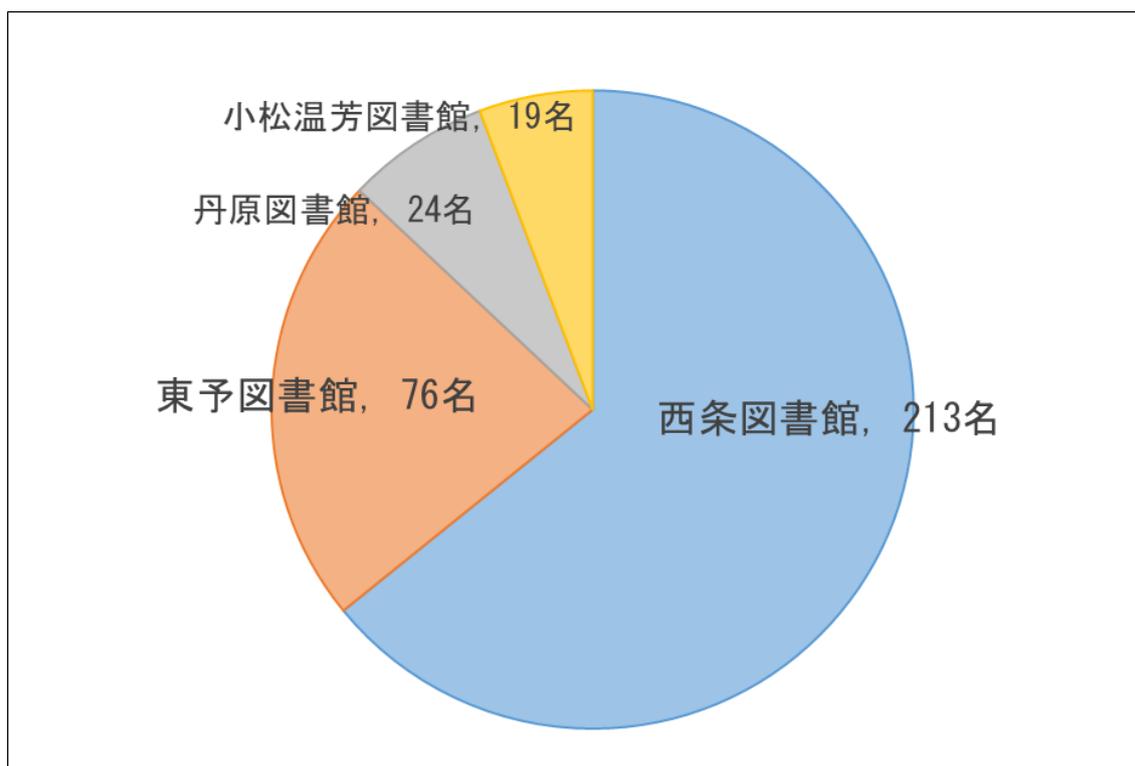
(3) 主に利用している図書館

【結果概要】

- 各地区における人口構成と比較し、西条図書館を利用していると回答した比率が高くなる一方で、丹原図書館と小松温芳図書館を利用していると回答した比率が低くなりました。(図表 4-9 参照)
- 小松温芳図書館は、主に利用していると回答した方の大半が女性となりました。(図表 4-10)
- すべての図書館において、概ね図書館が立地している地区に居住されている方が主に利用しているという結果となりました。(図表 4-12 参照)

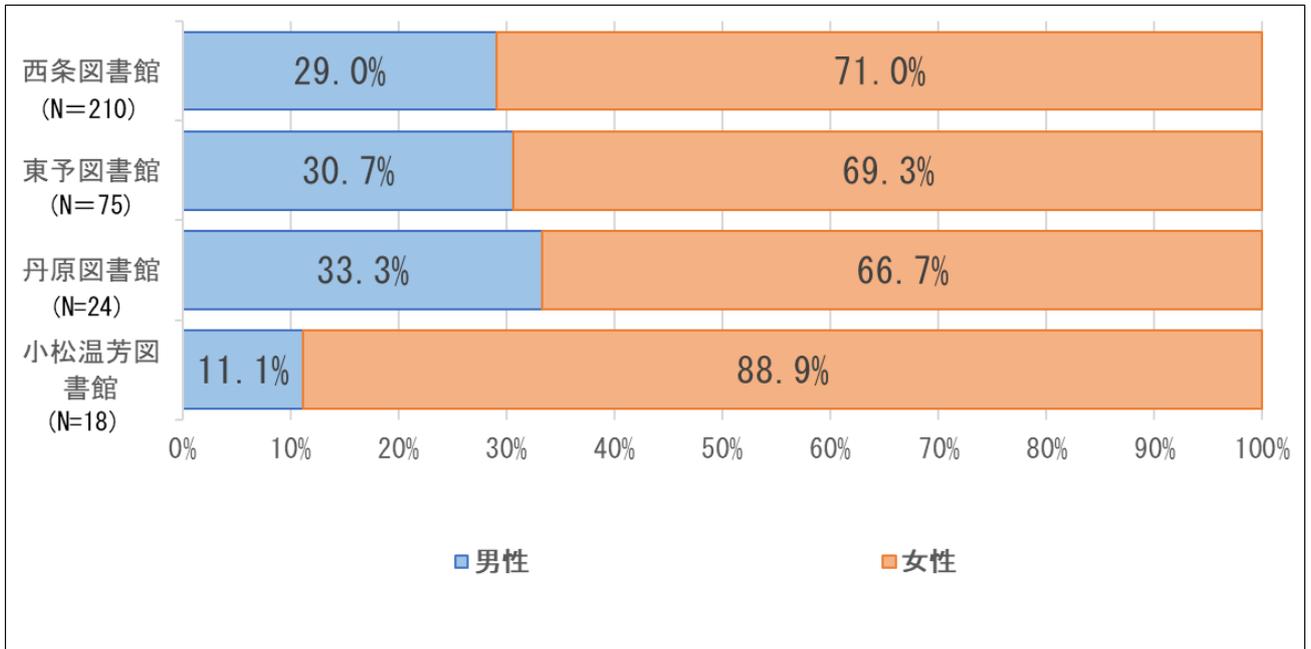
図表 4-9 によると、図書館を利用したと回答した方のうち、西条図書館を主に利用していると回答した比率が高くなり、西条地区の人口規模と比較してもやや多い結果となりました。また、その他の図書館については、各地区における人口構成と比較し、主に利用していると回答した比率が低くなる傾向がみられました。

なお、主に移動図書館を利用していると回答した方はいませんでした。



図表 4-9 主に利用している図書館 (単純集計) (N=332)

図表 4-10 によると、図書館を利用されたと回答した方のうち、小松温芳図書館を主に利用したと回答した方の大半が女性という傾向がみられました。その他の図書館については、主に利用していると回答した方の概ね 6~7 割程度が女性という傾向がみられました。



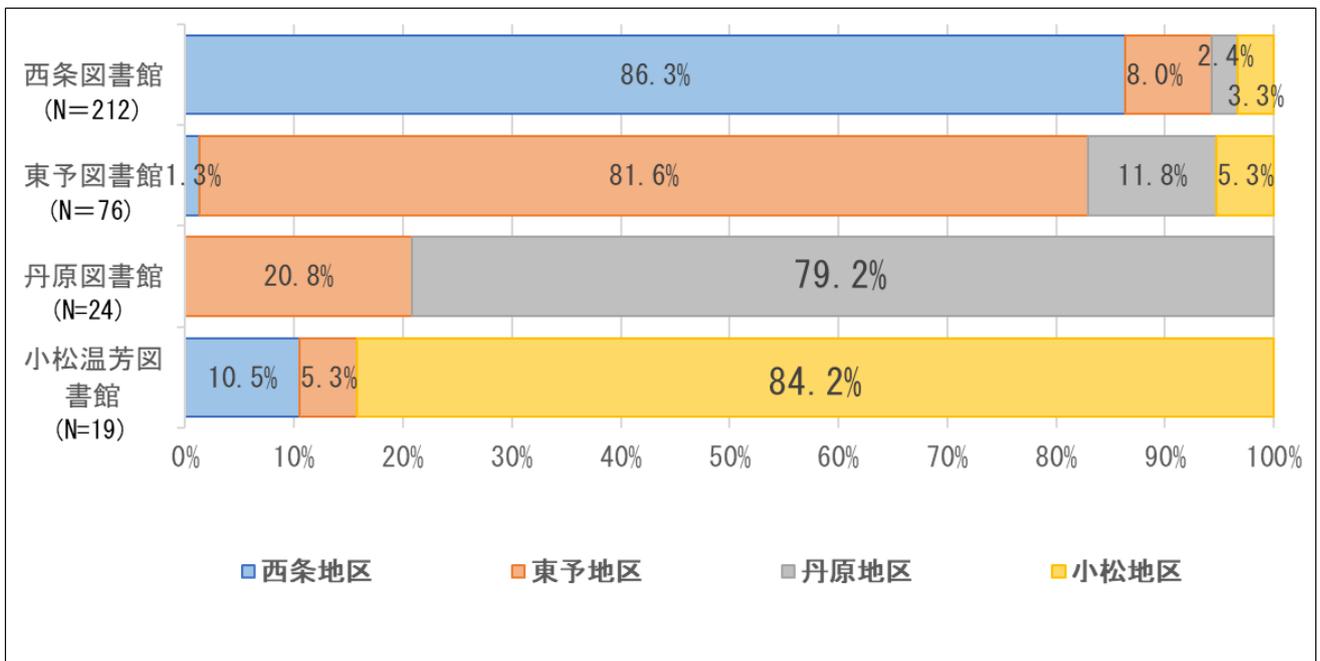
図表 4 - 1 0 主に利用している図書館別の男女構成

図表 4-11 によると、すべての図書館を通じ、図書館を利用されたと回答した方の年齢構成に大きな差異はみられませんでした。



図表 4 - 1 1 主に利用している図書館別の年齢構成

図表 4-12 によると、すべての図書館において、概ね図書館が立地している地区に居住されている方が主に利用したと回答した比率が高くなりました。



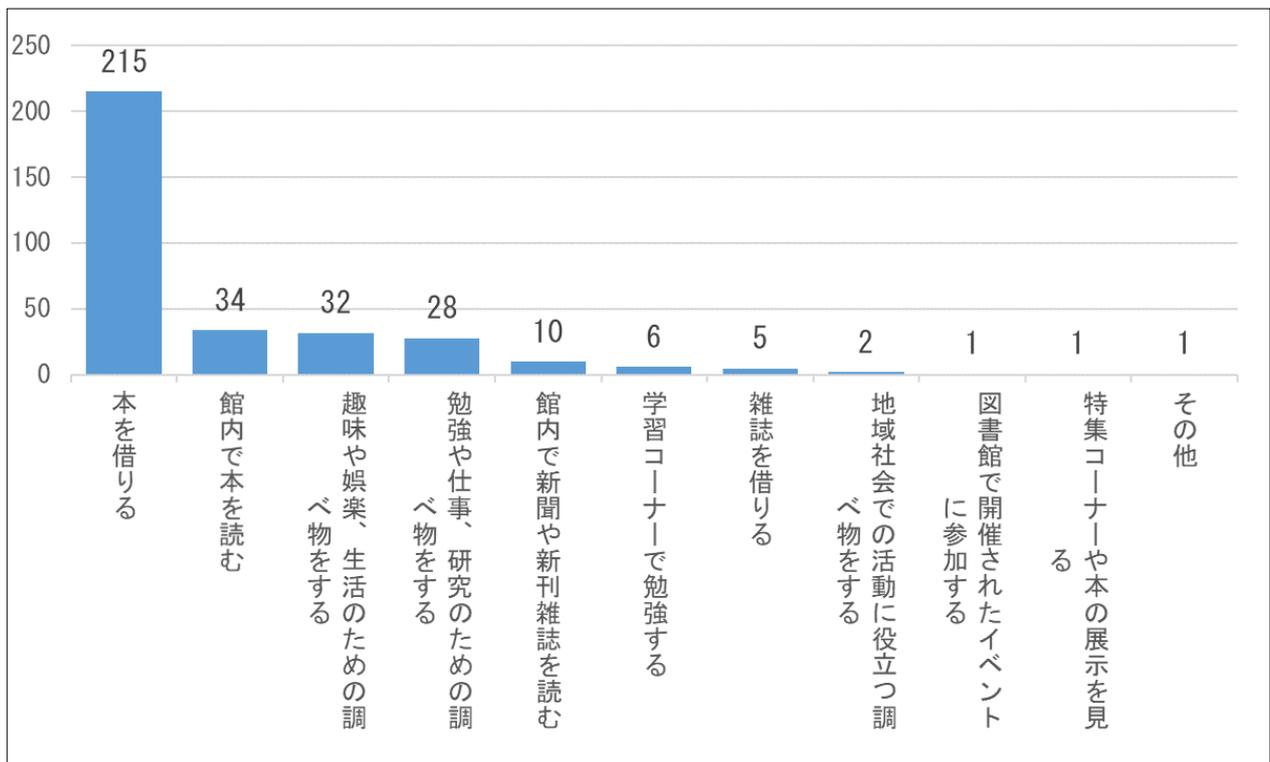
図表 4-12 主に利用している図書館別のお住まいの地区構成

(4) 図書館を利用した主な目的

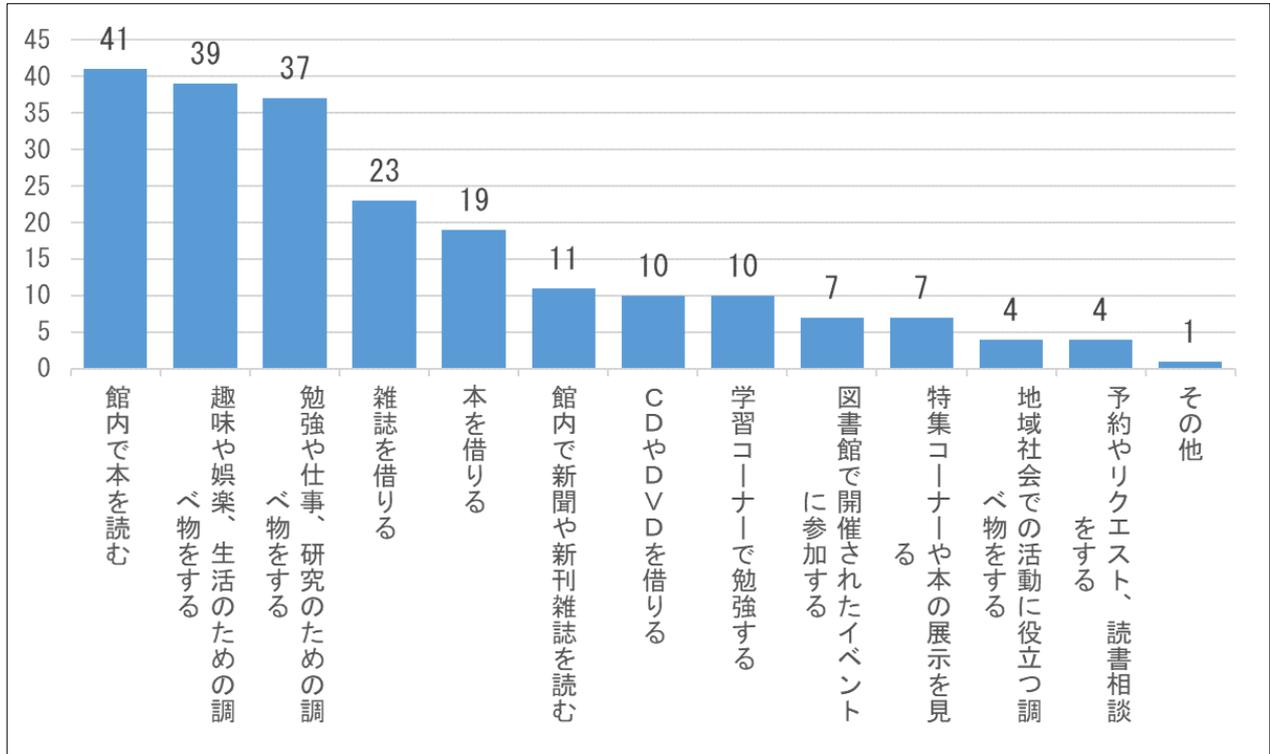
【結果概要】

- 図書館を利用される方の多くが、本を借りることを目的としている傾向が見られました。(図表 4-13、4-14 参照)
- 男女別にみると、女性と比較して男性が本を借りる以外の目的で図書館を利用している傾向がみられます。(図表 4-15 参照)
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて本を借りる以外の目的で図書館を利用されている傾向がみられます。年齢が低い方の利用促進を図るうえで、いかに年齢が低い方の利用目的の多様化を図っていくのかという点がひとつのポイントになると推察されます(図表 4-16 参照)

図表 4-13 によると、図書館を利用されたと回答した方のうち、「本を借りる」ために利用したと回答した方が圧倒的に多くなりました。また、図表 4-14 によると、第 2 選択を回答した方自体が少なくなったことから、大半の方が本を借りる目的で図書館を利用されたと推察します。

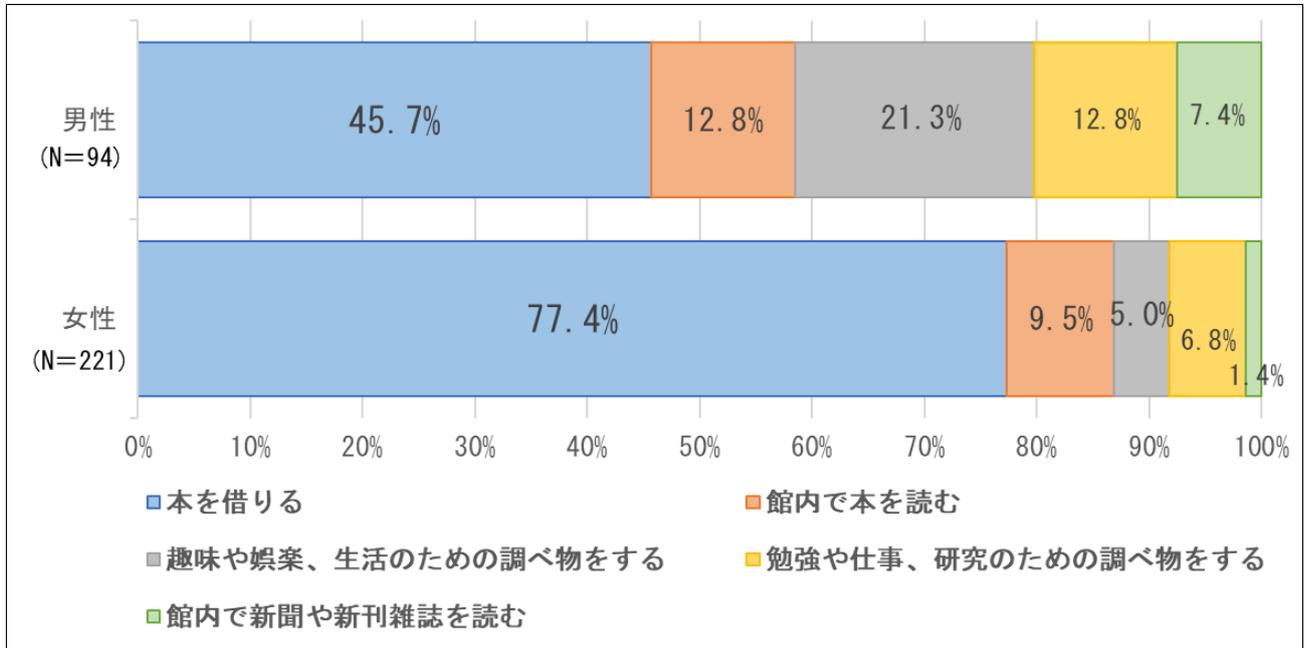


図表 4-13 図書館を利用した主な目的（第1選択・単純集計）（N=335）



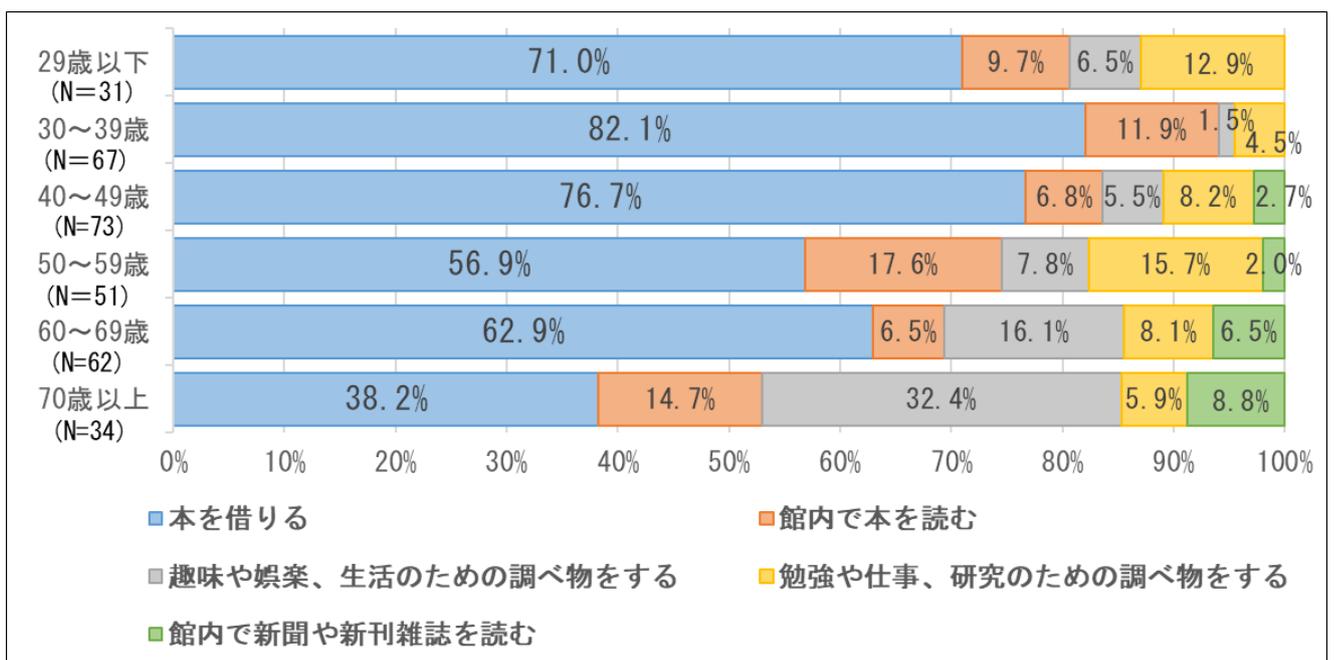
図表 4-14 図書館を利用した主な目的（第2選択・単純集計）（N=213）

図表 4-15 によると、図書館を利用したと回答した方のうち、男性と比較して女性で「本を借りる」ために図書館を利用したと回答した比率が高くなりました。また、男性と比較して女性で「本を借りる」と回答した比率が高くなる一方で、女性と比較し男性で「趣味や娯楽、生活のための調べ物をする」「館内で本を読む」「勉強や仕事、研究のための調べ物をする」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



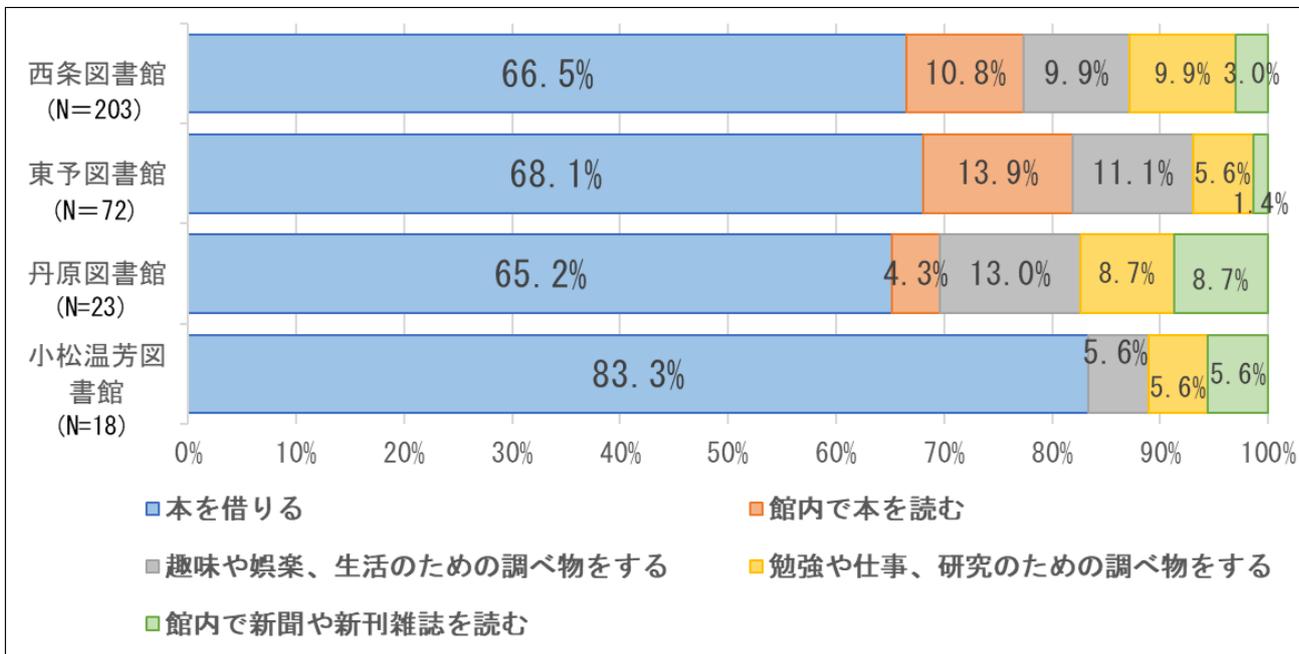
図表 4-15 図書館を利用した主な目的（第1選択上位5項目・男女別）

図表 4-16 によると、図書館を利用したと回答した方のうち、年齢が低くなるにつれて「本を借りる」ために利用したと回答した比率が高くなる傾向がみられました。一方で、年齢が高くなるにつれて、「趣味や娯楽、生活のための調べ物をする」「館内で新聞や新刊雑誌を読む」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 4-16 図書館を利用した主な目的（第1選択上位5項目・年齢別）

図表 4-17 によると、図書館を利用したと回答した方のうち、すべての図書館において「本を借りる」ために図書館を利用したと回答した比率が最も高くなりました。また、西条図書館や東予図書館では「館内で本を読む」と回答した方が多くなった一方で、小松温芳図書館では「館内で本を読む」と回答した方が1名もないという結果となりました。



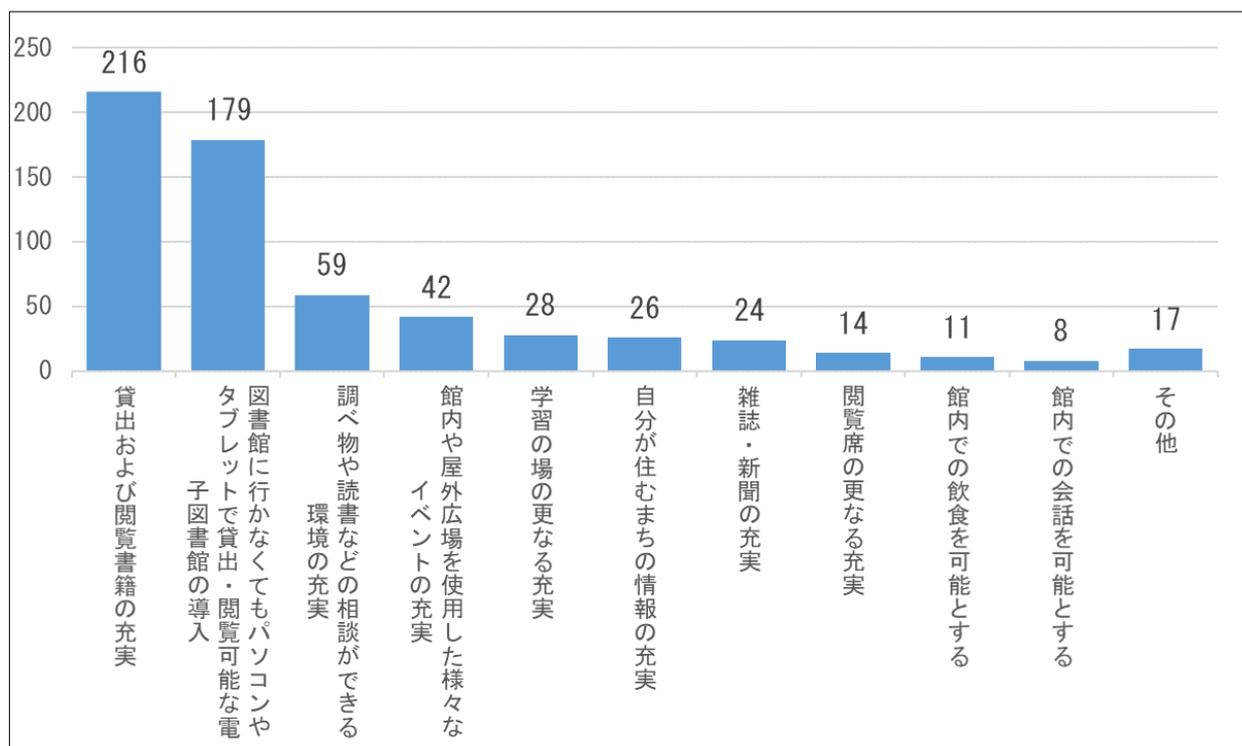
図表 4-17 図書館を利用した主な目的（第1選択上位5項目・主に利用している図書館別）

(5) 図書館に関連して今後力を入れるべき点

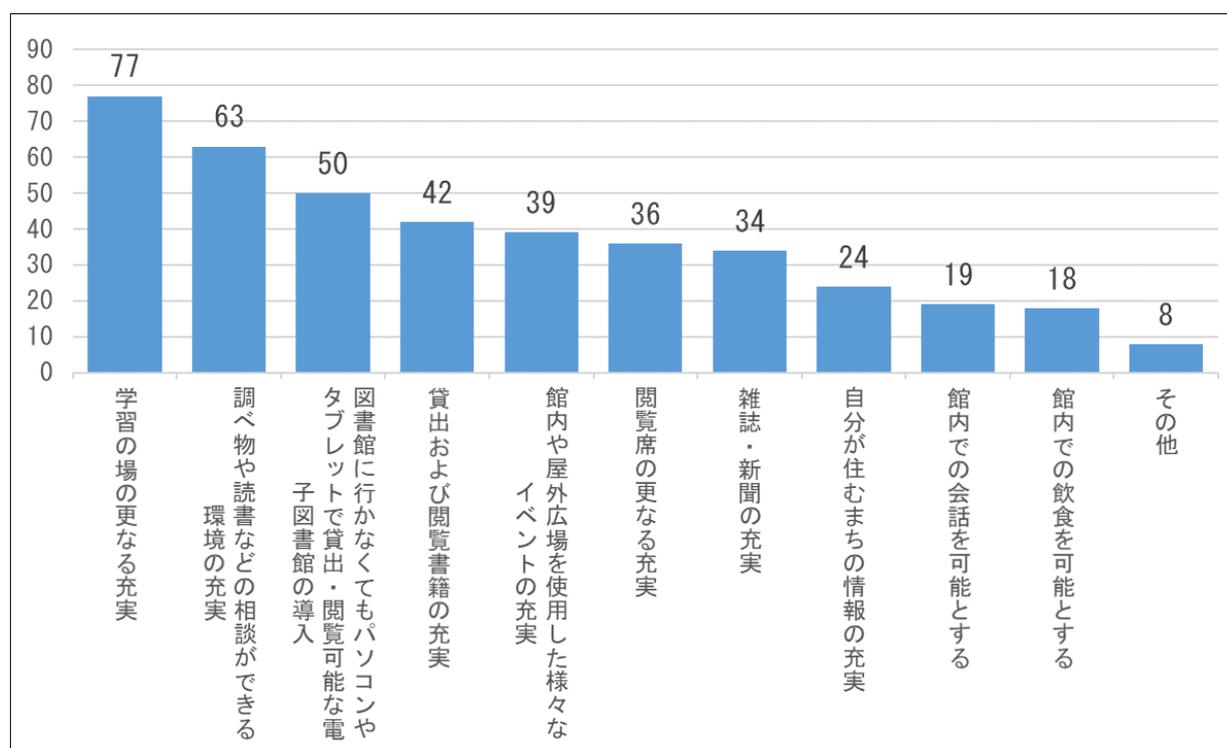
【結果概要】

- 書籍の充実に力を入れるべきとする方が多くなる一方で、近年導入が進みつつある電子図書館の導入に力を入れるべきとする方が多くなりました。(図表 4-18、4-19 参照)
- 年齢別にみると、特に 39 歳以下で書籍を充実するよりも、電子図書館の導入に力を入れるべきと回答した比率が高くなる傾向がみられました。(図表 4-21 参照)
- お住まいの地区別にみると、丹原地区や小松地区で書籍の充実や電子図書館の導入などに力を入れるべきとする傾向がみられました。(図表 4-22 参照)

図表 4-18 によると、「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した方が最も多くなり、次いで「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した方が多くなりました。また、図表 4-19 によると、第2選択では「学習の場の更なる充実」と回答した方が最も多くなり、次いで「調べ物や読書などの相談ができる環境の充実」と回答した方が多くなりました。

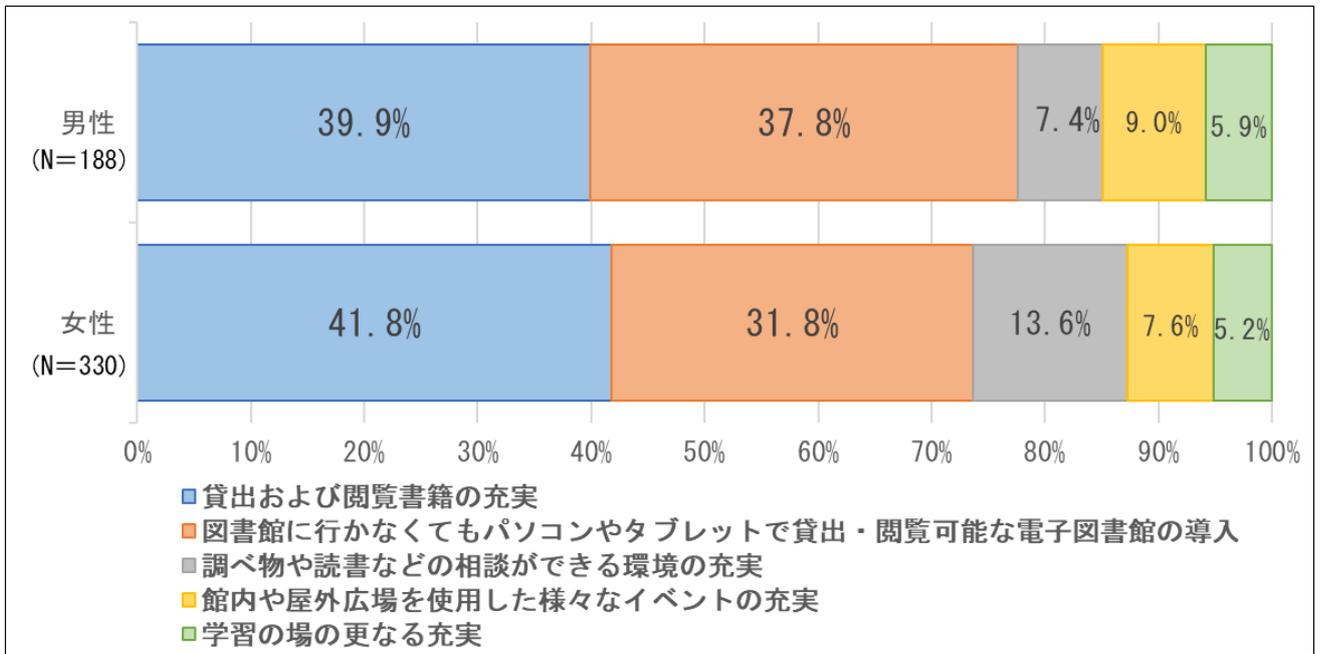


図表 4-18 図書館に関連して今後力を入れるべき点（第1選択・単純集計）（N=624）



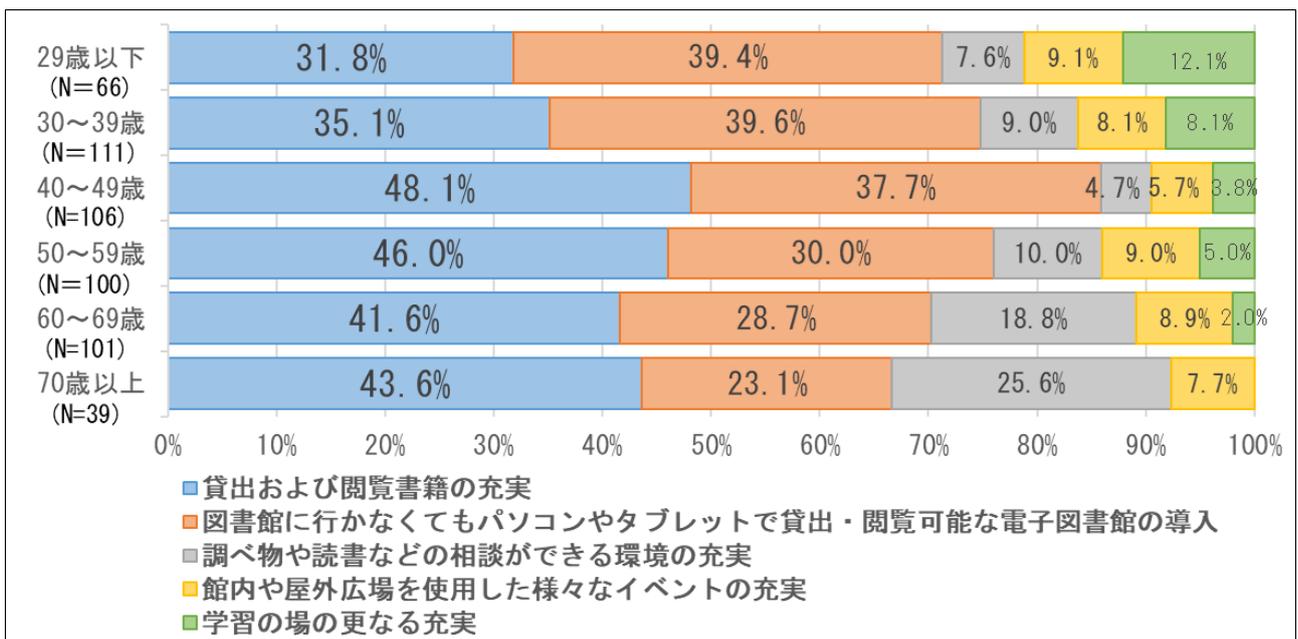
図表 4-19 図書館に関連して今後力を入れるべき点（第2選択・単純集計）（N=410）

図表 4-20 によると、男女ともに「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した比率が最も高くなる一方で、男性では「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」女性では「調べ物や読書などの相談ができる環境の充実」と回答した比率がやや高くなる傾向がみられました。



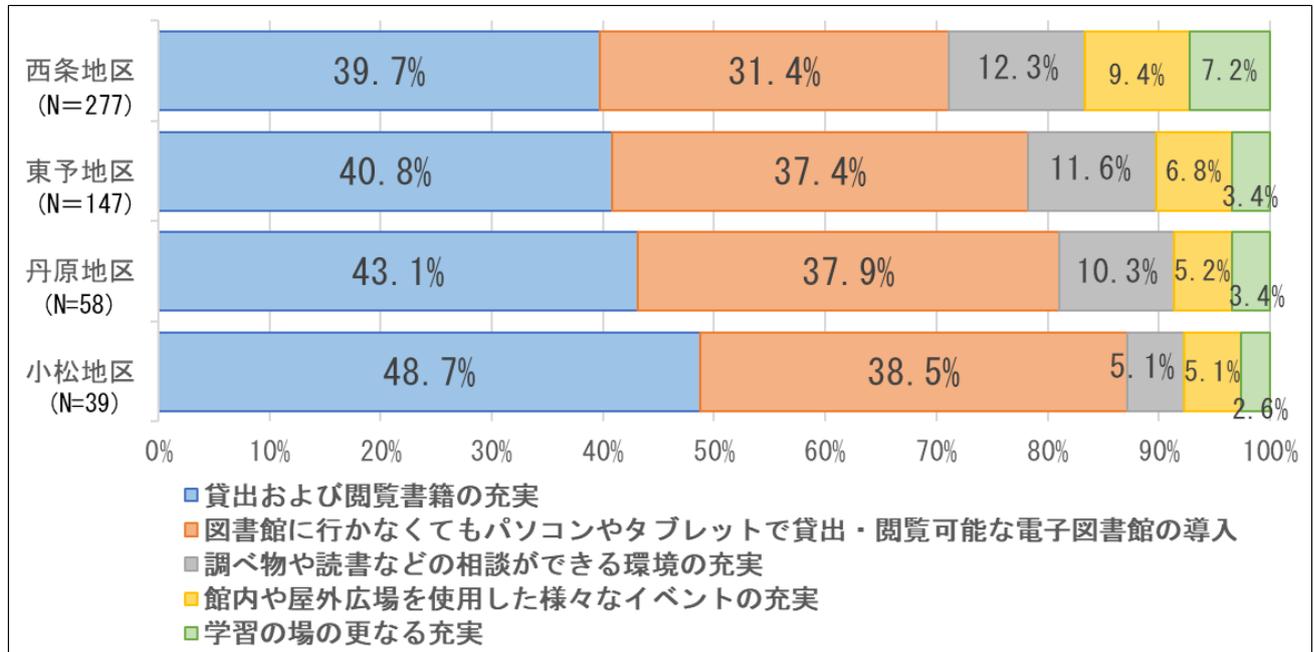
図表 4-20 図書館に関連して今後力を入れるべき点（男女別）

図表 4-21 によると、40 歳以上で「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した比率が最も高くなる一方で、39 歳以下では「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した比率が最も高くなりました。また、年齢が高くなるにつれて「調べ物や読書などの相談ができる環境の充実」と回答した比率が高くなり、年齢が低くなるにつれて「学習の場の更なる充実」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 4-21 図書館に関連して今後力を入れるべき点（年齢別）

図表 4-22 によると、すべての地区を通じて「貸出および閲覧書籍の充実」「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した比率が高くなり、特に丹原地区と小松地区で回答する比率が高くなる傾向がみられました。



図表 4-22 図書館に関連して今後力を入れるべき点
(第1選択上位5項目・お住まいの地区別)

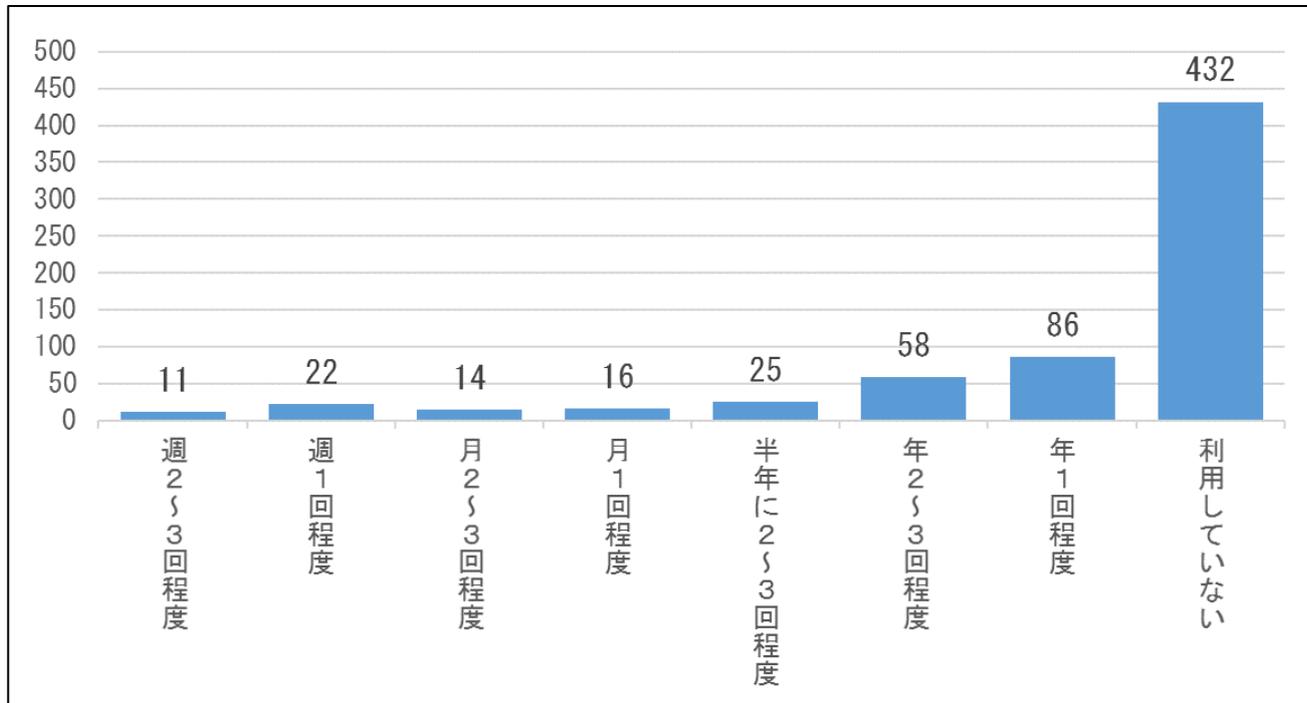
5 公民館について

(1) 公民館の利用状況

【結果概要】

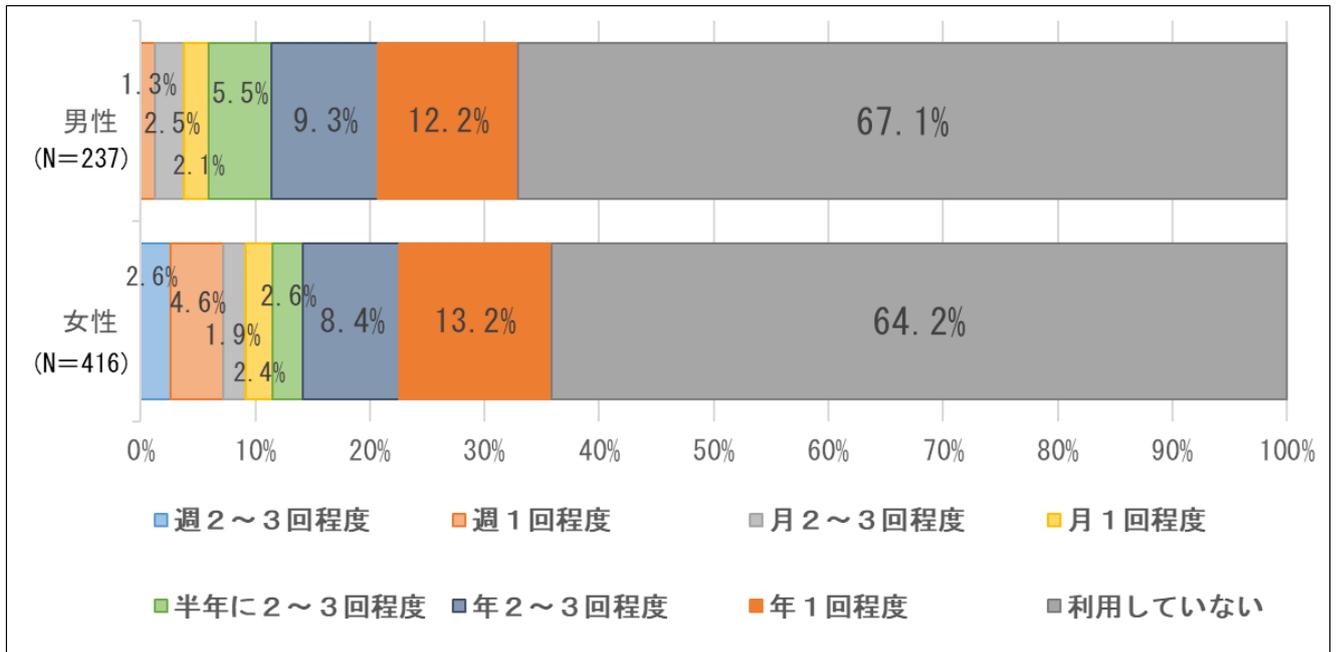
- 月1回以上公民館を利用していると回答した市民が約10人に1人となる一方で、6割以上の市民が公民館を利用していない状況にあります。いかに公民館を利用していない方が利用する公民館としていくのかという点が課題になっているものと推察します。(図表5-1参照)
- 年齢別にみると、年齢が高くなるほど公民館を利用する頻度が高く、逆に年齢が低くなるほど公民館を利用する頻度が低くなる傾向がみられます。公民館の利用促進を図っていくためには、若い方が公民館を利用する方法を考えることがポイントになると推察します。(図表5-3参照)

図表5-1によると、公民館を「利用していない」と回答した方が最も多く全体の6割を超えており、次いで「年1回程度」利用していると回答した方が多くなりました。また、月1回程度以上利用すると回答した方は少なくなる中、「ほぼ毎日」利用していると回答した方はいませんでした。



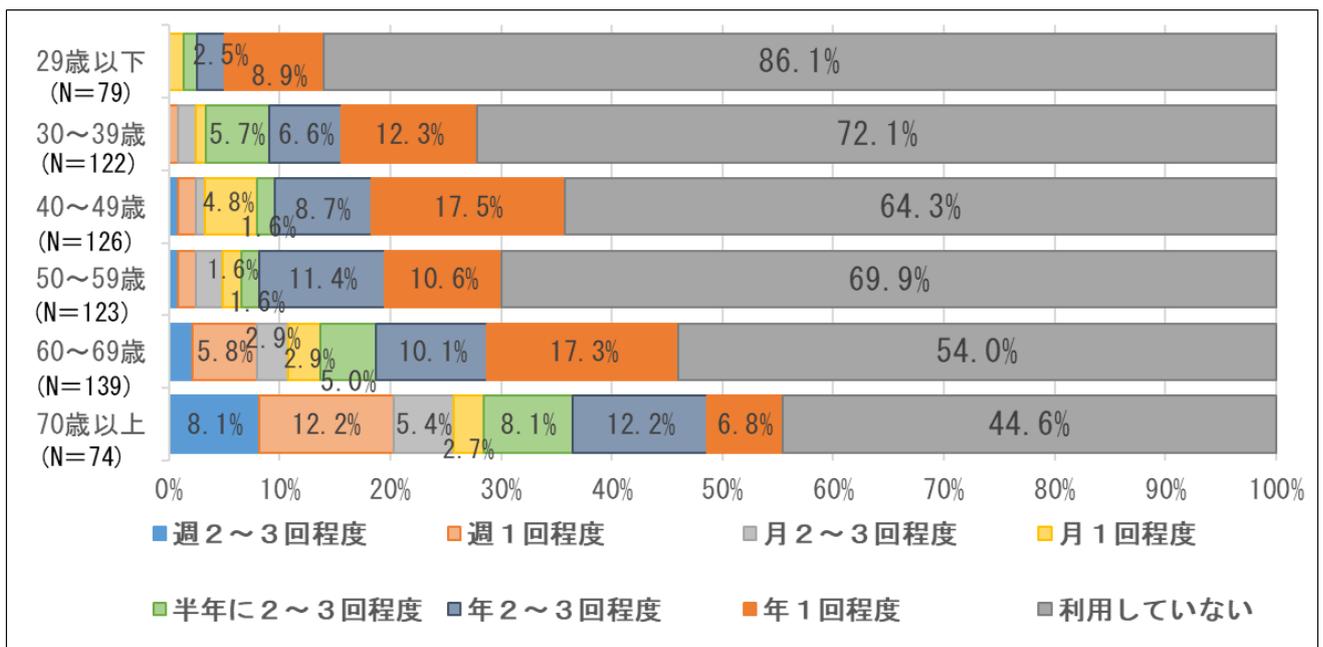
図表5-1 公民館の利用状況(単純集計)(N=664)

図表 5-2 によると、男女ともに公民館を「利用していない」と回答した比率が最も高くなりましたが、どちらかといえば、男性と比較して女性で民館を利用している傾向がみられました。



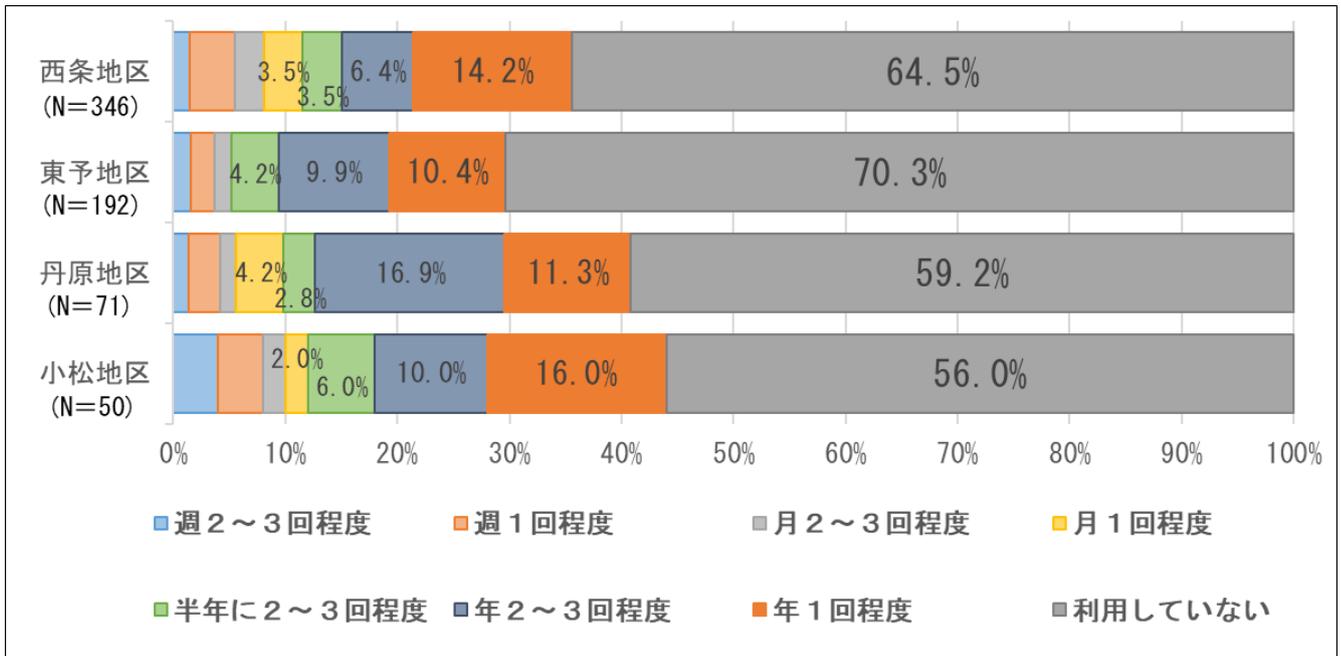
図表 5-2 公民館の利用状況（男女別）

図表 5-3 によると、70歳以上を除く全ての年齢において、公民館を「利用していない」と回答した比率が50%を超えました。また、29歳以下で「利用していない」と回答した比率が極端に高くなりました。



図表 5-3 公民館の利用状況（年齢別）

図表 5-4 によると、すべての地区を通じて公民館の利用頻度に大きな差異は生じていませんが、他の地区と比較して東予地区では「利用していない」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



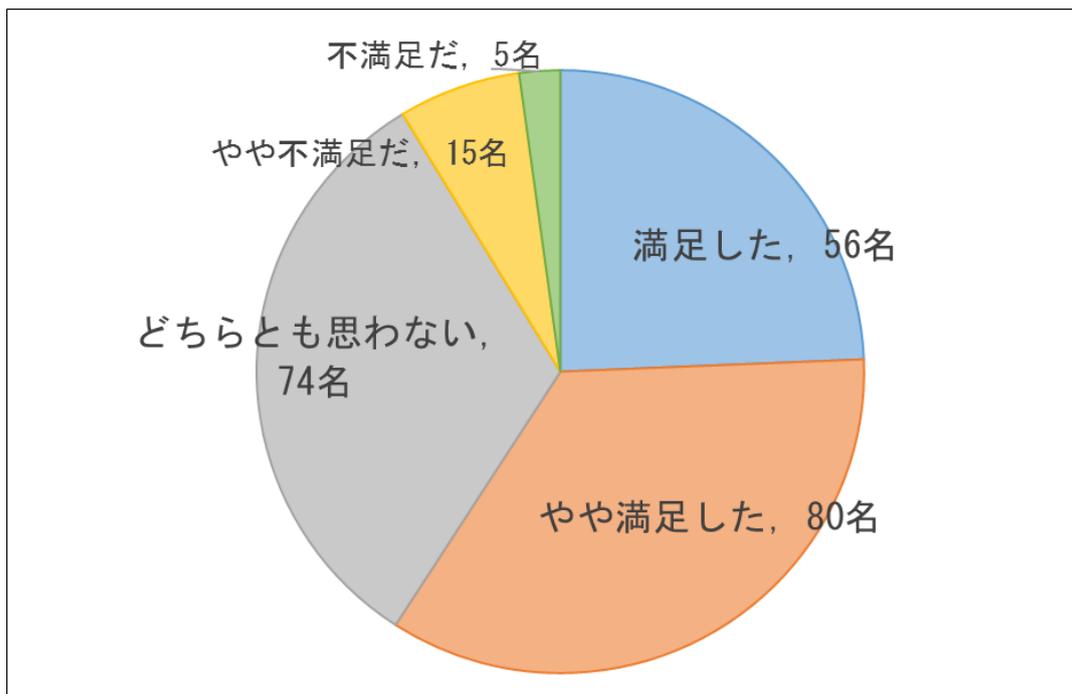
図表 5-4 公民館の利用状況（お住まいの地区別）

（2）公民館の利用環境に対する満足度

【結果概要】

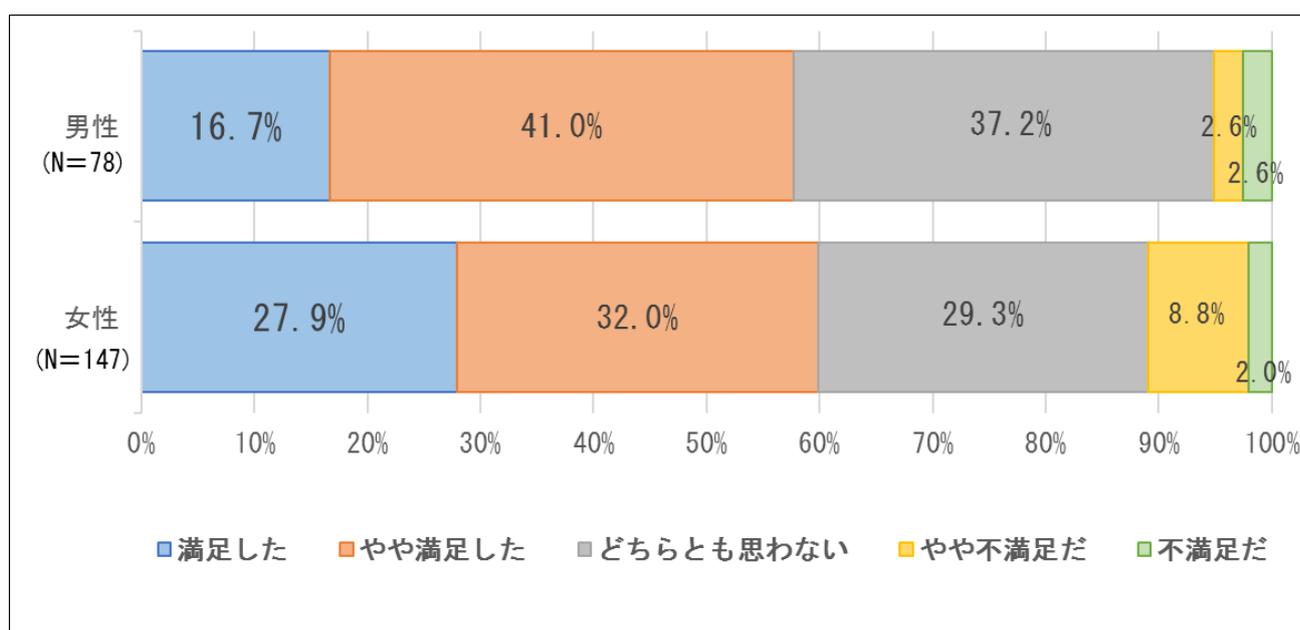
- 公民館を利用したと回答した方のうち、半数以上の方が利用環境に「満足している」「やや満足している」結果となりました。（図表 5-5 参照）
- 年齢別にみると、50 歳以上で「やや不満足だ」「不満足だ」と回答した方の比率が高くなる傾向がみられることから、どの部分に不満足さを感じているのか分析することも必要かと考えられます。（図表 5-7 参照）

図表 5-5 によると、公民館を利用したと回答した方のうち、公民館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した方が多くなり、「やや不満足だ」「不満足だ」と回答した方を上回る結果となりました。



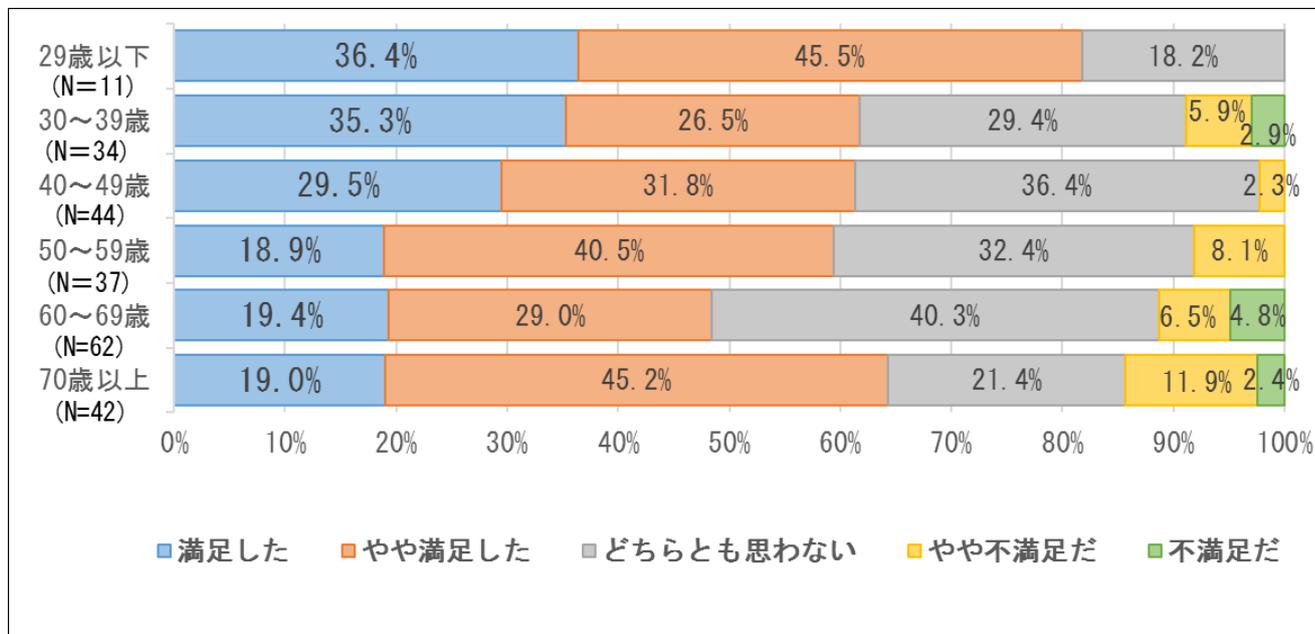
図表 5-5 公民館の利用環境に対する満足度（単純集計）（N = 230）

図表 5-6 によると、公民館を利用したと回答した方のうち、男女別を問わず公民館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した比率が高くなりました。どちらかといえば、男性と比較して女性において「満足した」「やや満足した」と回答した比率が高くなる傾向がみられる一方で、同じく女性において「やや不満足だ」「不満足だ」と回答した比率も高くなる傾向がみられました。



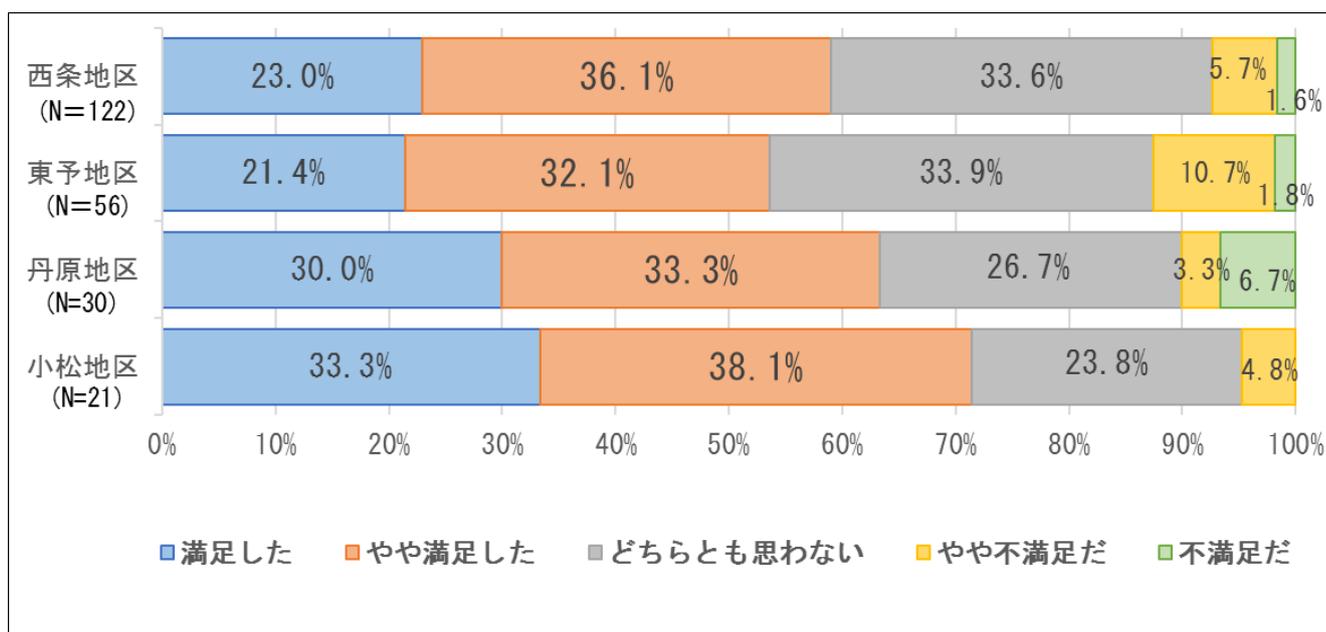
図表 5-6 公民館の利用環境に対する満足度（男女別）

図表 5-7 によると、公民館を利用したと回答した方のうち、年齢が低くなるにつれて、公民館の利用環境に「満足した」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。一方で、50歳以上においては、年齢が高くなるにつれて「やや不満足だ」「不満足だ」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 5-7 公民館の利用環境に対する満足度（年齢別）

図 5-8 によると、お住いの地区によって傾向の違いがみられるものの、すべての地区において「満足した」「やや満足した」と回答した比率が高くなりました。



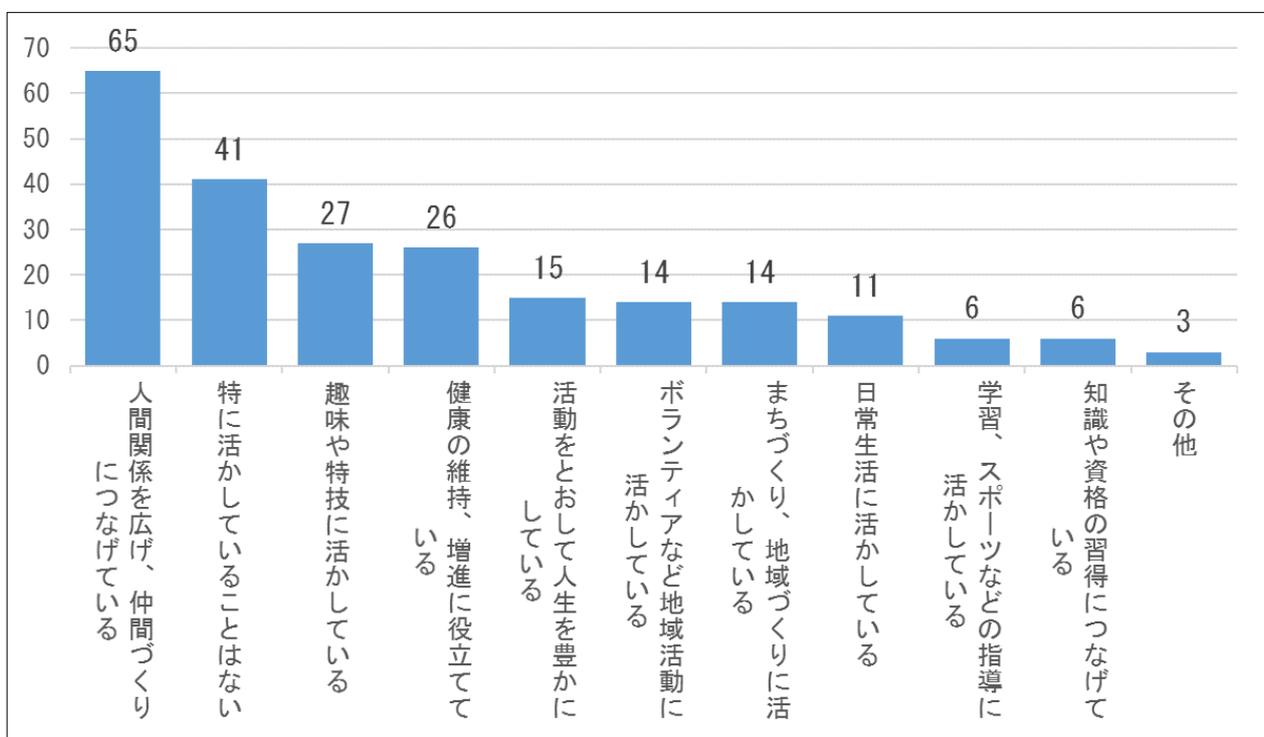
図表 5-8 公民館の利用環境に対する満足度（お住まいの地区別）

(3) 公民館活動を通じて身に付けた知識・技術

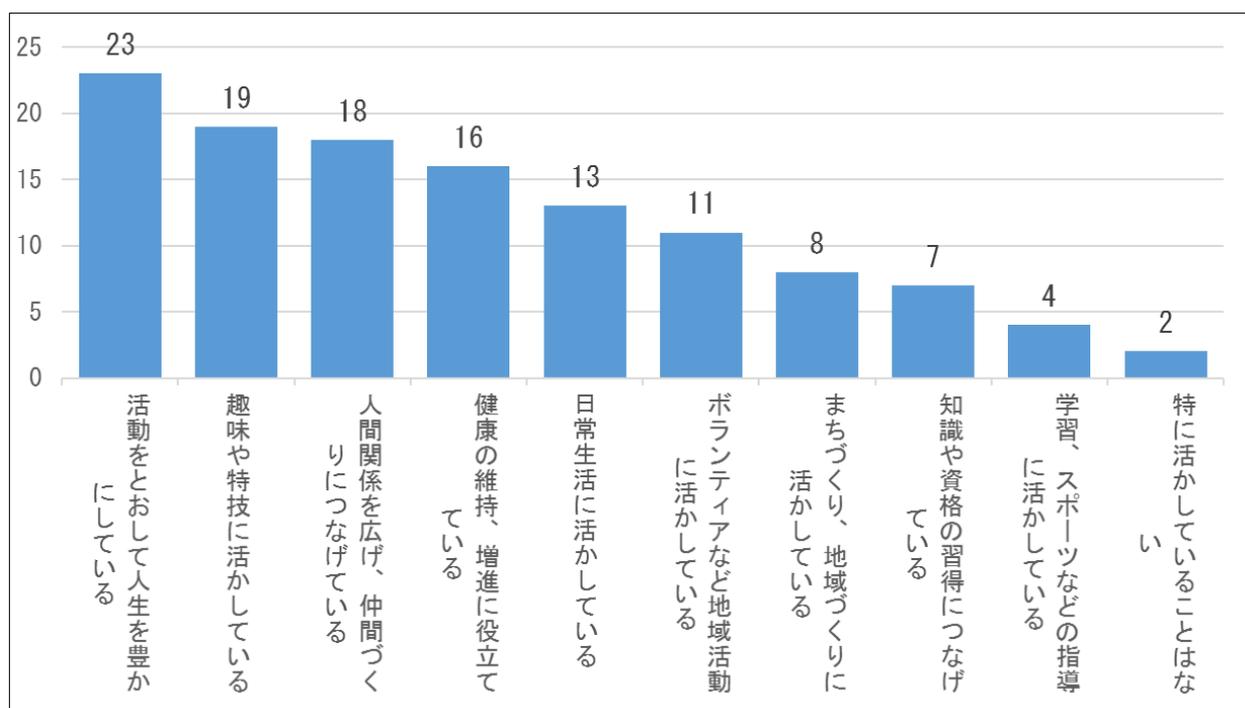
【結果概要】

- 公民館活動で人間関係の構築や仲間づくりを実現されたと感じている方が最も多くなる一方で、何も活かしていることが無いと回答する方も多くなりました。(図表 5-9、5-10 参照)
- 男女別、年齢別、お住まいの地区別において、公民館活動を通じて身に付けた知識や技術に対する考え方の違いがみえました。公民館活動の利用促進を図る場合、それらの特徴を押さえたうえで、利用を促そうと考えるターゲットによってポイントを絞った情報発信や活動促進などの取組が必要ではないかと推察します。(図表 5-11、5-12、5-13 参照)

図表 5-9 によると、「人間関係を広げ、仲間づくりにつなげている」と回答した方が最も多く、次いで「特に活かしていることはない」と回答した方が多くなりました。また、図表 5-10 によると、第2選択では「活動をとおして人生を豊かにしている」と回答した方が最も多く、次いで「趣味や特技に活かしている」「人間関係を広げ、仲間づくりにつなげている」と回答した方が多くなりました。

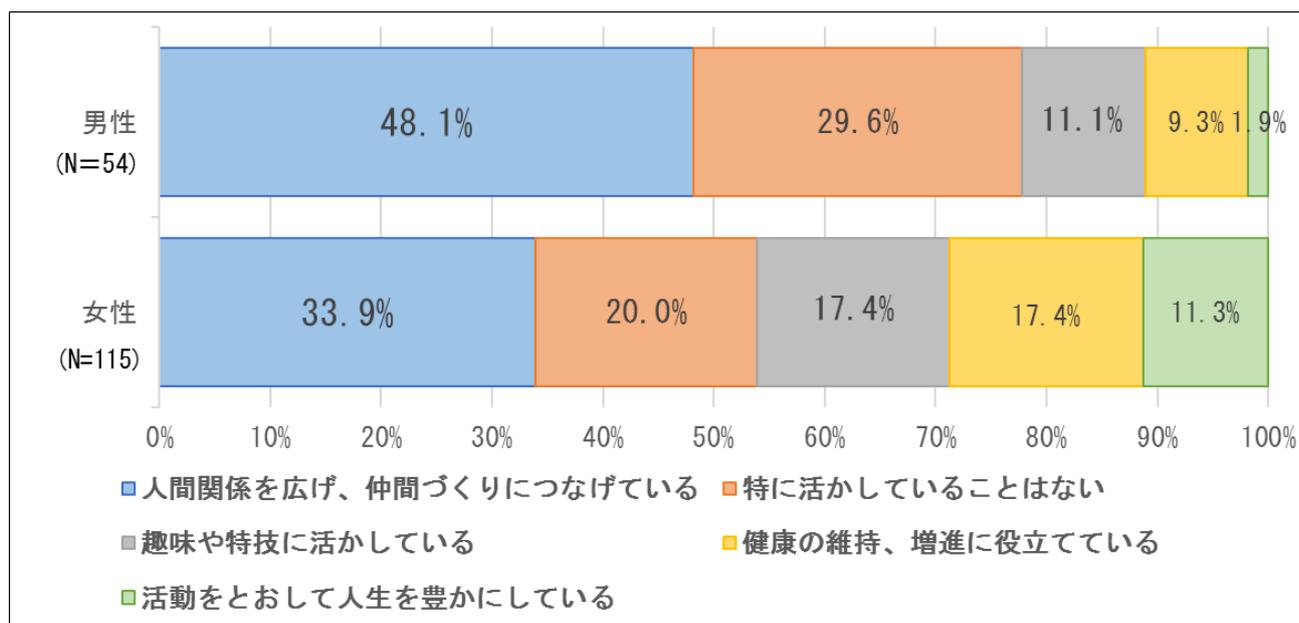


図表 5-9 公民館活動を通じて身に付けた知識・技術 (第1選択・単純集計) (N=228)



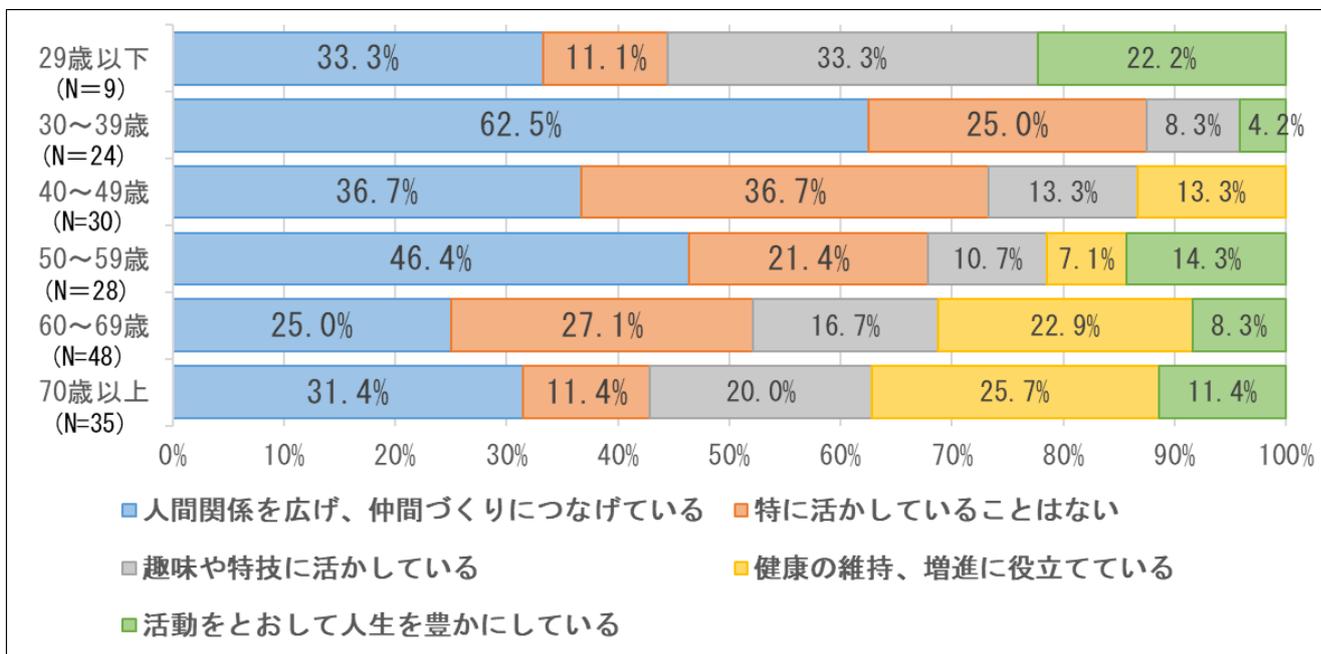
図表 5-10 公民館活動を通じて身に付けた知識・技術（第2選択・単純集計）（N=121）

図表 5-11 によると、男女ともに「人間関係を広げ、仲間づくりにつなげている」と回答した比率が最も高くなりましたが、女性と比較して男性で回答した比率が高くなる傾向がみられました。また、男性では「特に活かしていることはない」と回答した比率が高くなる一方で、女性では「趣味や特技に活かしている」「健康の維持、増進に役立っている」「活動をとおして人生を豊かにしている」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



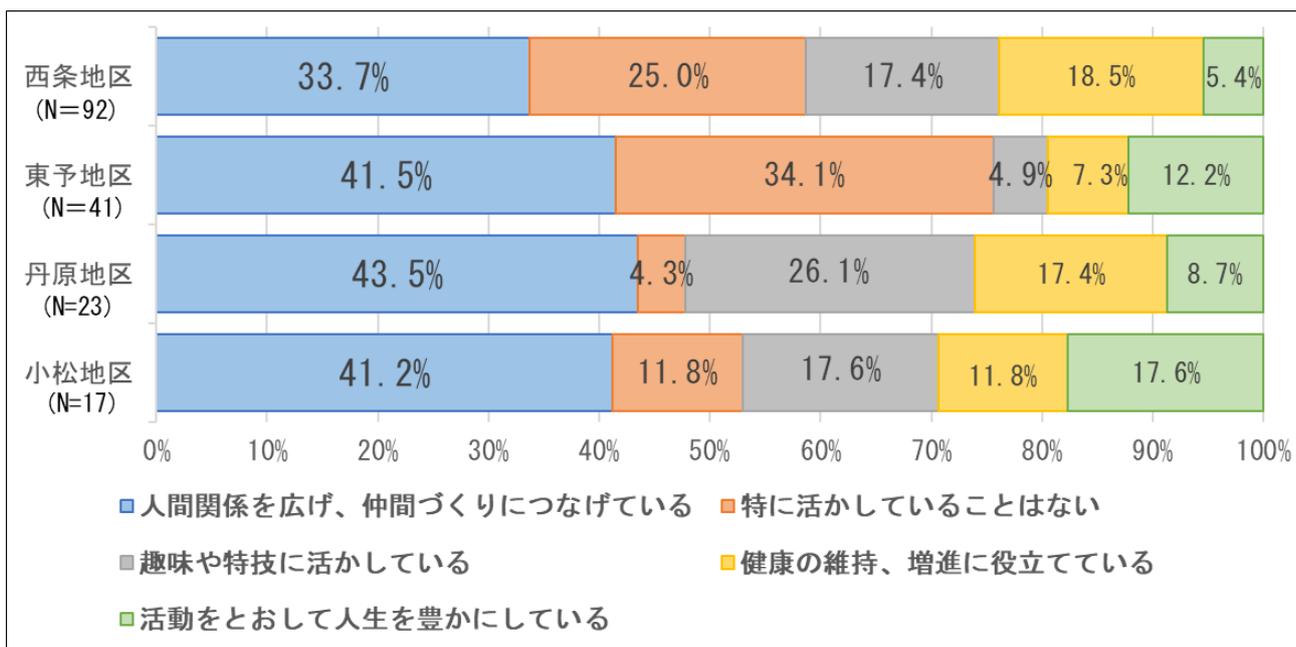
図表 5-11 公民館活動を通じて身に付けた知識・技術（男女別）

図表 5-12 によると、年齢が低くなるにつれて、「人間関係を広げ、仲間づくりにつなげている」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。また、年齢が高くなるにつれて「趣味や特技に活かしている」「健康の維持、増進に役立っている」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 5 - 1 2 公民館活動を通じて身に付けた知識・技術（年齢別）

図表 5-13 によると、すべての地区において「人間関係を広げ、仲間づくりにつなげている」と回答した比率が最も高くなりましたが、地区によって傾向の違いがみられました。



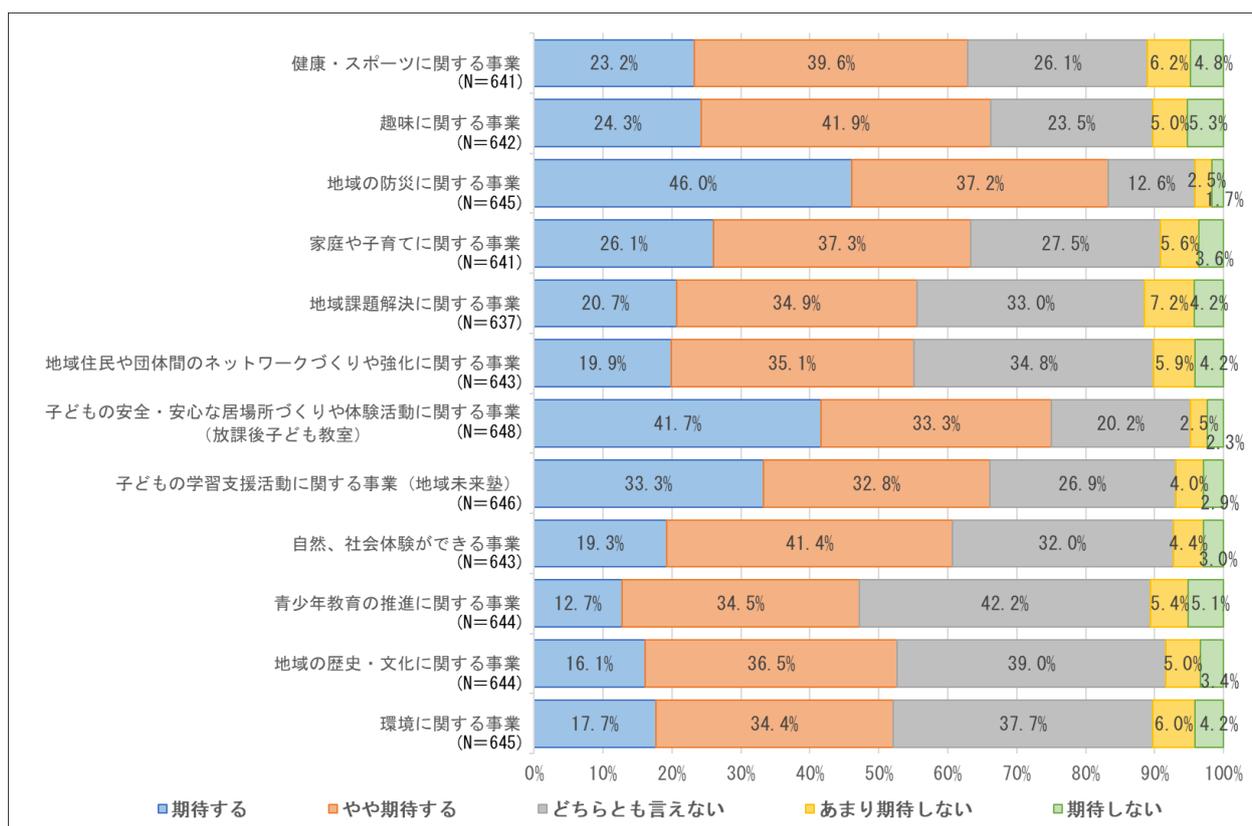
図表 5 - 1 3 公民館活動を通じて身に付けた知識・技術
（第1選択上位5項目・お住まいの地区別）

(4) 公民館に期待する事業

【結果概要】

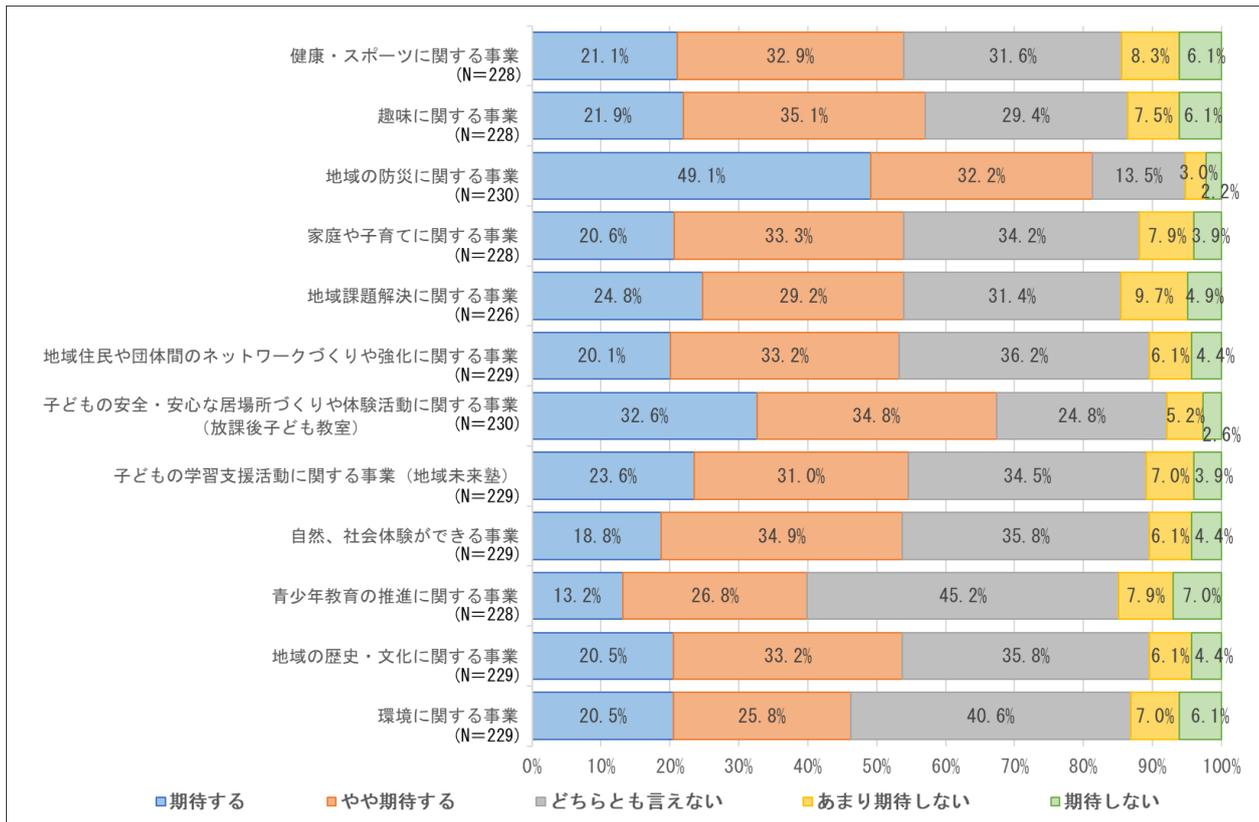
- 男女別、年齢別、お住いの地区別に関係なく、「地域の防災に関する事業」「子どもの安全・安心な居場所づくりや体験活動に係る事業（放課後子ども教室）」に対する期待が高くなる結果となりました。（図表 5-14、5-15、5-16、5-17、5-18、5-19、5-20、5-21、5-22、5-23 参照）
- 他の地区と比較し、小松地区で異なる傾向がみられました。（図表 5-20、5-21、5-22、5-23 参照）

図表 5-14 によると、「地域の防災に関する事業」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子どもの安全・安心な居場所づくりや体験活動に係る事業（放課後子ども教室）」と回答した比率が高くなりました。

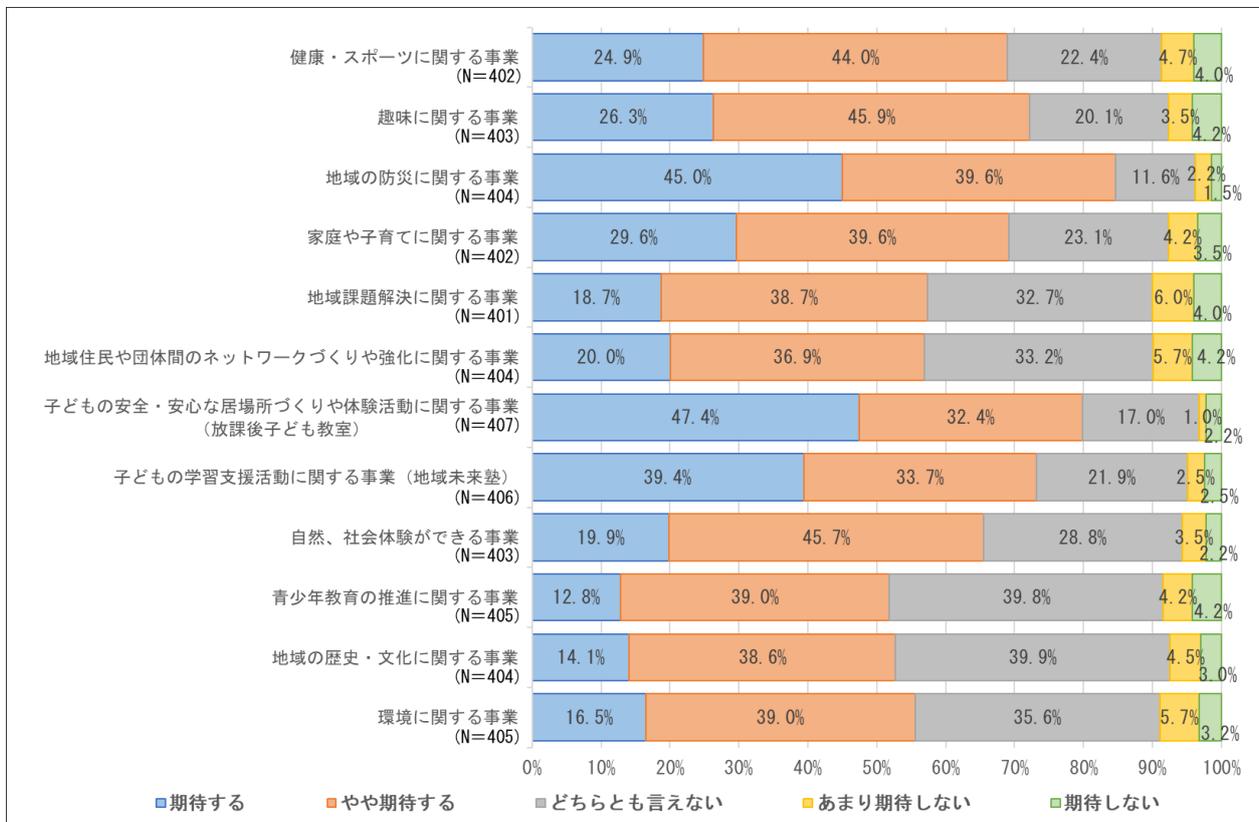


図表 5-14 公民館における事業別期待度（単純集計）

図表 5-15、5-16 によると、男女共通して、「地域の防災に関する事業」に対する期待が最も高くなり、次いで「子どもの安全・安心な居場所づくりや体験活動に係る事業（放課後子ども教室）」に対する期待が高くなりました。

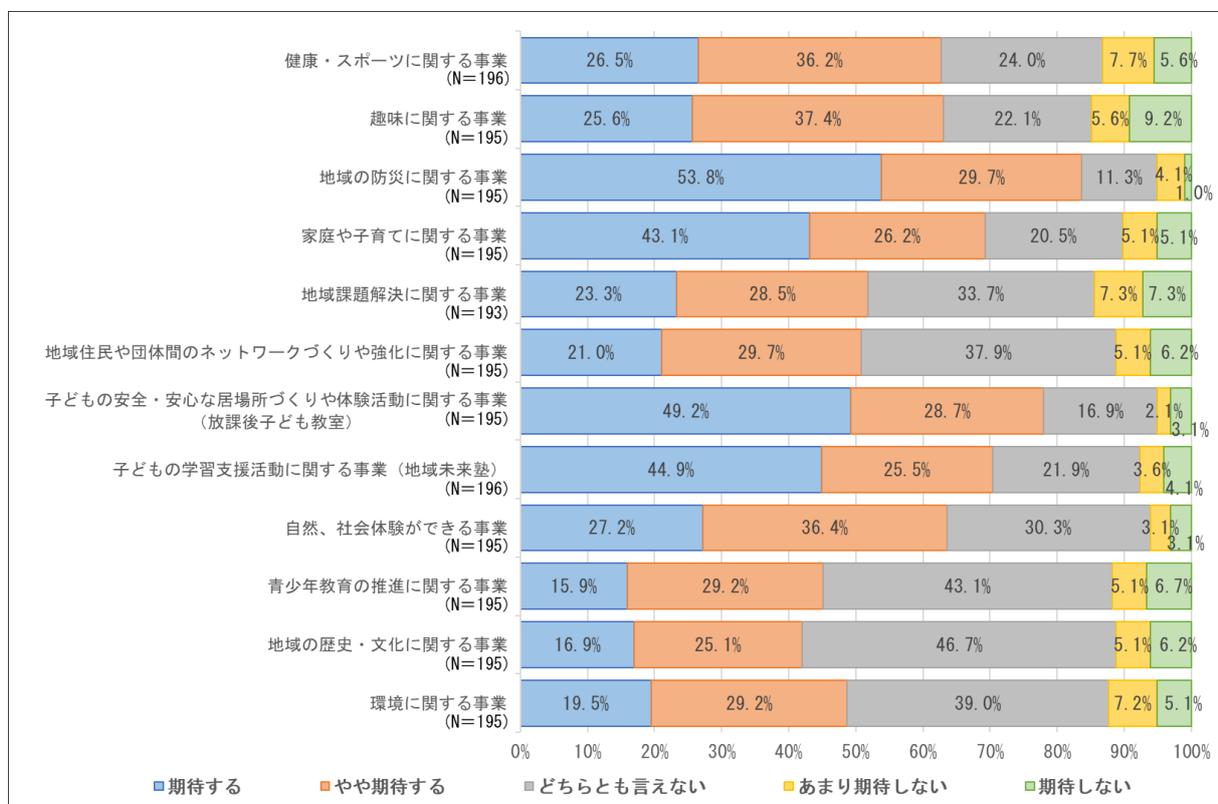


図表 5-15 公民館における事業別期待度 (男性)

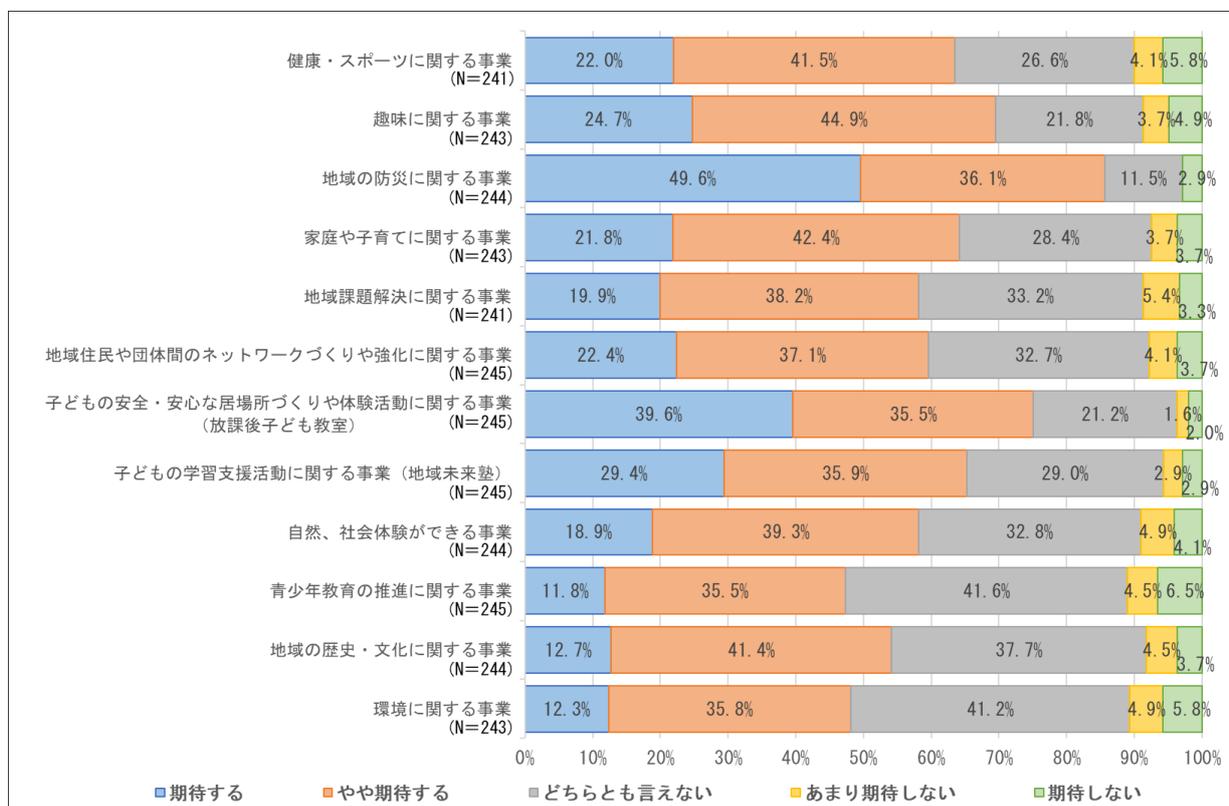


図表 5-16 公民館における事業別期待度 (女性)

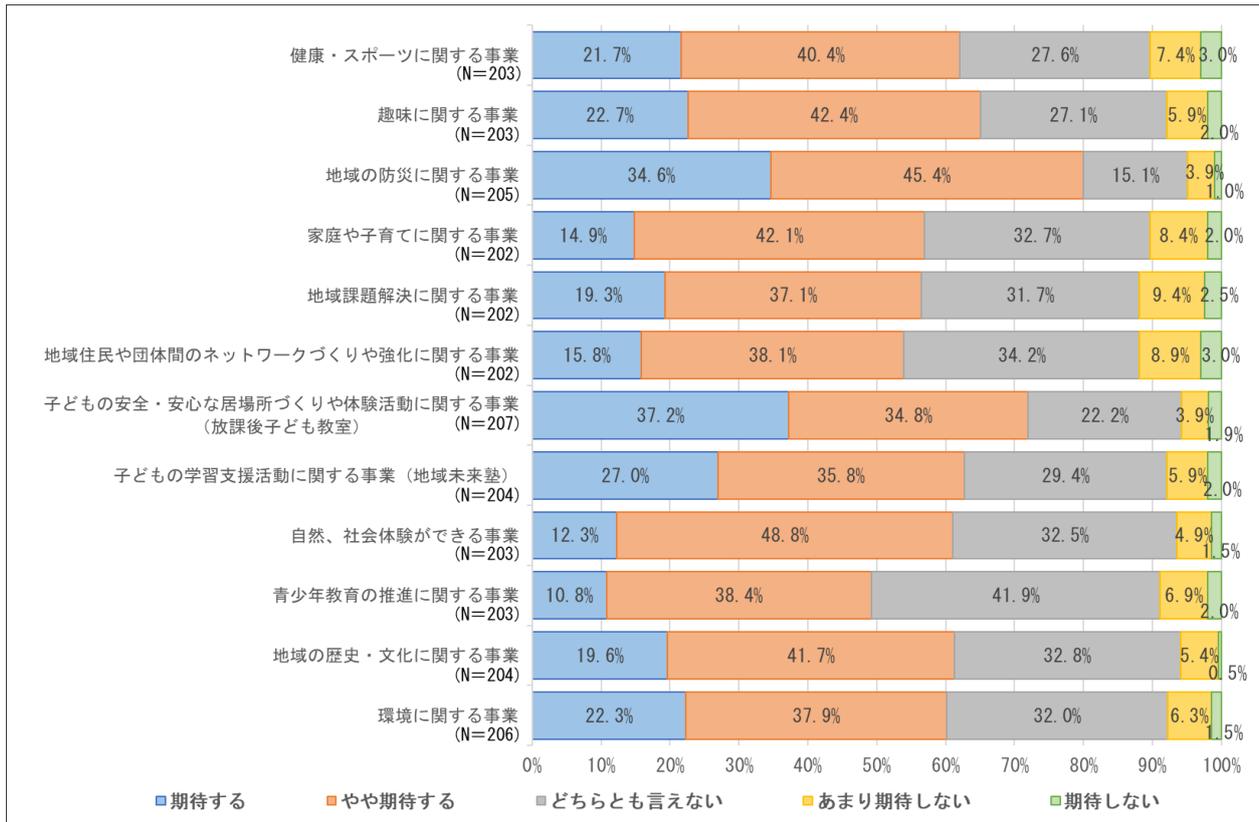
図表 5-17、5-18、5-19 によると、すべての年齢を通じて「地域の防災に関する事業」に対する期待が最も高くなり、次いで「子どもの安全・安心な居場所づくりや体験活動に係る事業（放課後子ども教室）」に対する期待が高くなりました。



図表 5-17 公民館における事業別期待度（39歳以下）

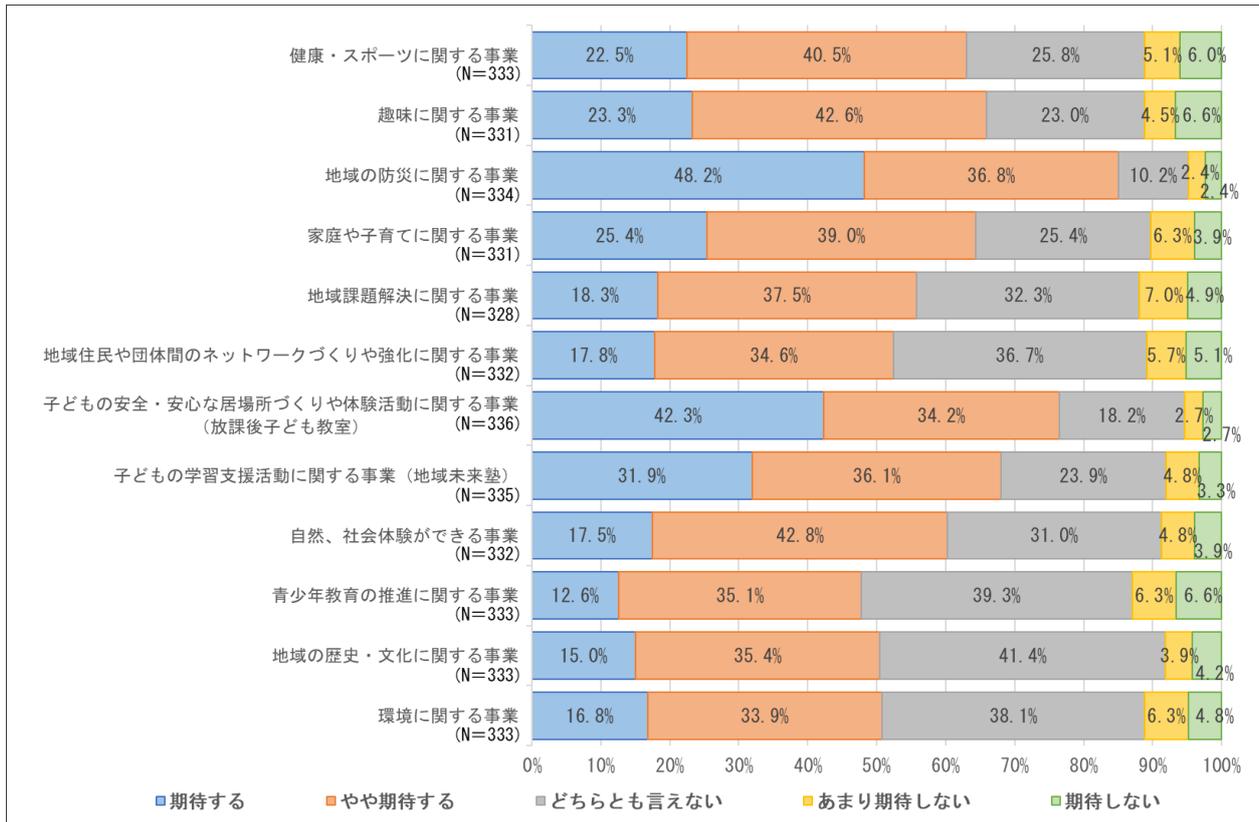


図表 5-18 公民館における事業別期待度（40～59歳）

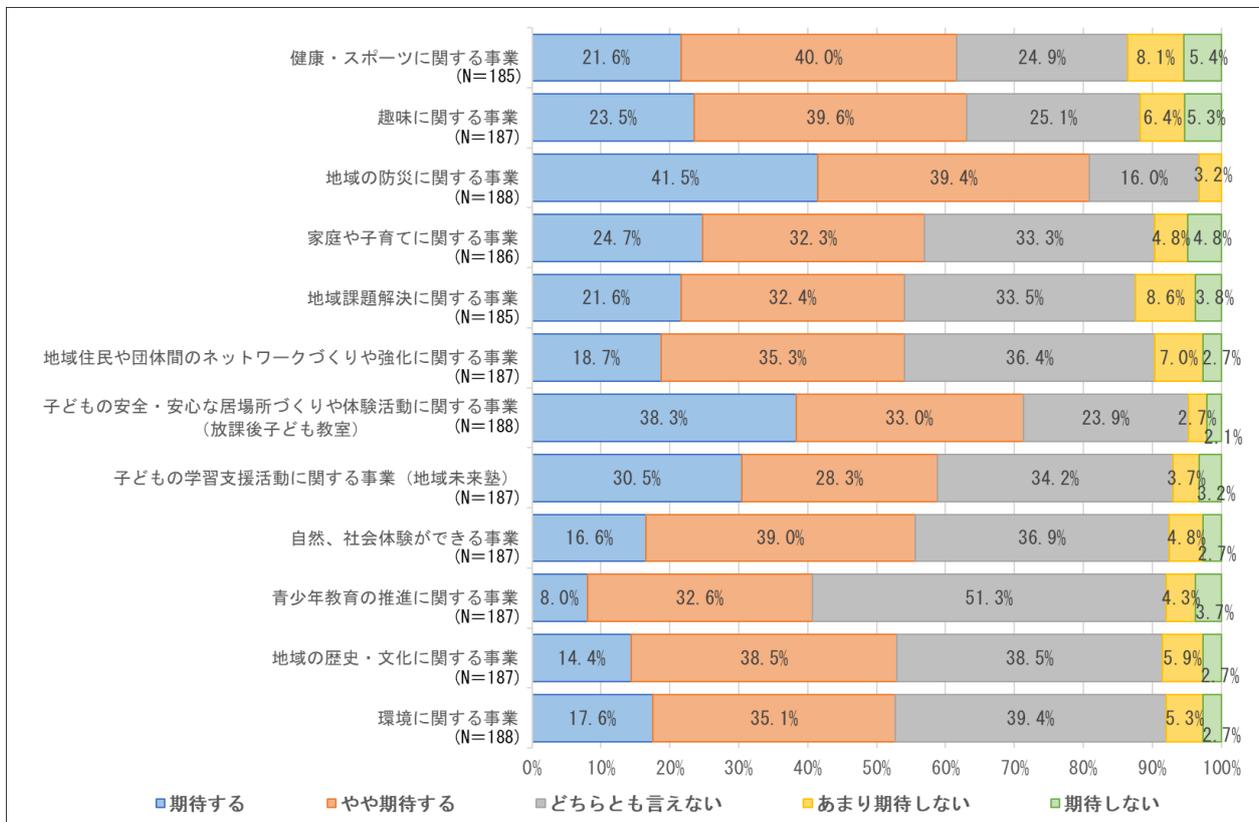


図表5-19 公民館における事業別期待度（60歳以上）

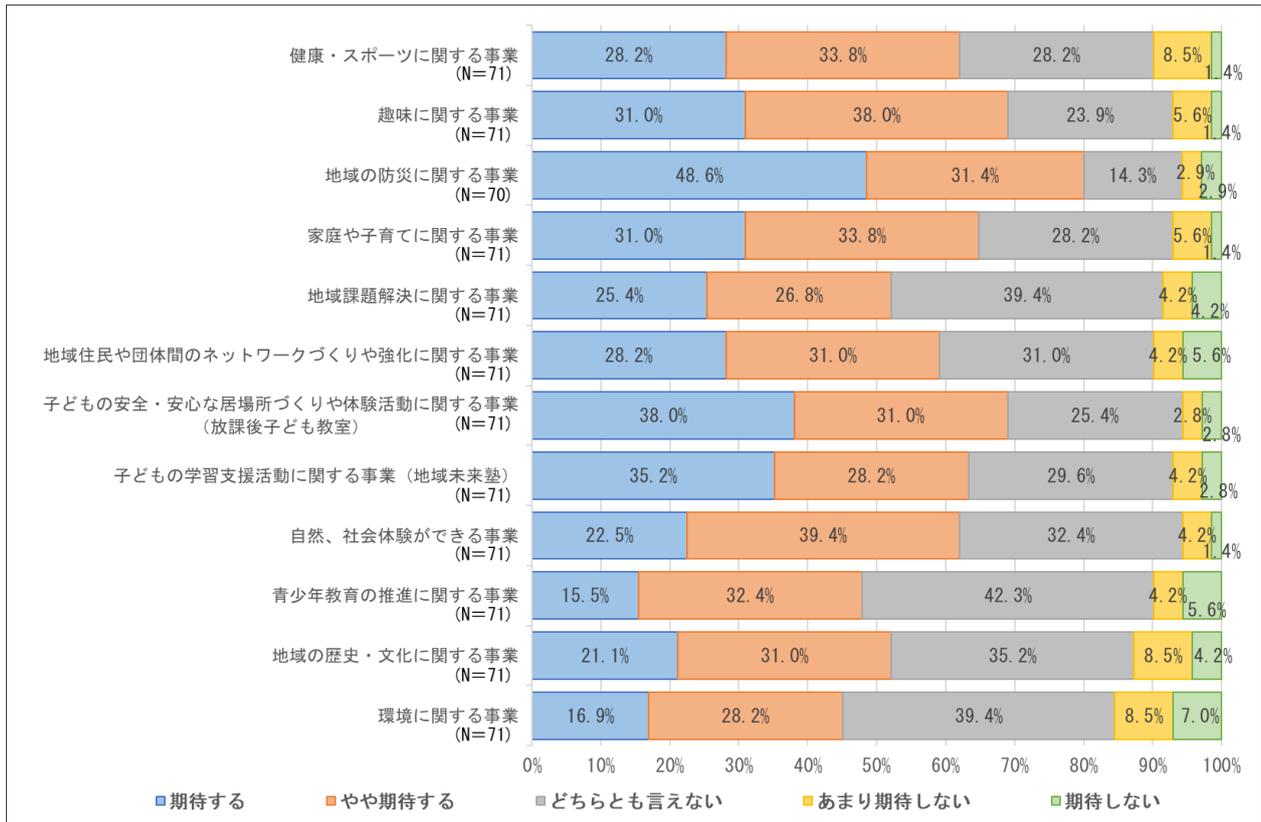
図表5-20、5-21、5-22、5-23によると、西条地区、東予地区、丹原地区において、「地域の防災に関する事業」に対する期待が最も高くなり、次いで「子どもの安全・安心な居場所づくりや体験活動に係る事業（放課後子ども教室）」に対する期待が高くなりました。小松地区では、「子どもの安全・安心な居場所づくりや体験活動に関する事業（放課後子ども教室）」に対する期待が最も高くなり、次いで「地域の防災に関する事業」「子ども学習支援活動に関する事業（地域未来塾）」に対する期待が高くなりました。



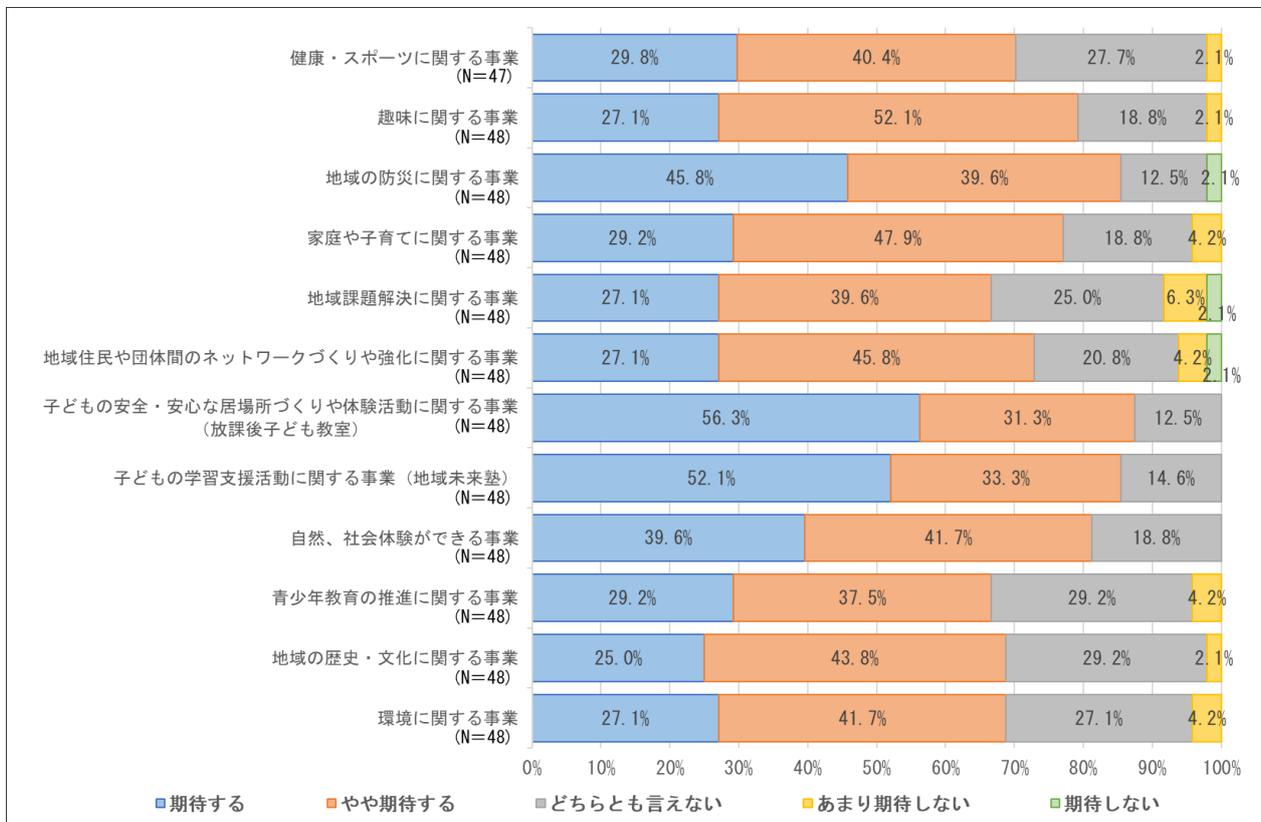
図表5-20 公民館における事業別期待度 (西条地区)



図表5-21 公民館における事業別期待度 (東予地区)



図表5-22 公民館における事業別期待度 (丹原地区)



図表5-23 公民館における事業別期待度 (小松地区)

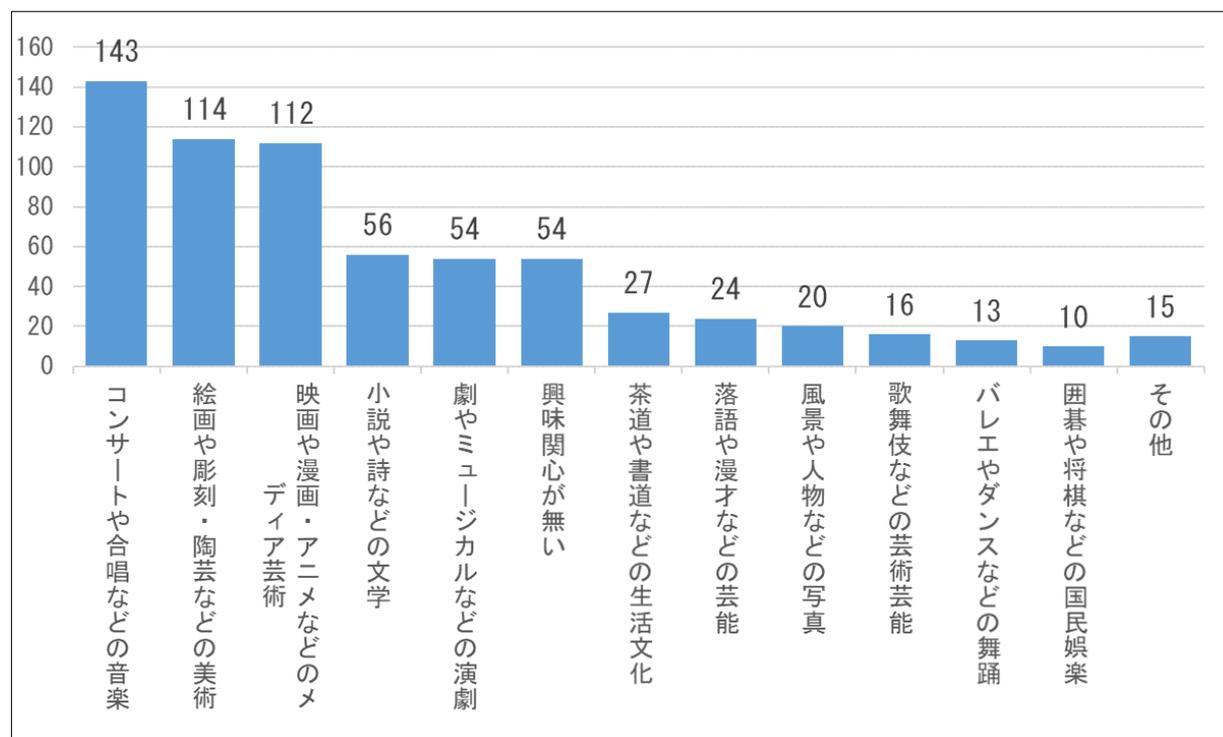
6 地域文化・歴史文化について

(1) 芸術文化に対する興味関心

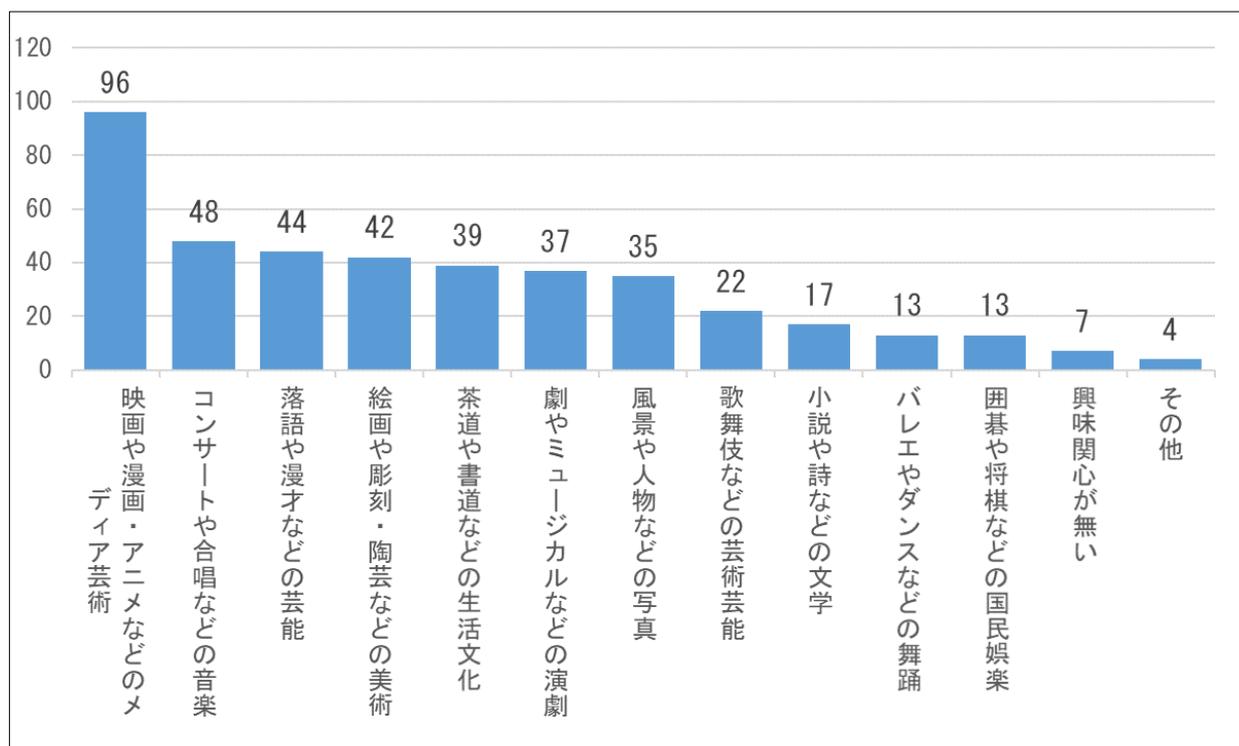
【結果概要】

- メディア芸術、音楽、美術に興味関心を持つ市民が多くなる一方で、芸術文化に興味関心が無いと回答した市民も一定程度みられました。(図表 6-1、6-2 参照)
- 男女別、年齢別に興味を抱く分野に違いがみられるため、芸術文化の普及啓発を施策として展開する場合、ターゲットとする対象者の特徴をよく把握しておくことが重要だと推察されます。(図表 6-3、6-4 参照)

図表 6-1 によると、「コンサートや合唱などの音楽」と回答した方が最も多くなり、次いで「絵画や彫刻・陶芸などの美術」「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した方が多くなりました。また、図表 6-2 によると、第2選択では「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した方が最も多くなり、2番目以降は横並びとなりました。

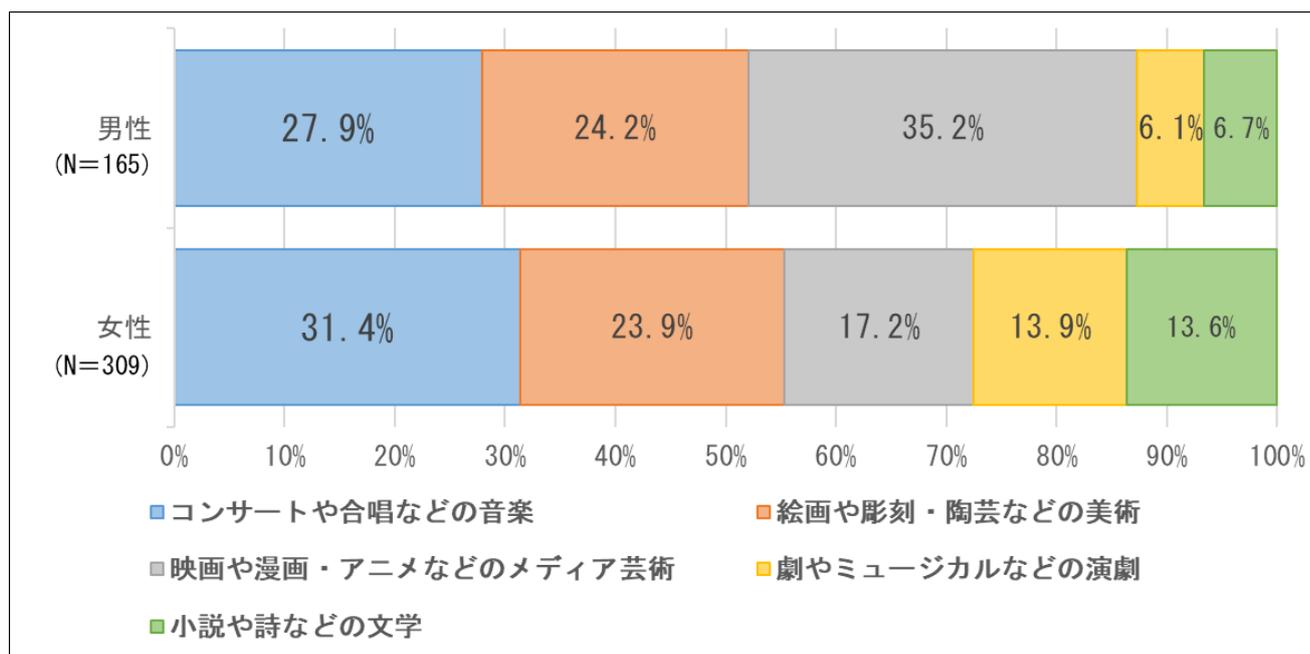


図表 6-1 芸術文化に対する興味関心 (第1選択・単純集計) (N=658)



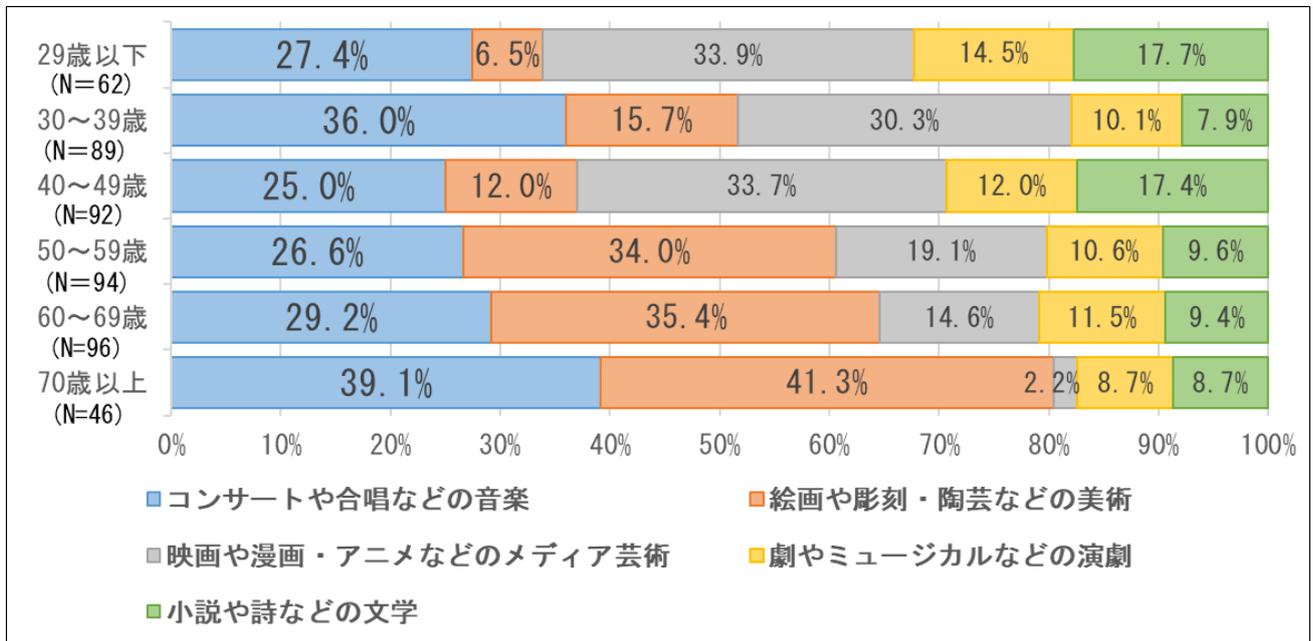
図表 6-2 芸術文化に対する興味関心 (第2選択・単純集計) (N=417)

図表 6-3 によると、男性では「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した比率が最も高くなり、女性では「コンサートや合唱などの音楽」と回答した比率が最も高くなりました。また、男性と比較して女性で「劇やミュージカルなどの演劇」「小説や詩などの文学」と回答した比率が高くなり、バランスよく幅広い分野が選択される傾向がみられました。



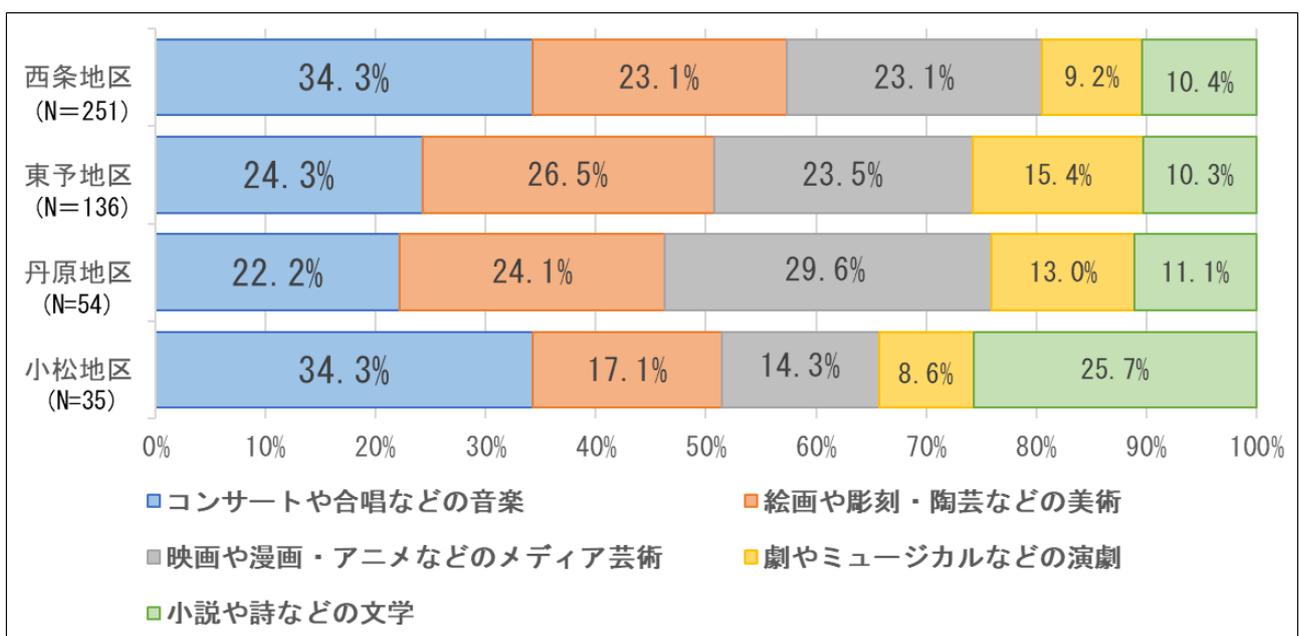
図表 6-3 芸術文化に対する興味関心 (男女別)

図表 6-4 によると、年齢が低くなるにつれて、「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した比率が高くなる一方で、年齢が高くなるにつれて「絵画や彫刻・陶芸などの美術」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。また、全ての年齢を通じて「コンサートや合唱などの音楽」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 6-4 芸術文化に対する興味関心（年齢別）

図表 6-5 によると、お住まいの地区別に大きな差異はみられませんが、特徴として、西条地区と小松地区で「コンサートや合唱などの音楽」と回答した比率が高くなり、東予地区で「絵画や彫刻・陶芸などの美術」と回答した比率が高くなり、丹原地区で「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



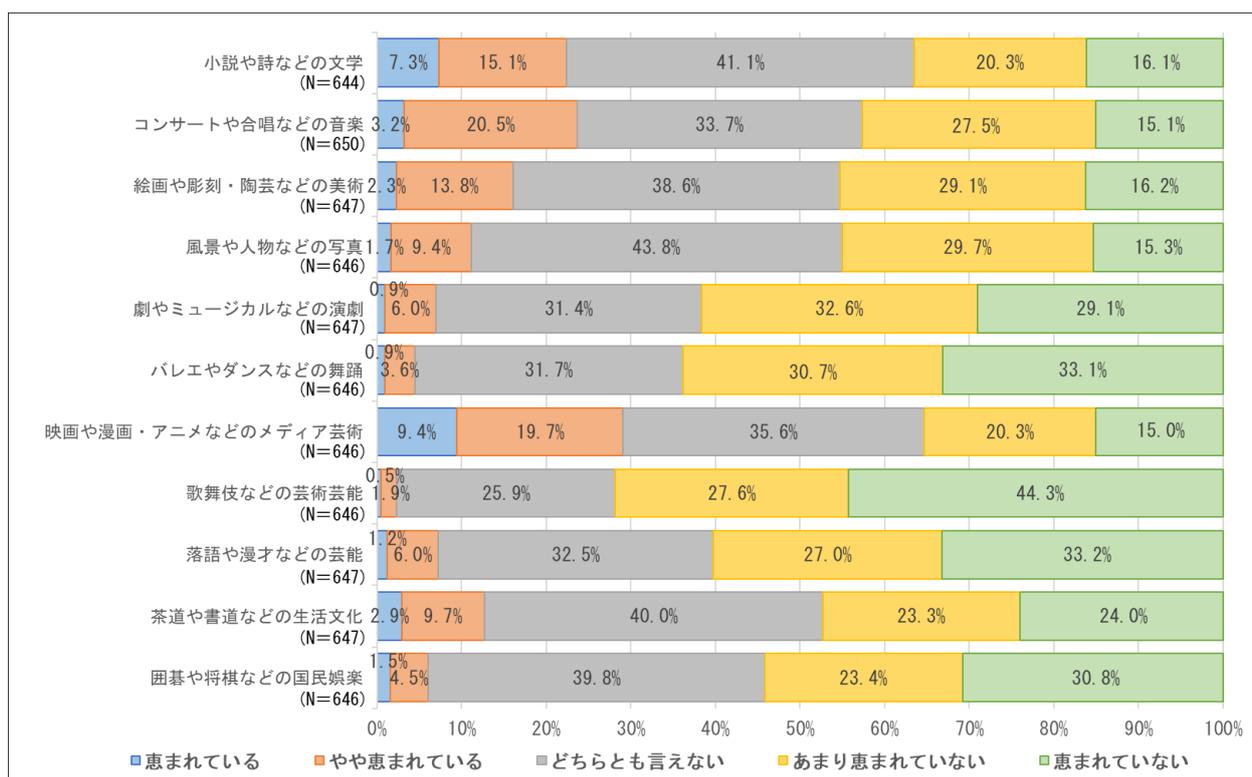
図表 6-5 芸術文化に対する興味関心（お住まいの地区別）

(2) 芸術文化に触れる機会の充実度

【結果概要】

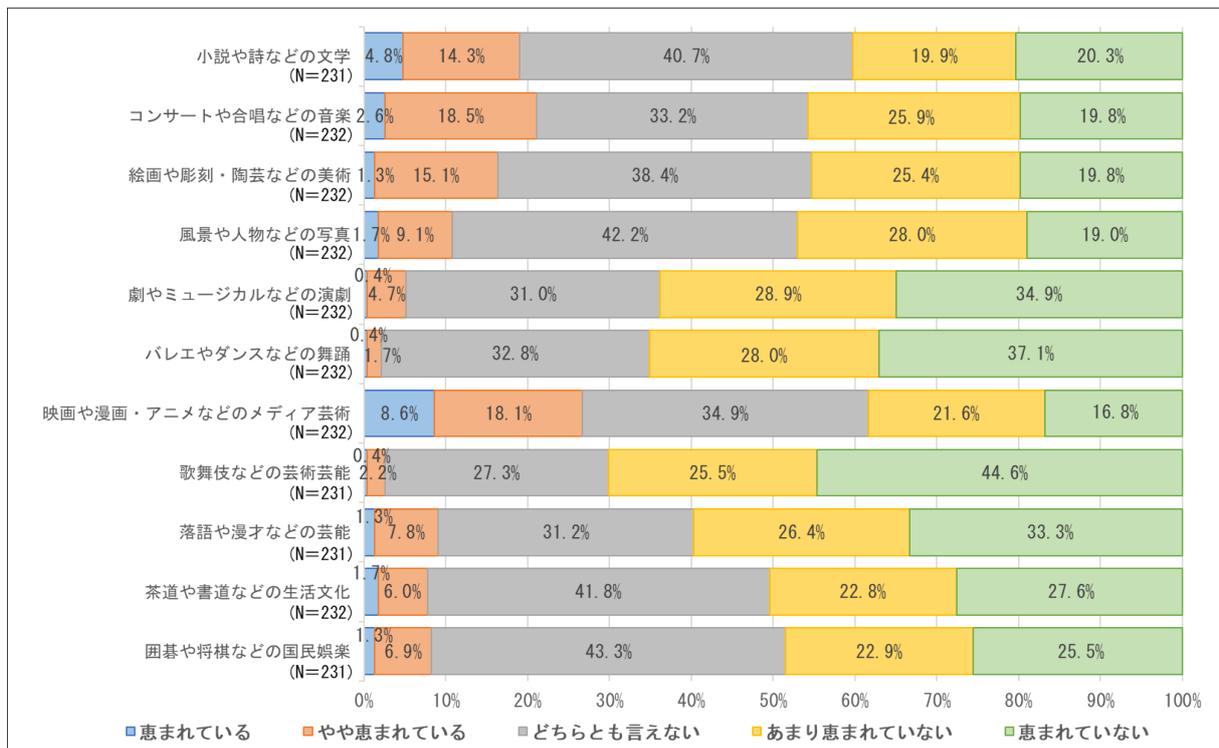
- 男女、年齢、お住いの地区に関係無く、「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」「小説や詩などの文学」「コンサートや合唱などの音楽」に触れる機会の充実度が高くなりました。(図表 6-6、6-7、6-8、6-9、6-10、6-11、6-12、6-13、6-14、6-15 参照)
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて、芸術文化に触れる機会が充実していないと回答した比率が高くなる傾向がみられました。(図表 6-9、6-10、6-11 参照)

図表 6-6 によると、「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」に触れる機会の充実度が最も高くなり、次いで「コンサートや合唱などの音楽」「小説や詩などの文学」に触れる機会の充実度が高くなりました。

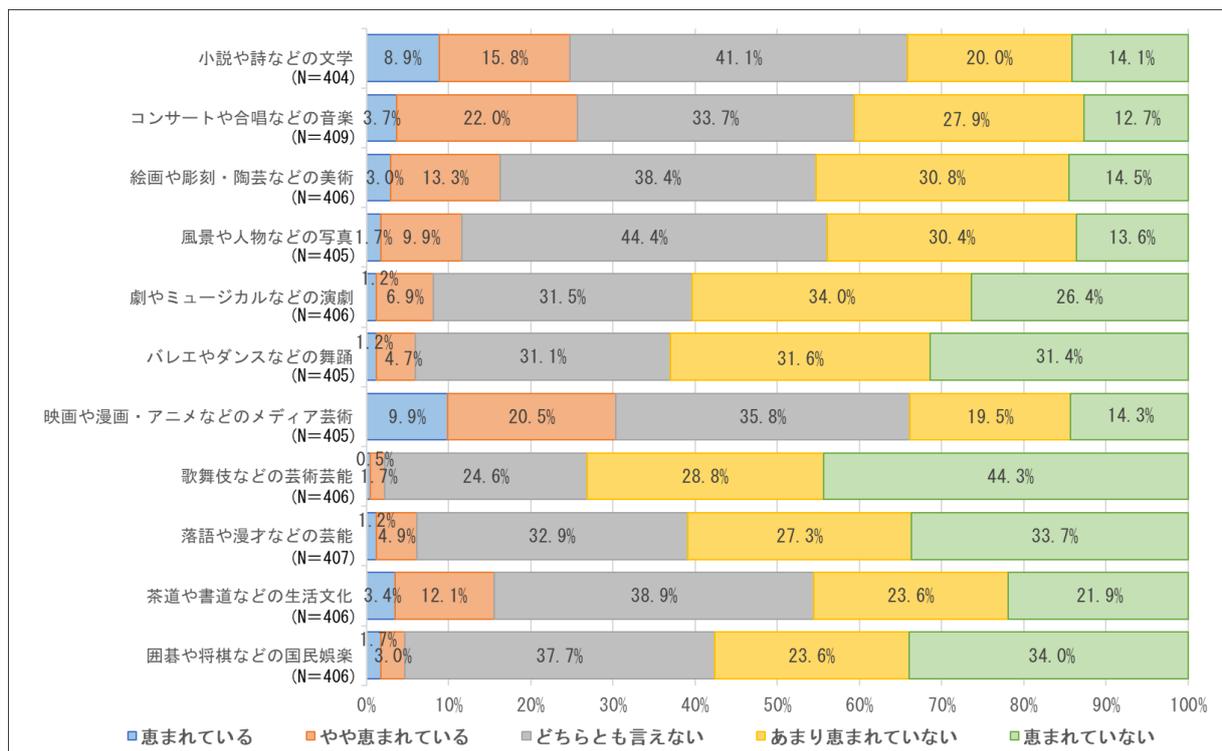


図表 6-6 芸術文化に触れる機会の充実度 (単純集計)

図表 6-7、6-8 によると、男女共通して「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」に触れる機会の充実度が最も高くなり、次いで「コンサートや合唱などの音楽」「小説や詩などの文学」に触れる機会の充実度が高くなりました。また、女性では、「茶道や書道などの生活文化」に触れる機会の充実度が高くなりました。

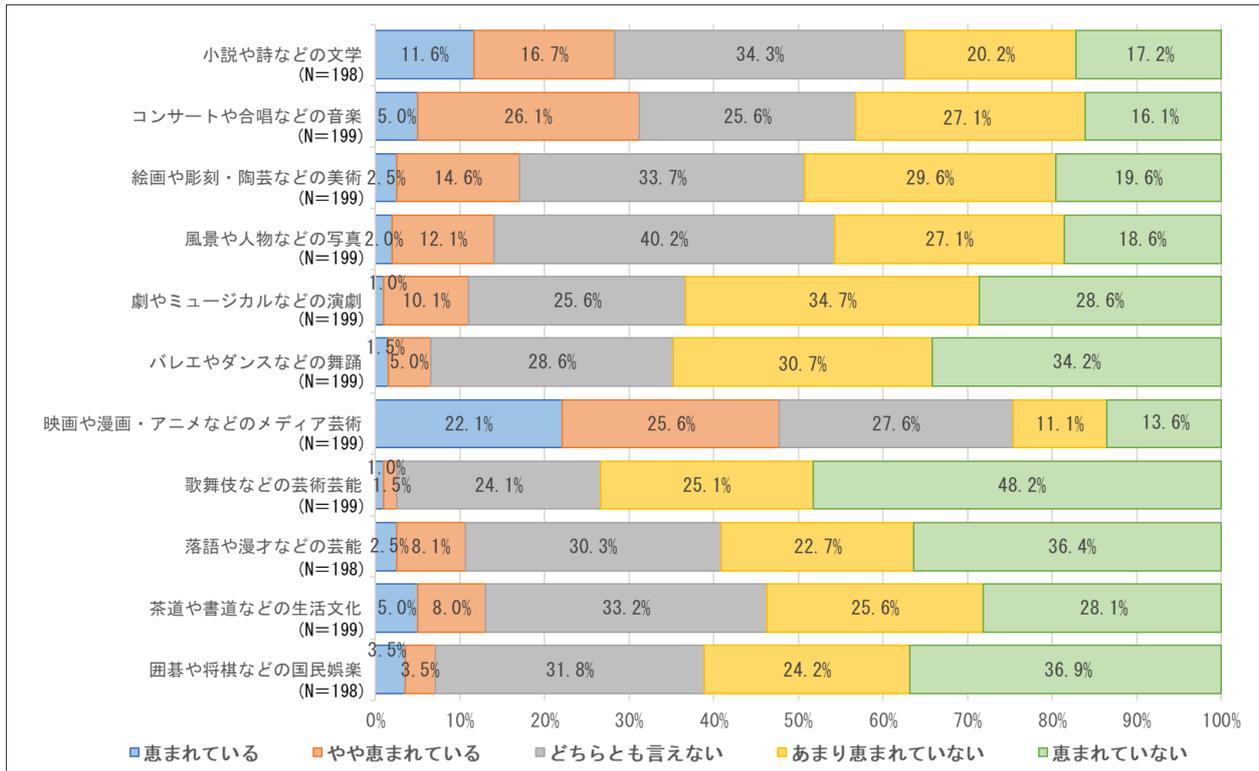


図表 6-7 芸術文化に触れる機会の充実度（男性）

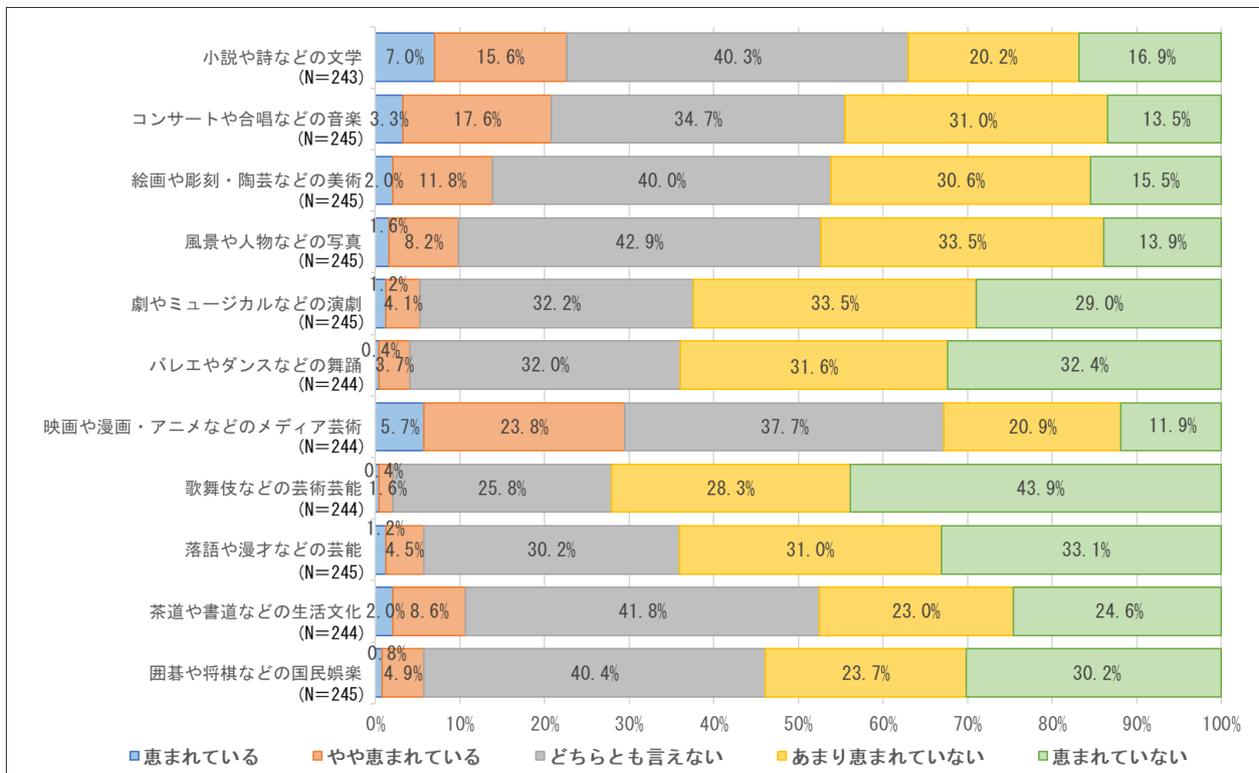


図表 6-8 芸術文化に触れる機会の充実度（女性）

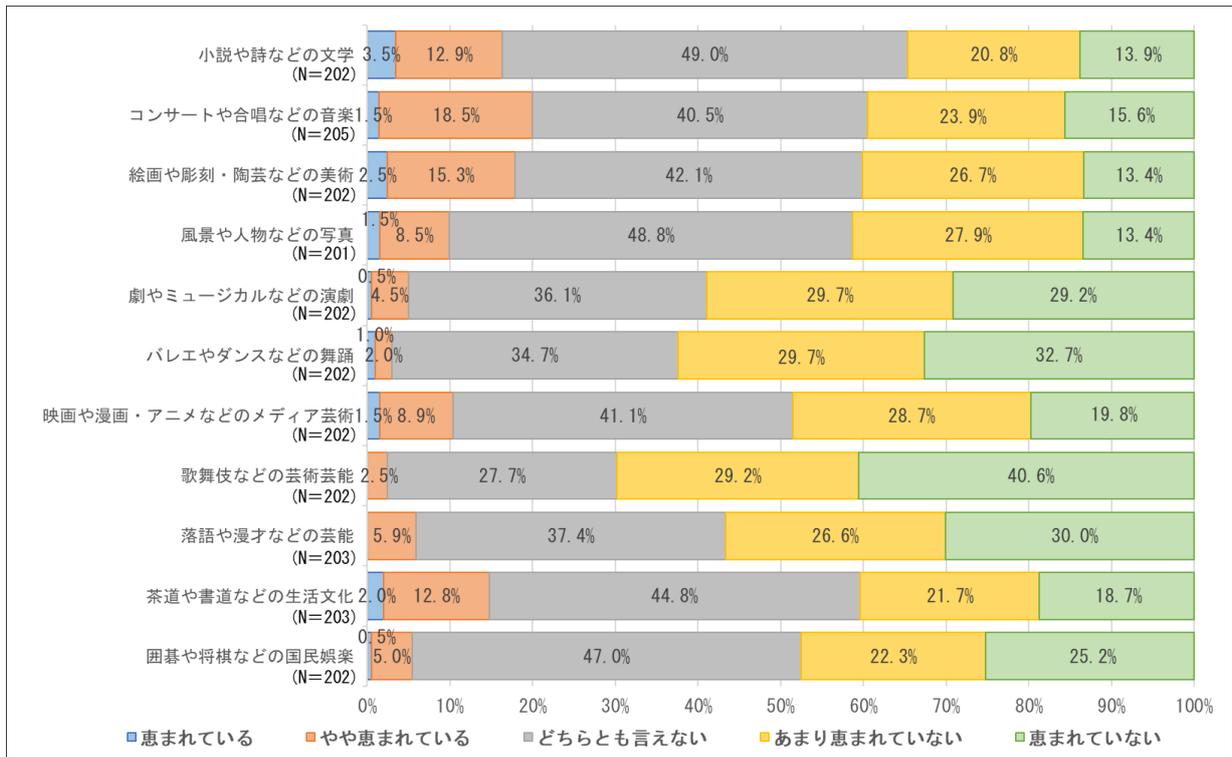
図表 6-9、6-10、6-11 によると、39 歳以下で「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」に触れる機会の充実度が最も高くなる一方で、年齢が高くなるにつれて低くなる傾向がみられました。また、年齢が高くなるにつれて、総じて芸術文化に触れる機会に充実していると回答した比率が低くなる傾向がみられました。



図表 6-9 芸術文化に触れる機会の充実度（39歳以下）

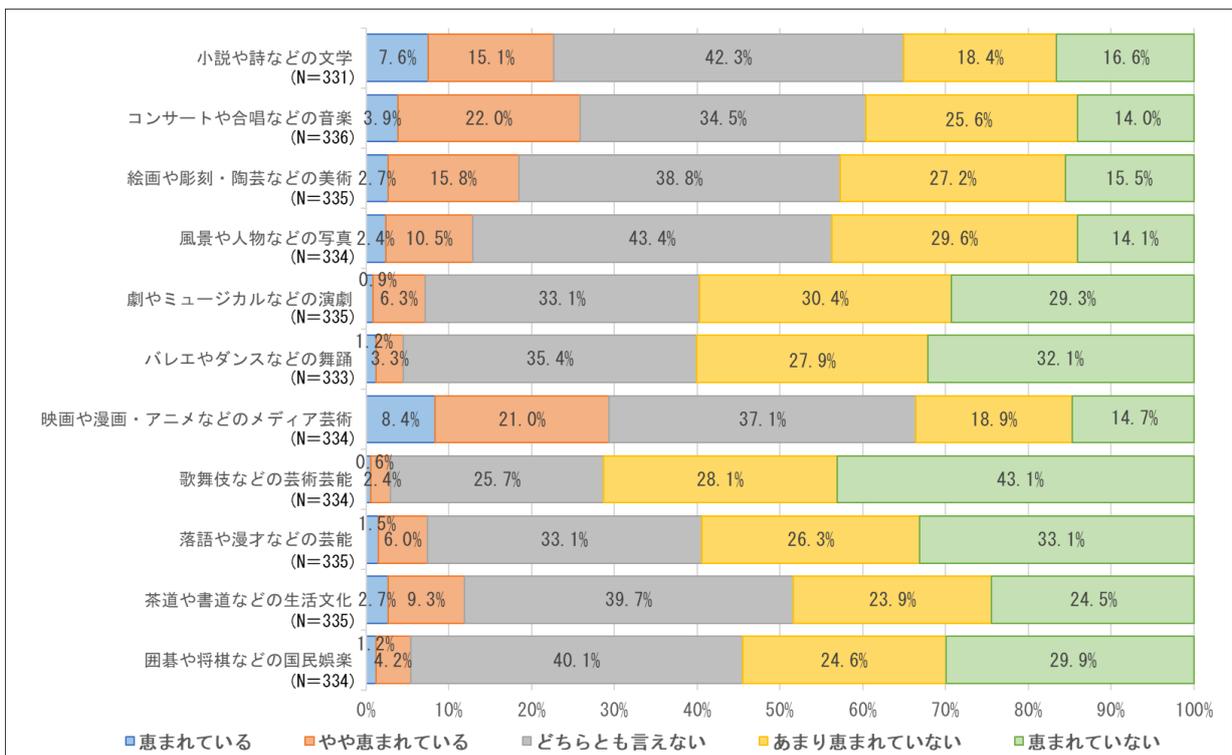


図表 6-10 芸術文化に触れる機会の充実度（40～59歳）

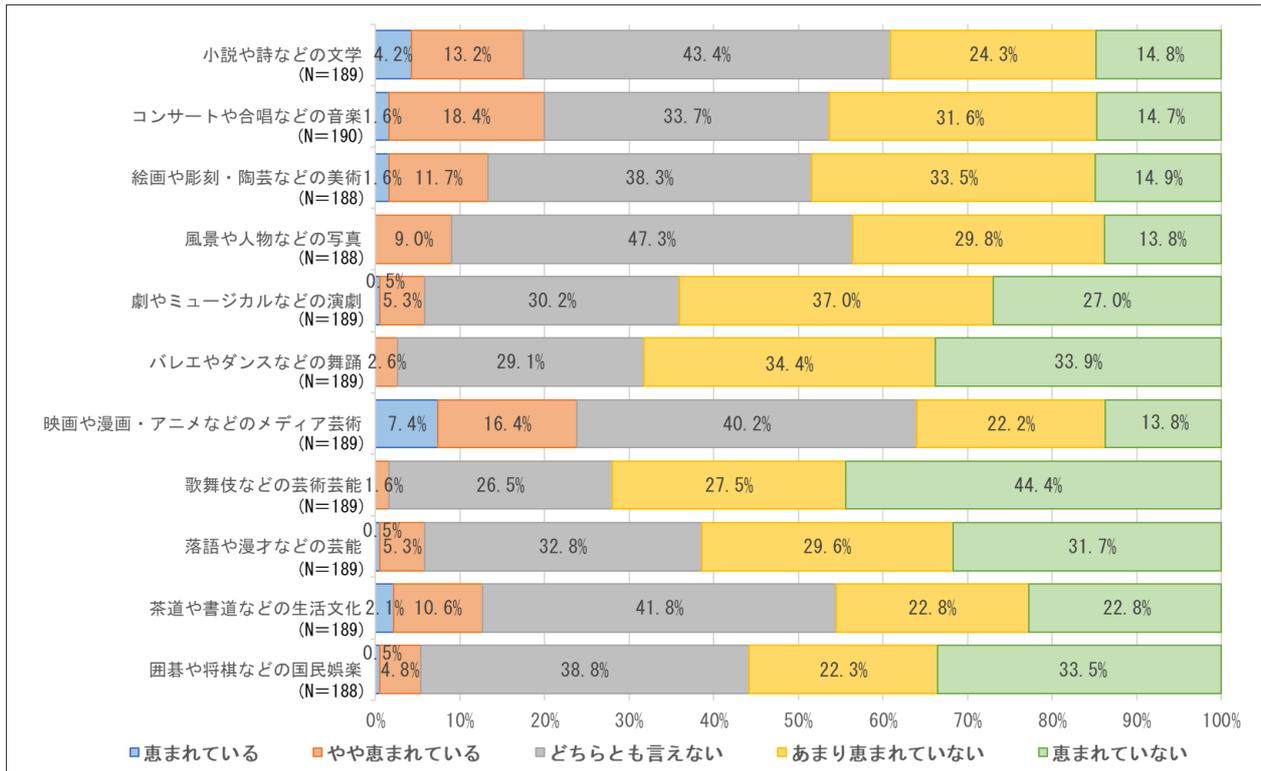


図表 6-11 芸術文化に触れる機会の充実度（60歳以上）

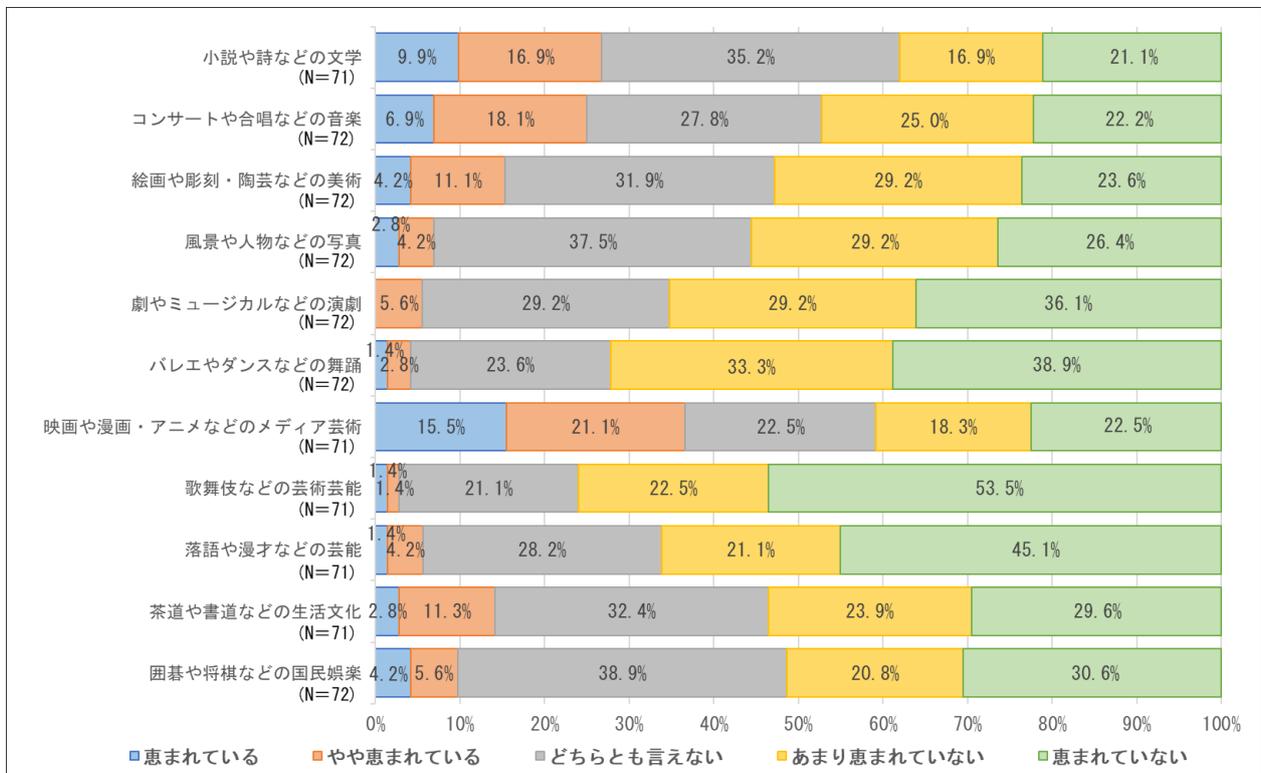
図表 6-12、6-13、6-14、6-15 によると、西条地区、東予地区、丹原地区で若干の差異がみられるものの、総じて同じ傾向を示しました。一方で、小松地区では「小説や詩などの文学」に触れる機会の充実度が高くなるなど、他地区と比較して傾向の違いがみられました。



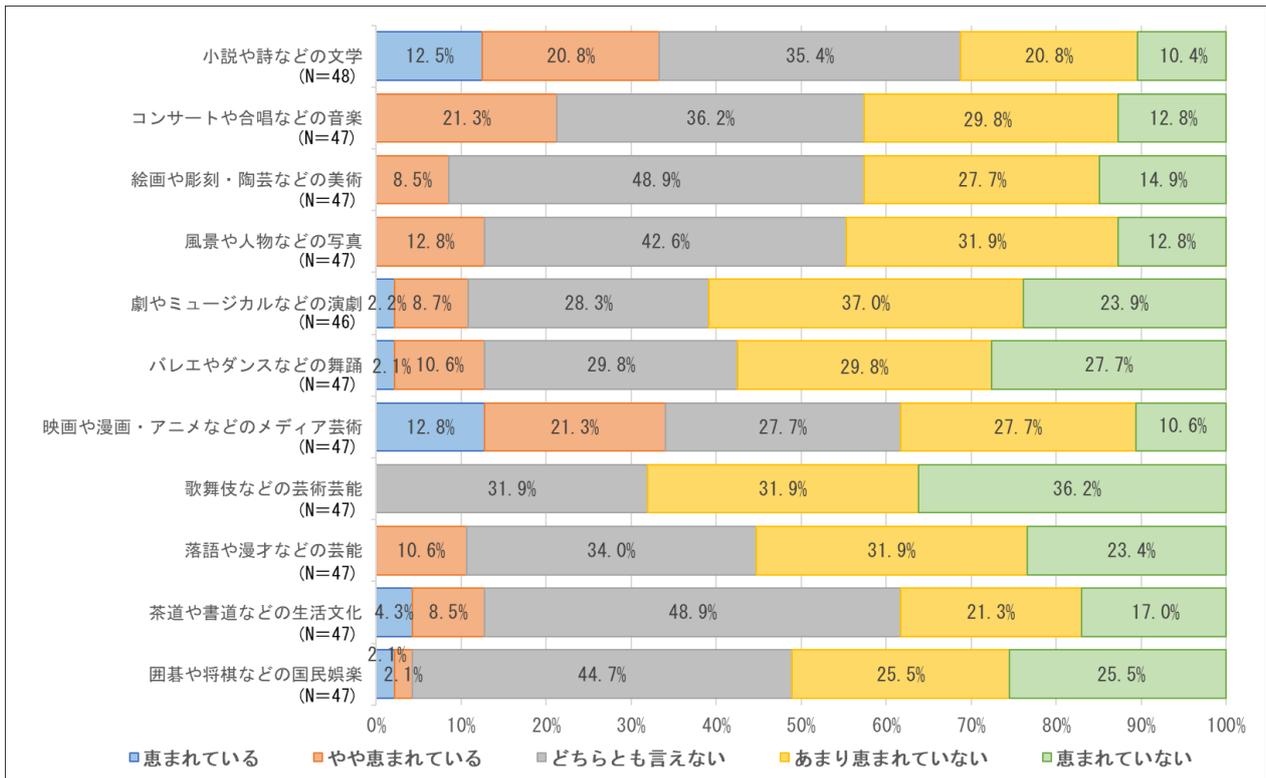
図表 6-12 芸術文化に触れる機会の充実度（西条地区）



図表 6-13 小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度（東予地区）



図表 6-14 小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度（丹原地区）



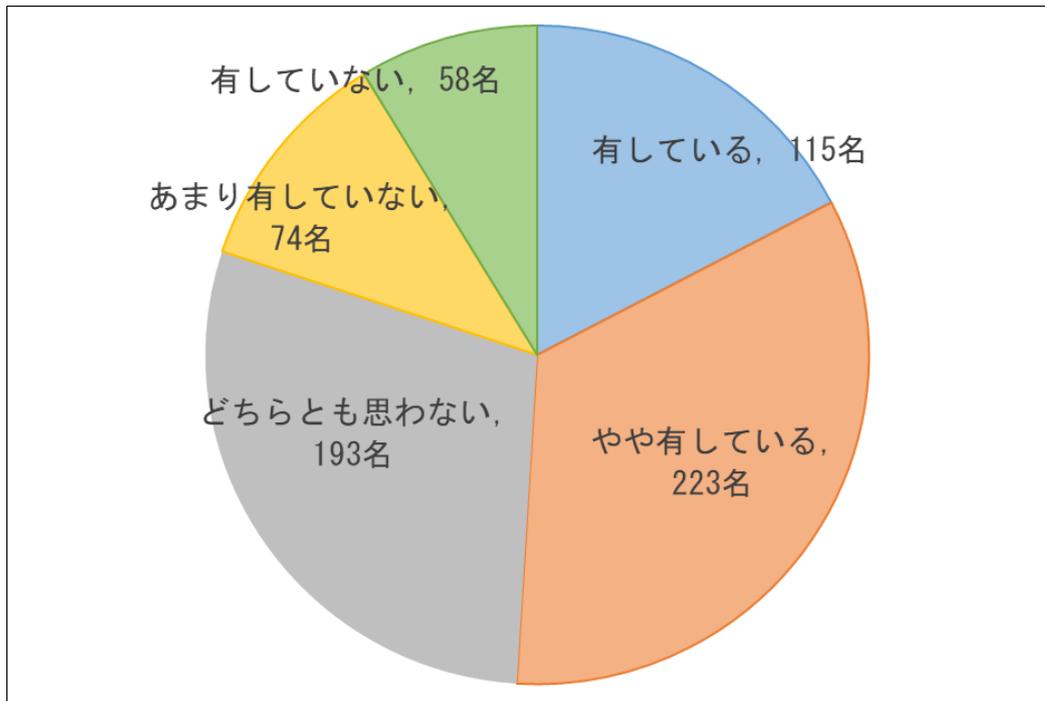
図表 6 - 15 小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度（小松地区）

（3）ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度

【結果概要】

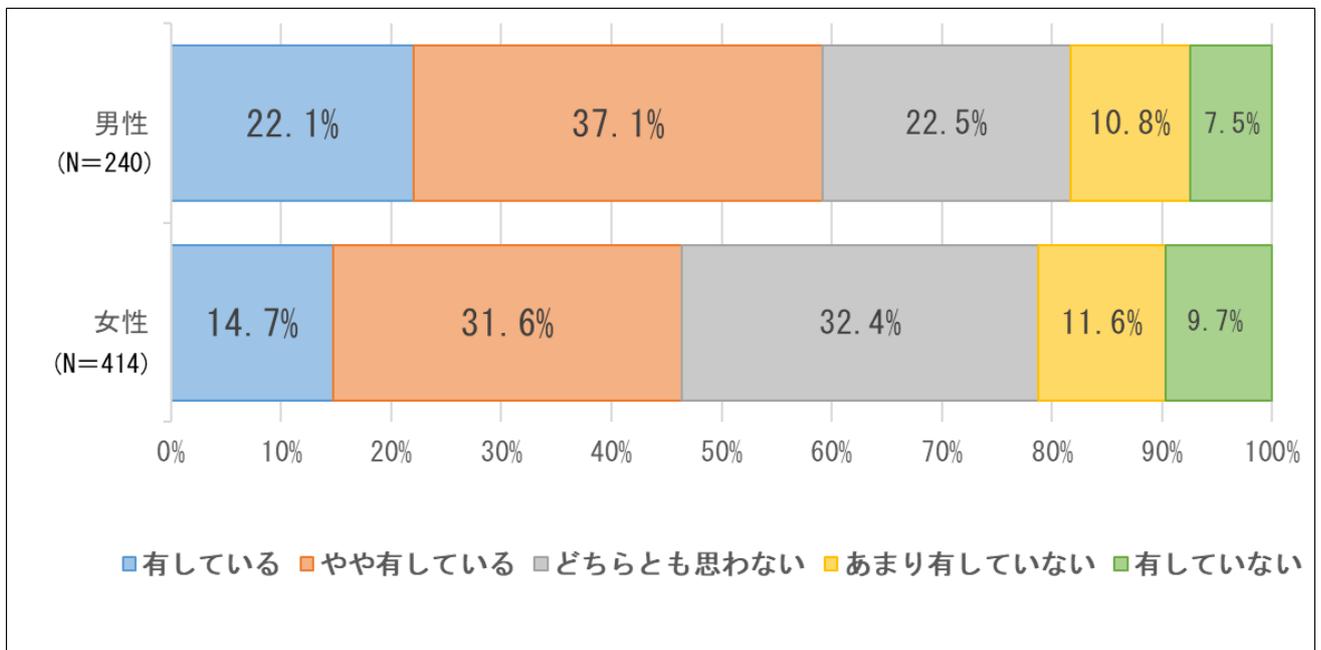
- 市民の約半数がふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を有していると回答する結果となりました。（図表 6-16 参照）
- 年齢が低くなるにつれて、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を有していないと回答する傾向がみられました。また、西条地区ではふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を有していると回答する傾向がみられる一方で、丹原地区では誇りや愛着を有していないと回答する傾向がみられました。（図表 6-18、6-19 参照）

図表 6-16 によると、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度を「有している」「やや有している」と回答した方が約半数となり、「あまり有していない」「有していない」と回答した方を大きく上回りました。



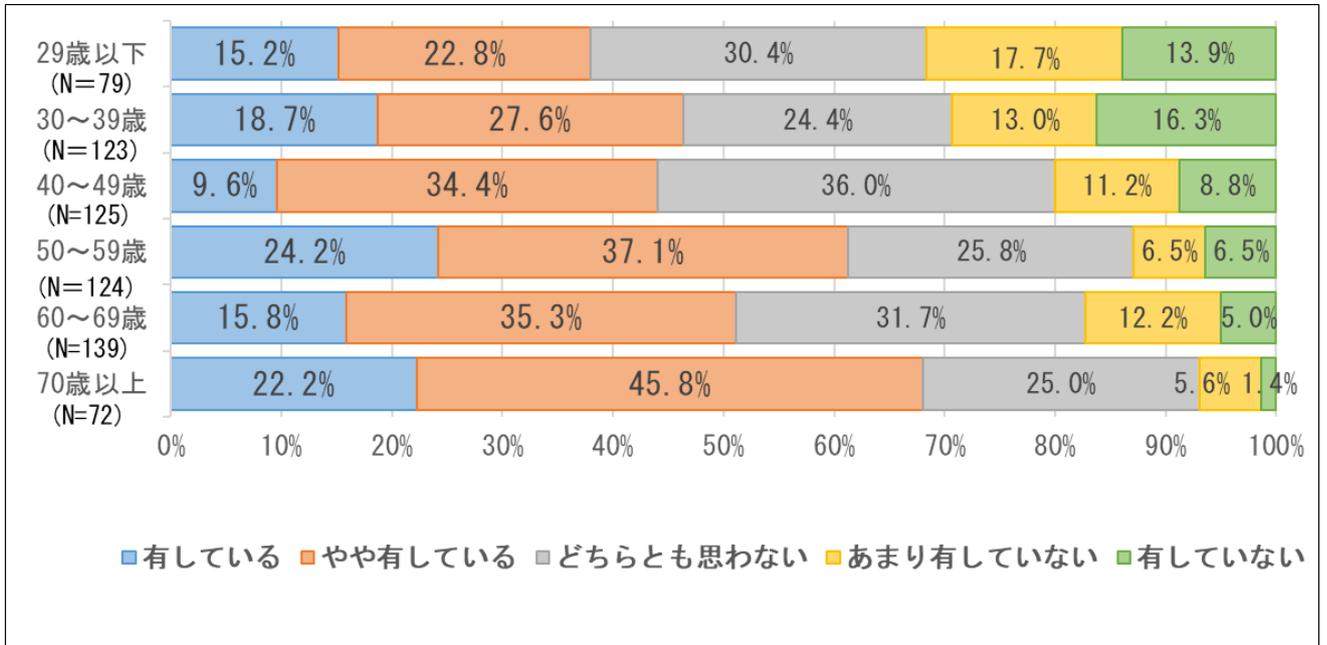
図表 6-16 ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度（単純集計）（N=663）

図表 6-17 によると、女性と比較して男性の方において、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を「有している」「やや有している」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



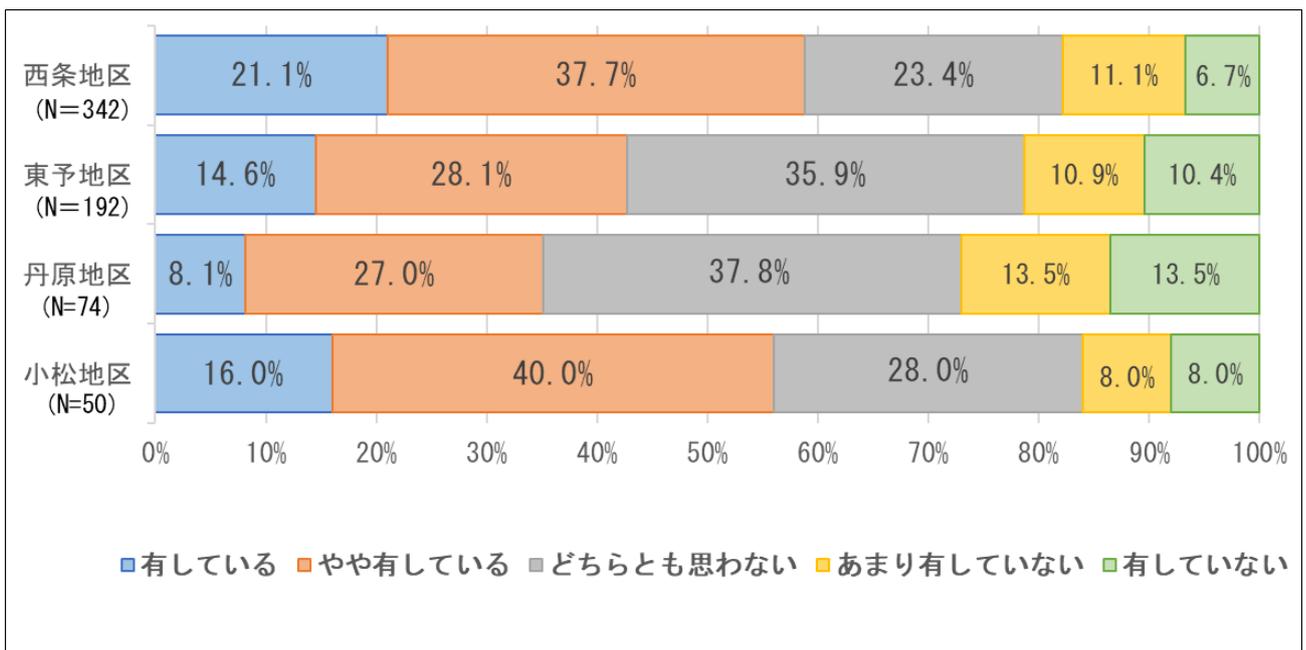
図表 6-17 ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度（男女別）

図表 6-18 によると、年齢が高くなるにつれて、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を「有している」「やや有している」と回答した比率が高くなる一方で、年齢が低くなるにつれて、「あまり有していない」「有していない」と回答する比率が高くなる傾向がみられました。



図表 6-18 ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度（年齢別）

図表 6-19 によると、西条地区において、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度を「有している」「やや有している」と回答した比率が最も高くなる一方で、丹原地区では、「あまり有していない」「有していない」と回答した比率が最も高くなりました。



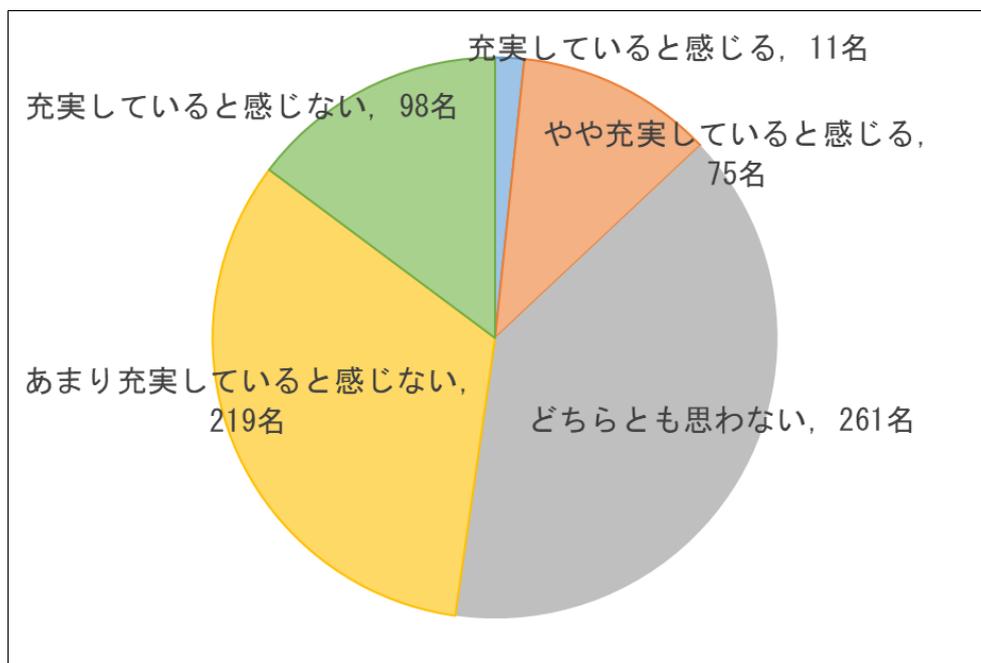
図表 6-19 ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度（お住まいの地区別）

(4) ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度

【結果概要】

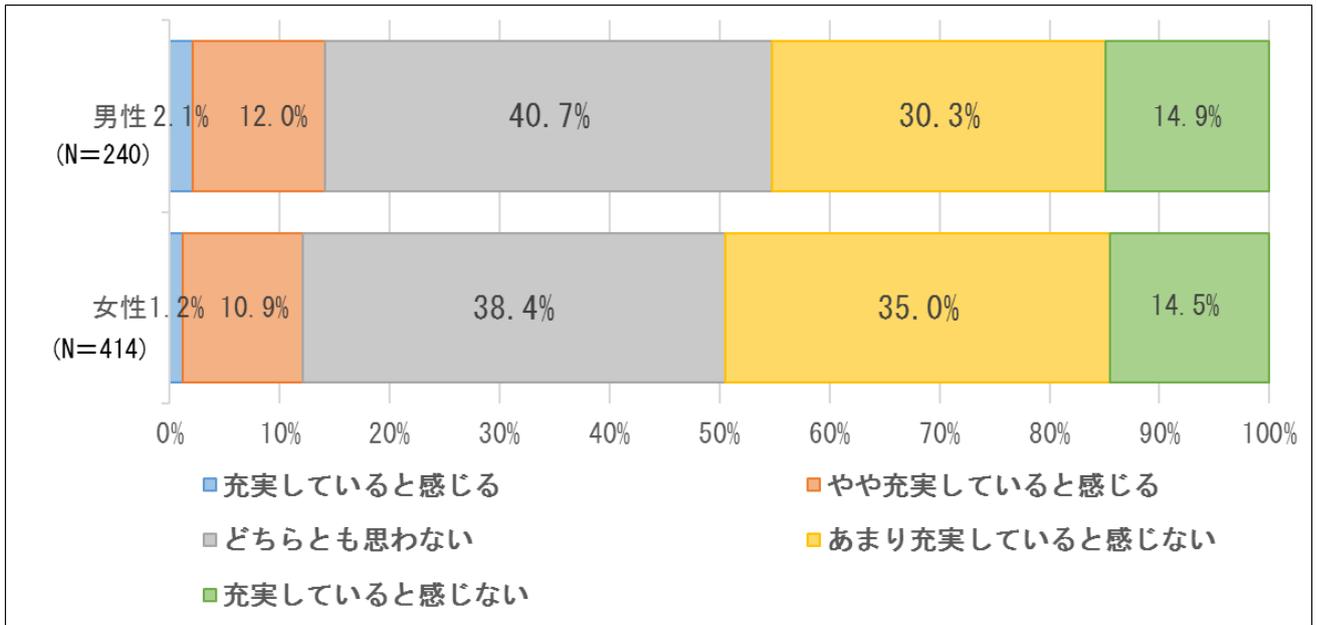
- ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が充実していると回答した方が 1 割強と低くなる傾向がみられました。(図表 6-20 参照)
- 年齢別にみると、年齢が低くなるほど「あまり充実していると感じない」「充実していると感じない」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。いかに若い世代に対する先人教育に努めていくのかという点が課題になると推察されます。(図表 6-22 参照)
- お住まいの地区別にみると、子どもの頃から一貫したふるさとの先人教育に努めている地区において、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が充実していると回答した比率が高くなる傾向がみられました。(図表 6-23 参照)

図表 6-20 によると、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「充実していると感じる」「やや充実している」と回答した方が約 1 割強に止まり、「あまり充実していると感じない」「充実していると感じない」と回答した方が約半数と多くなりました。



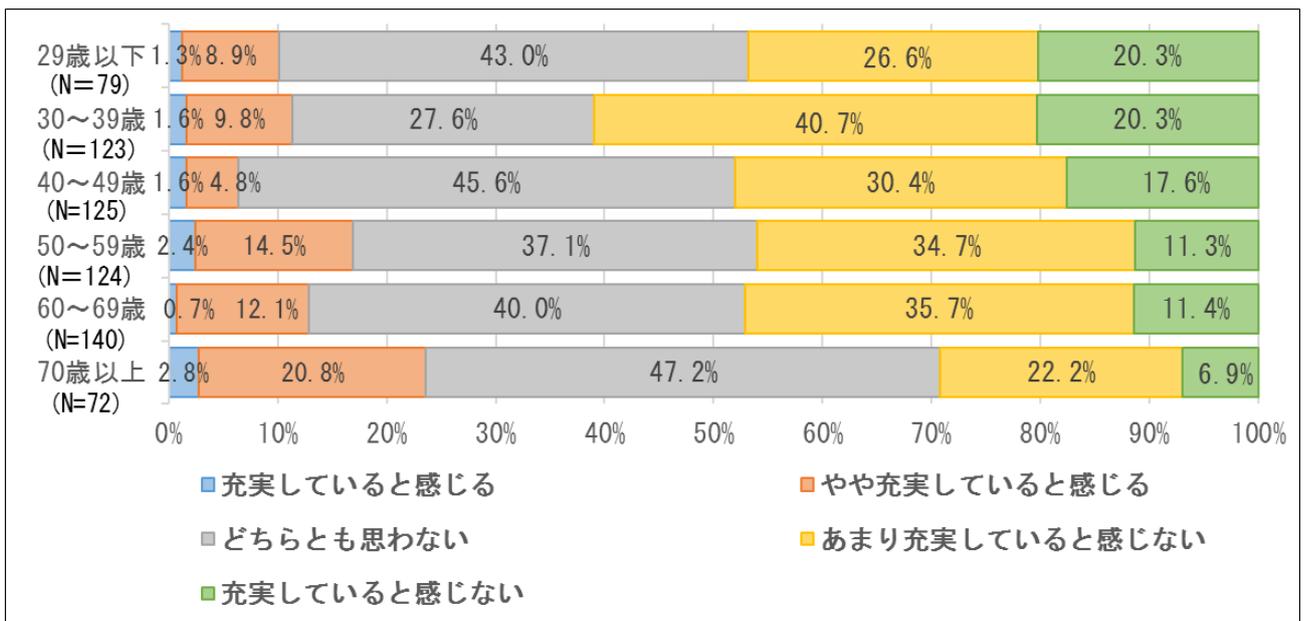
図表 6-20 ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度 (単純集計) (N=664)

図表 6-21 によると、多くの方が「あまり充実していると感じない」「充実していると感じない」と回答する中、女性と比較して男性において、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「充実していると感じる」「やや充実している」と回答した比率が緩やかに高くなる傾向がみられました。



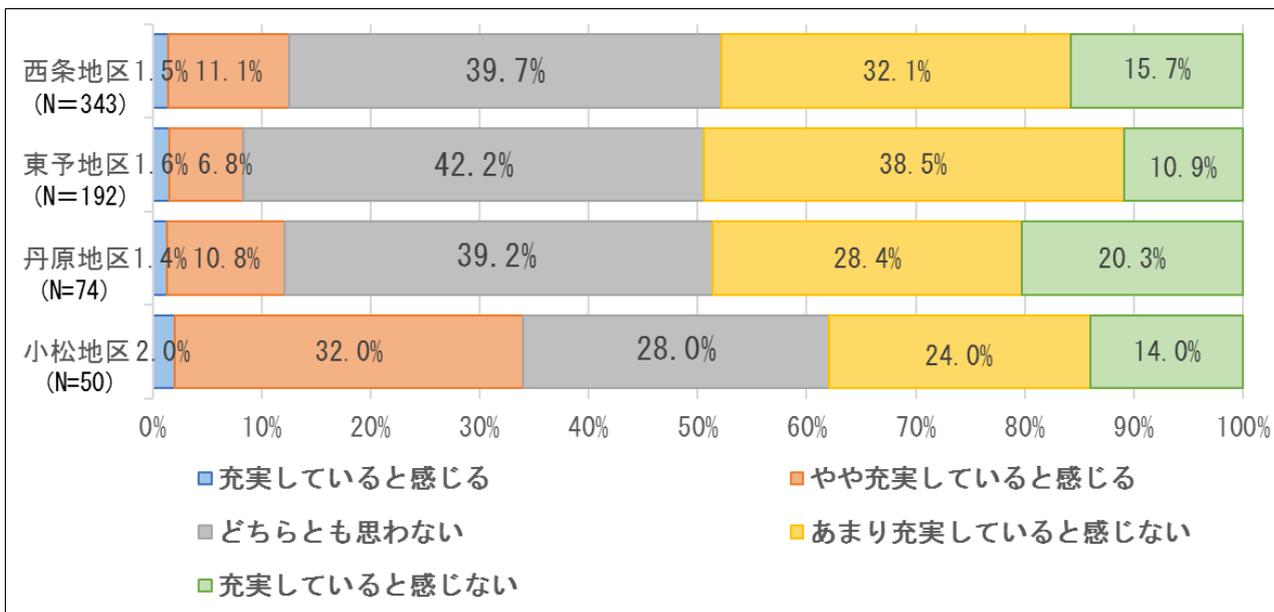
図表 6-21 ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度（男女別）

図表 6-22 によると、年齢が高くなるにつれて、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「充実していると感じる」「やや充実している」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。また、30～39歳で「あまり充実していると感じない」「充実していると感じない」と回答した比率が最も高くなりました。



図表 6-22 ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度（年齢別）

図表 6-23 によると、小松地区において、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「充実していると感じる」「やや充実している」と回答した比率が最も高くなりました。



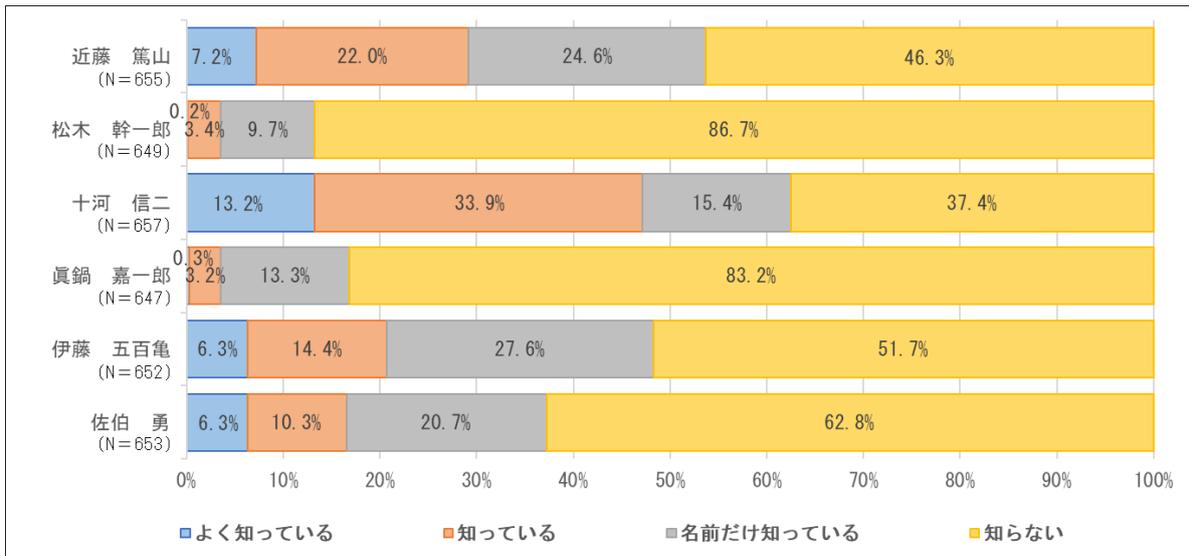
図表 6-23 ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度（お住まいの地区別）

(5) ふるさとの先人に対する知識

【結果概要】

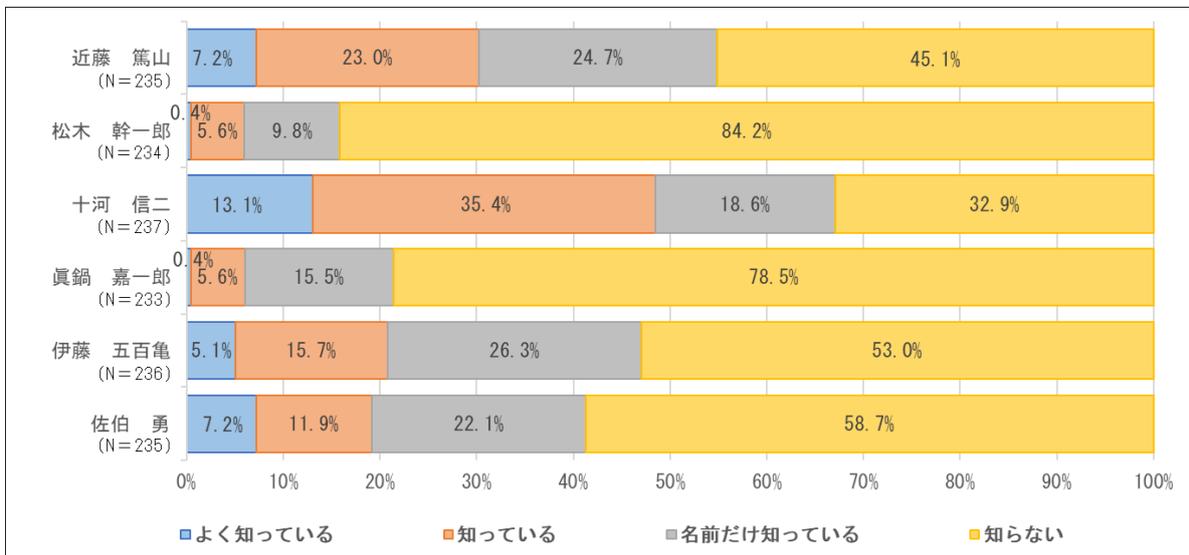
- 男女、年齢、所属する小学校の地区に関係無く、「近藤篤山」「十河信二」に対する知識を有していると回答した比率が高くなりました。（図表 6-24、6-25、6-26、6-27、6-28、6-29、6-30、6-31、6-32、6-33 参照）
- 男女別にみると、女性と比較してわずかながら男性において、先人に対する知識を有している結果となりました。また、年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて、先人に対する知識を有している傾向がみられました。（図表 6-25、6-26、6-27、6-28、6-29 参照）
- お住まいの地区別において、当該地区と縁やゆかりのある先人に対する知識を有していると回答した比率が高くなるなどの違いがみられました。（図表 6-30、6-31、6-32、6-33 参照）

図表 6-24 によると、「近藤篤山」「十河信二」に対する知識を有していると回答した比率が高くなる一方で、「松木幹一郎」「眞鍋嘉一郎」については名前も知らないと回答した方が全体の 8 割を超える結果となりました。

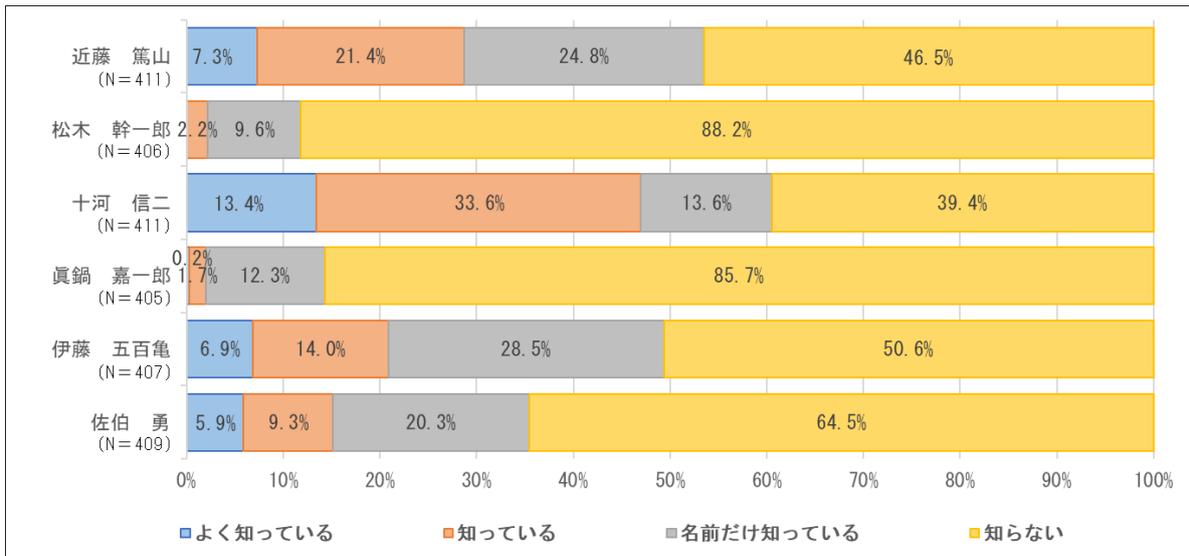


図表 6-24 ふるさとの先人に対する知識（単純集計）

図表 6-25、6-26 によると、男女別に大きな差異はみられませんが、女性と比較して男性において、ふるさとの先人に対する知識を有している傾向が緩やかにみられました。

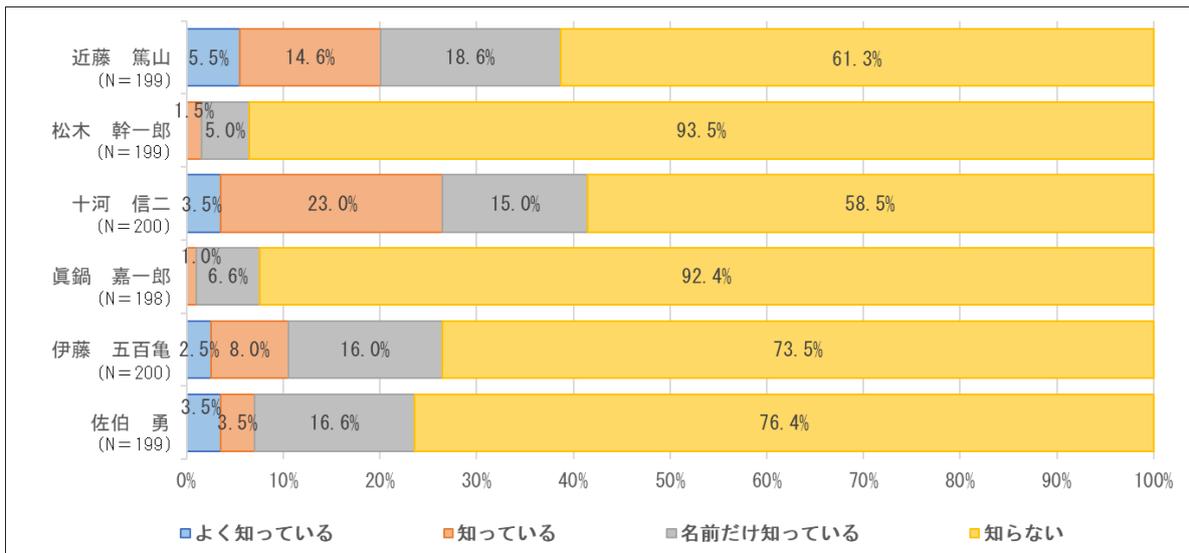


図表 6-25 ふるさとの先人に対する知識（男性）

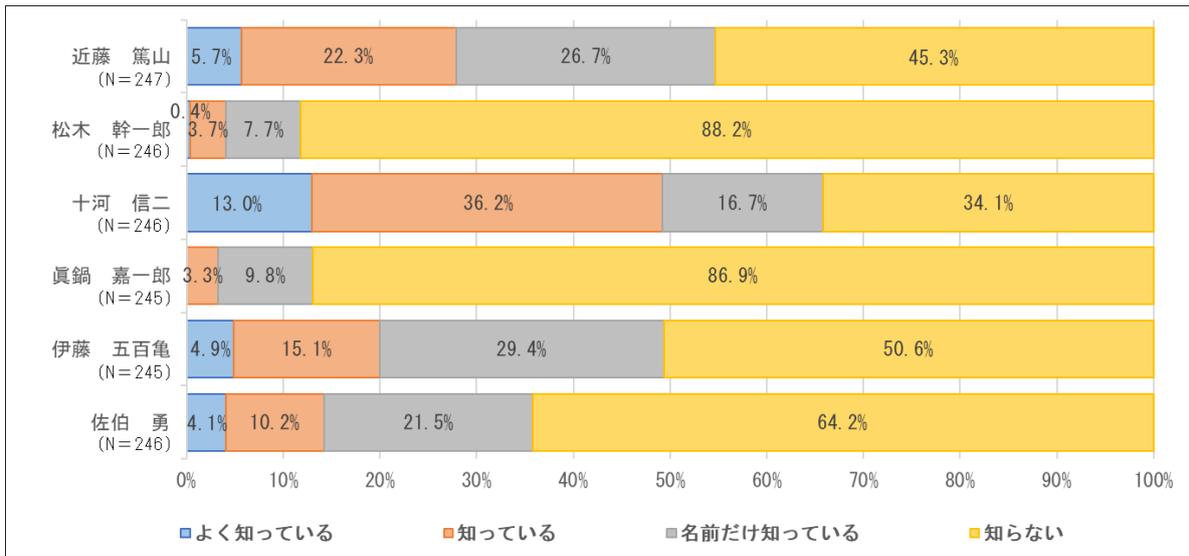


図表 6-26 ふるさとの先人に対する知識（女性）

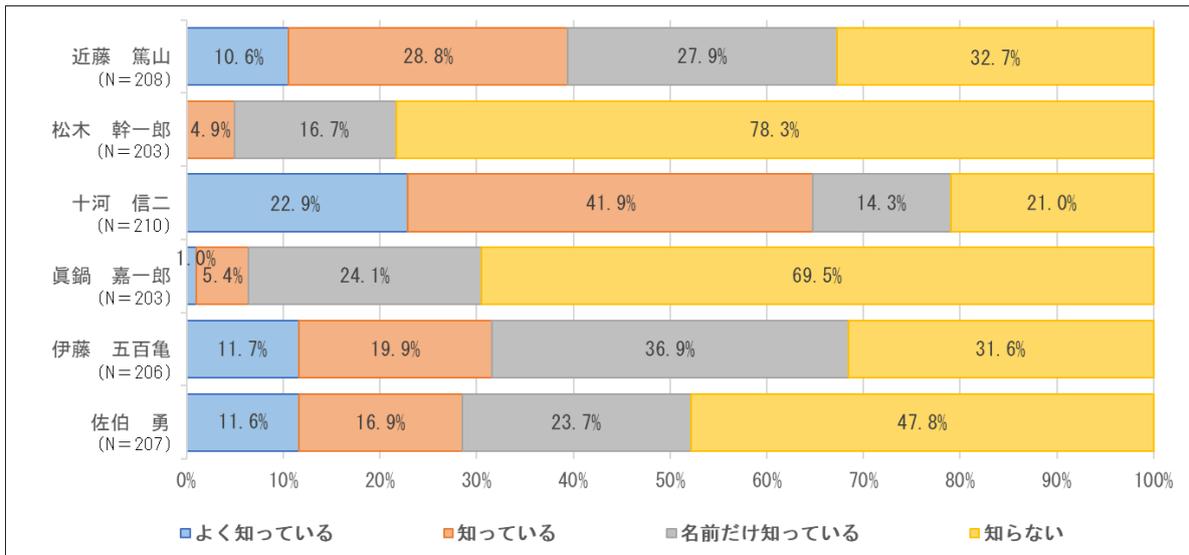
図表 6-27、6-28、6-29 によると、年齢が高くなるにつれて、ふるさとの先人に対する知識を有していると回答した比率が高くなる傾向にある中、「近藤篤山」「十河信二」については、総じて知識を有していると回答した比率が高くなりました。また、60歳以上においては、「伊藤五百亀」「佐伯勇」においても、半数以上の方が「よく知っている」「知っている」「名前だけ知っている」回答する結果となりました。



図表 6-27 ふるさとの先人に対する知識（39歳以下）

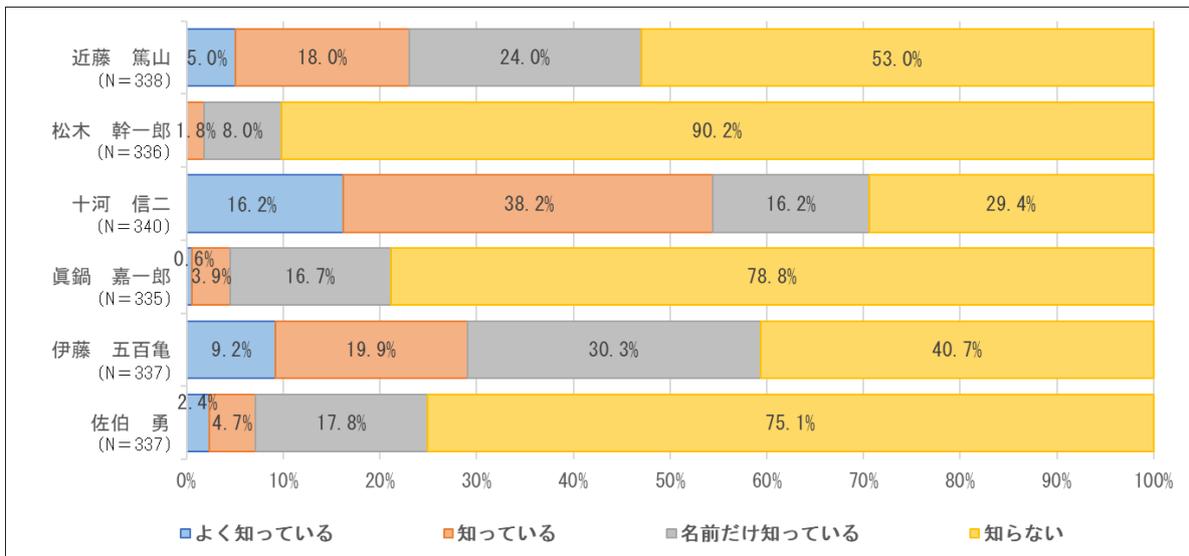


図表 6-28 ふるさとの先人に対する知識（40～59歳）

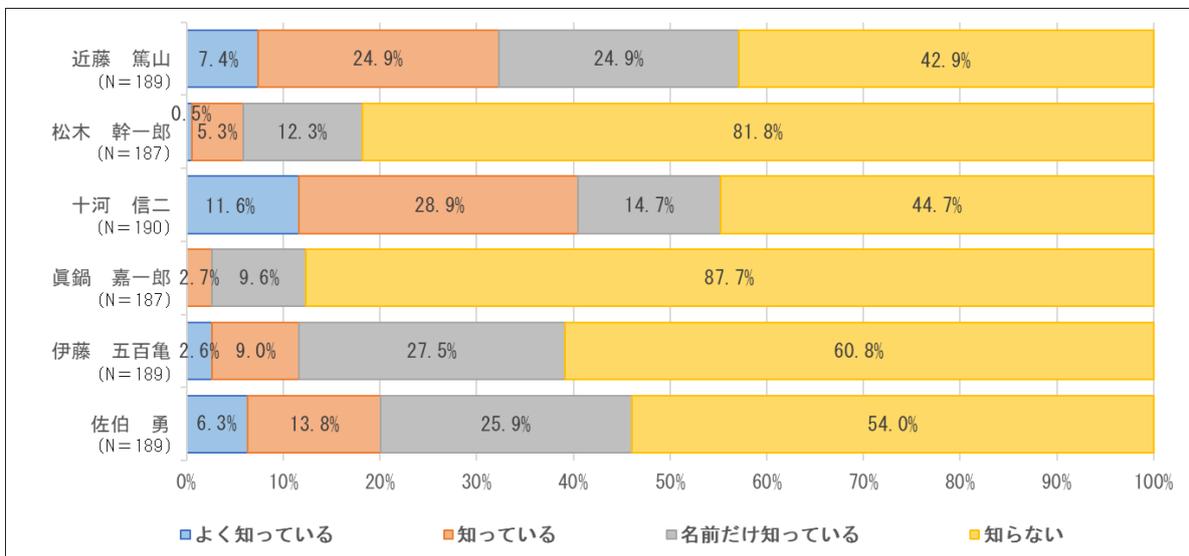


図表 6-29 ふるさとの先人に対する知識（60歳以上）

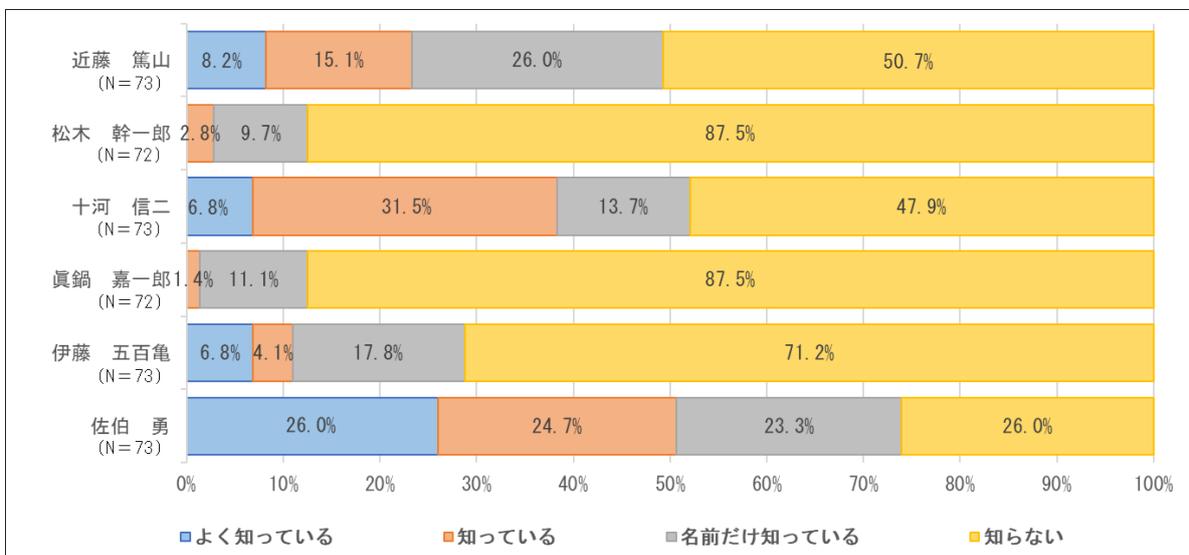
図表 6-30、6-31、6-32、6-33 によると、それぞれの先人にとって縁やゆかりのある地区において、「よく知っている」「知っている」「名前だけ知っている」回答した比率が高くなりました。



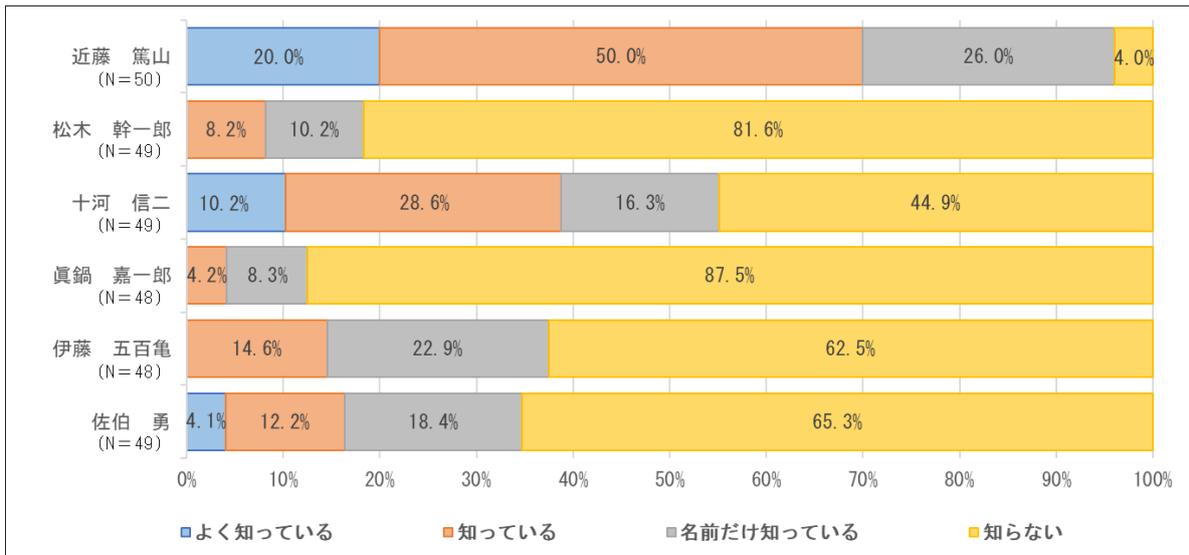
図表 6-30 ふるさとの先人に対する知識（西条地区）



図表 6-31 ふるさとの先人に対する知識（東予地区）



図表 6-32 ふるさとの先人に対する知識（丹原地区）



図表6-33 ふるさとの先人に対する知識（小松地区）

7 参考資料（アンケート用紙）

西条市の教育に関するアンケート調査へのご協力のお願い （市民用） ～みなさまのご意見をお聞かせください～

西条市では、「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」の実現に向けて、国、県、関係団体等との連携のもと、豊かな心をはぐくむ教育・文化を実感できるまちづくりを進めています。

令和2年度は、西条市の教育行政における根本的な方針となる「西条市教育大綱」を改定する年度にあたるため、市民の皆さまのご意見を将来の西条市の教育行政の方向性に反映させることを目的に、本アンケート調査を実施することとしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年11月 西条市長 玉井 敏久 西条市教育長 伊藤 隆志

調査の概要

- 1 この調査用紙は、令和2年10月1日時点で西条市に住民票を有している方の中から1,500名をランダムに抽出して配布しています。
- 2 この調査票は、個人を特定できないようになっており、調査終了後は速やかに廃棄いたします。
日ごろ、感じていることや思っていることをそのままご記入ください。
- 3 必ずご本人がご回答ください。
- 4 ご記入後、「調査票」を返信用封筒に入れて、12月7日(月曜日)までにポストへ投函してください。
- 5 ご不明な点などがありましたら、下記の担当へお問い合わせください。

※なお、本アンケートにつきましては、本市が策定する「第2期西条市総合計画」第5章「豊かな心を育む教育文化のまちづくり」の体系にもとづき実施いたしますが、そのうち人権・同和教育の内容については、令和元年度に別の市民アンケート調査を実施しているため、そちらのデータを活用することとしています。

〒793-8601
西条市明屋敷164番地
西条市経営戦略部政策企画課（担当：大久保・石水）
TEL：(0897)56-5151（内線2150）
E-mail：seisakukikaku@saijo-city.jp

② あなたは小中学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度は何だと思いますか。

- 1 英語を聞いたり話したりする力
- 2 環境やエネルギーを大切にする意識
- 3 健康や安全を自己管理する力
- 4 生き方や進路について考える力
- 5 教科の基礎学力
- 6 自ら学び、考え、主体的に行動する力
- 7 新しいものを生み出す創造力
- 8 表現力やコミュニケーション力
- 9 社会生活に必要な常識やマナー
- 10 社会に役立つ心や公共心
- 11 地域の伝統や文化を大切に国や郷土を愛する心
- 12 体力や運動能力
- 13 人間関係を築く力
- 14 その他（

第一選択欄
第二選択欄

)

③ ②で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策は何だと思いますか。

- 1 英語教育の推進
- 2 環境やエネルギーを大切に教育の推進
- 3 体力向上や健康教育の推進
- 4 道徳教育の推進
- 5 食育の推進
- 6 いじめ・不登校対策の推進
- 7 こどもの貧困対策
- 8 教員の資質向上
- 9 ICT教育の更なる推進（タブレット導入、プログラミング教育の推進など）
- 10 教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保
- 11 学校の施設や設備の充実
- 12 学校支援ボランティアなど家庭や地域が学校を支える仕組みの充実
- 13 学校の教育活動や運営状況に関する情報発信
- 14 その他（

第一選択欄
第二選択欄

)

④ あなたは小中学校の学習環境を考える上で何を重視すべきだと思いますか。

- 1 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 2 異学年間の交流が生まれやすい
- 3 学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる
- 4 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい
- 5 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える
- 6 地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統を生かした教育が受けられる
- 7 クラス替えができる
- 8 クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることのできる
- 9 合唱、団体競技などの集団での学習や体験活動の機会が確保しやすい
- 10 男女比の偏りが生じにくい
- 11 その他（

第一選択欄
第二選択欄

)

⑤ 西条市では、現在のところ小中学校を統廃合するという考えを有していませんが、小学校においては、令和27年（2045年）までに市内半数が1学年10人以下の児童数になると想定されています。あなたのお子様が未来の小学校に通うと仮定した場合、あなたの考え方に最も近いものはどれですか。

- 1 複式学級の小学校に通わせたい
- 2 児童数が少なくても、複式学級になるまでは1学年1学級の小学校に通わせたい
- 3 一定程度の児童数がある、1学年1学級の小学校に通わせたい
- 4 一定程度の児童数がある、1学年2学級の小学校に通わせたい
- 5 一定程度の児童数がある、1学年3学級の小学校に通わせたい
- 6 一定程度の児童数がある、1学年4学級以上の小学校に通わせたい

選択欄

※ 複式学級とは

2つの異なる学年を1学級として編成して1名の教員が受け持つ方式。授業の進め方によっては相互に学び合う姿勢が身に付く一方で、教員が授業で関わる時間が複数の学年に分散するため、きめ細やかな指導をする時間が確保しにくいことが特徴です。

愛媛県教育委員会では、小学校の場合は原則として、引き続き2学年の児童数の合計が16人以下（ただし、第1学年の児童を含む学級にあっては8人以下）になった場合に複式学級を設置することとされており、既に南予地域では44.8%の小学校で複式学級が設置されています。

質問3 図書館についてあてはまるものを順番に選択してください。

※ 第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

⑥ あなたは、平均して1年間でどの程度、市内図書館を利用していますか。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週2～3回程度 |
| 3 週1回程度 | 4 月2～3回程度 |
| 5 月1回程度 | 6 半年に2～3回程度 |
| 7 年2～3回程度 | 8 年1回程度 |
| 9 利用していない | |

選択欄

矢印の部分は⑥で1回でも市内の図書館を利用したことがあると回答した方にお聞きします。



⑦ あなたは、図書館の利用環境に満足されましたか。

- | | |
|-------------|----------|
| 1 満足した | 2 やや満足した |
| 3 どちらとも思わない | 4 やや不満足だ |
| 5 不満足だ | |

選択欄

次のページへ続く

矢印の部分は⑦で1回でも市内の図書館を利用したことがあると回答した方にお聞きします。

⑧ あなたは、主にどちらの図書館を利用しましたか。

- | | |
|---------|-----------|
| 1 西条図書館 | 2 東予図書館 |
| 3 丹原図書館 | 4 小松温芳図書館 |
| 5 移動図書館 | |

選択欄

⑨ あなたは、主に何を目的に図書館を利用しましたか。

- | | |
|-----------------------|-----------|
| 1 本を借りる | 2 雑誌を借りる |
| 3 CDやDVDを借りる | 4 館内で本を読む |
| 5 館内で新聞や新刊雑誌を読む | |
| 6 予約やリクエスト、読書相談をする | |
| 7 趣味や娯楽、生活のための調べ物をする | |
| 8 勉強や仕事、研究のための調べ物をする | |
| 9 地域社会での活動に役立つ調べ物をする | |
| 10 特集コーナーや本の展示を見る | |
| 11 学習コーナーで勉強する | |
| 12 図書館で開催されたイベントに参加する | |
| 13 その他 () | |

第一選択欄
第二選択欄

ここまで

⑩ あなたは図書館に関連して、今後力を入れるべき点は何だと思えますか。

- 1 貸出および閲覧書籍の充実
- 2 雑誌・新聞の充実
- 3 図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入
- 4 館内や屋外広場を使用した様々なイベントの充実
- 5 館内での飲食を可能とする
- 6 館内での会話を可能とする
- 7 自分が住むまちの情報の充実
- 8 調べ物や読書などの相談ができる環境の充実
- 9 閲覧席の更なる充実
- 10 学習の場の更なる充実
- 11 その他 ()

第一選択欄
第二選択欄

質問 4 公民館についてあてはまるものを順番に選択してください。

※ 第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

⑪ あなたは、平均して1年間でどの程度、地区の公民館を利用していますか。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週2～3回程度 |
| 3 週1回程度 | 4 月2～3回程度 |
| 5 月1回程度 | 6 半年に2～3回程度 |
| 7 年2～3回程度 | 8 年1回程度 |
| 9 利用していない | |

選択欄

矢印の部分は⑪で1回でも地区の公民館を利用したことがあると回答した方にお聞きします。



ここまで

⑫ あなたは、地区の公民館の利用環境に満足されましたか。

- | | |
|-------------|----------|
| 1 満足した | 2 やや満足した |
| 3 どちらとも思わない | 4 やや不満足だ |
| 5 不満足だ | |

選択欄

⑬ あなたは、公民館活動を通じて身に付けた知識・技術をどのような形で活かしていますか。

- 1 人間関係を広げ、仲間づくりにつなげている
- 2 趣味や特技に活かしている
- 3 健康の維持、増進に役立っている
- 4 活動をとおして人生を豊かにしている
- 5 日常生活に活かしている
- 6 まちづくり、地域づくりに活かしている
- 7 ボランティアなど地域活動に活かしている
- 8 知識や資格の習得につなげている
- 9 学習、スポーツなどの指導に活かしている
- 10 特に活かしていることはない
- 11 その他 ()

第一選択欄
第二選択欄

⑭ あなたは公民館にどのような事業を期待しますか。以下の1から12までのすべての項目について、該当するところに○を付けてください。

項 目	期待度				
	期待する	やや期待する	どちらとも言えない	あまり期待しない	期待しない
(記入例) ○○○の○○○○○○○○事業	5	4	3	2	1

ここから下が質問です						
1	健康・スポーツに関する事業	5	4	3	2	1
2	趣味に関する事業	5	4	3	2	1
3	地域の防災に関する事業	5	4	3	2	1
4	家庭や子育てに関する事業	5	4	3	2	1
5	地域課題解決に関する事業	5	4	3	2	1
6	地域住民や団体間のネットワークづくりや強化に関する事業	5	4	3	2	1
7	子どもの安全・安心な居場所づくりや体験活動に関する事業 (放課後子ども教室)	5	4	3	2	1
8	子どもの学習支援活動に関する事業(地域未来塾)	5	4	3	2	1
9	自然、社会体験ができる事業	5	4	3	2	1
10	青少年教育の推進に関する事業	5	4	3	2	1
11	地域の歴史・文化に関する事業	5	4	3	2	1
12	環境に関する事業	5	4	3	2	1

質問5 地域文化・歴史文化についてあてはまるものを順番に選択してください。

※ 第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

⑤ あなたは、どのジャンルの芸術文化に興味関心がありますか。

- 1 小説や詩などの文学
- 2 コンサートや合唱などの音楽
- 3 絵画や彫刻・陶芸などの美術
- 4 風景や人物などの写真
- 5 劇やミュージカルなどの演劇
- 6 バレエやダンスなどの舞踊
- 7 映画や漫画・アニメなどのメディア芸術
- 8 歌舞伎などの芸術芸能
- 9 落語や漫才などの芸能
- 10 茶道や書道などの生活文化
- 11 囲碁や将棋などの国民娯楽
- 12 興味関心が無い
- 13 その他 ()

第一選択欄
第二選択欄

- ⑯ あなたは次のジャンルの芸術文化について、どの程度触れる機会（鑑賞や参加など）に恵まれていると感じますか。以下の1から11までのすべての項目について、該当するところに○を付けてください。

項目		充実度				
		恵まれている	やや恵まれている	どちらとも言えない	あまり恵まれていない	恵まれていない
1	小説や詩などの文学	5	4	3	2	1
2	コンサートや合唱などの音楽	5	4	3	2	1
3	絵画や彫刻・陶芸などの美術	5	4	3	2	1
4	風景や人物などの写真	5	4	3	2	1
5	劇やミュージカルなどの演劇	5	4	3	2	1
6	バレエやダンスなどの舞踊	5	4	3	2	1
7	映画や漫画・アニメなどのメディア芸術	5	4	3	2	1
8	歌舞伎などの芸術芸能	5	4	3	2	1
9	落語や漫才などの芸能	5	4	3	2	1
10	茶道や書道などの生活文化	5	4	3	2	1
11	囲碁や将棋などの国民娯楽	5	4	3	2	1

- ⑰ あなたはふるさとの歴史文化に誇りや愛着を有していますか。

- 1 有している 2 やや有している
3 どちらとも思わない 4 あまり有していない
5 有していない

選択欄

- ⑱ あなたはふるさとの先人の教えに学ぶ機会が充実していると感じますか。

- 1 充実していると感じる 2 やや充実していると感じる
3 どちらとも思わない 4 あまり充実していると感じない
5 充実していると感じない

選択欄

- ⑱ あなたは次のふるさとの先人について、どの程度の知識を有していますか。以下の1から6までのすべての項目について、該当するところに○を付けてください。

項 目		認知度			
		よく知っている	知っている	名前だけ知っている	知らない
1	近藤 篤山	4	3	2	1
2	松木 幹一郎	4	3	2	1
3	十河 信二	4	3	2	1
4	眞鍋 嘉一郎	4	3	2	1
5	伊藤 五百亀	4	3	2	1
6	佐伯 勇	4	3	2	1

アンケートは以上です。
ご協力ありがとうございました。